

14  
219

宗教哲學



主 井上圓了 講述  
館内員 安藤弘 筆記

宗

教

哲

學



講者曰ク余ハ前學年ニ於テ理論的宗教學ト題シ歴史上近世初年ノ哲學諸家  
ト題シ來リテレツシノクノ說ニ至リ學年ノ終期ニ及ヒタルハ此  
ト題シ完結セシモ本年ニ於テハ更ニ之ガ續講ヲナサントシ宗教哲學ト題  
シ近世哲學中興ノ祖タルカント氏ノ說ニ端ヲ發シ序ヲ逐フテ諸家ノ說ヲ講  
スヘシ

カント氏宗教哲學

セザルベカラズ氏ハ近世哲學中興ノ祖ト稱セラル、人ニシテ自家獨得ノ見ヲ以  
テ從來ノ哲學ヲ論破シ、新一機軸ヲ出シテ確固タル基礎ノ上ニ一家ノ哲學ヲ組  
織シタルモノナリ、勿論氏ガ哲學ノ起因ハ其以前ノ諸說ニ基ツキタルモノナレド  
モ、從來ノ哲學タル其基礎ノ鞏固ナラサルカ爲ニ、往々論點ノ動搖ヲ免カレザリシ

カバ、氏ハ更ニ堅牢ナル基礎ノ上ニ其哲學ヲ築キタリ。蓋シ氏以前ノ哲學ハ概シテ二派ニ分レ、一ヲ獨斷學派ト云ヒ一ヲ經驗學派ト云フ。獨斷學派ニ於テハ人ノ知識道理ハ正確ナルモノニシテ總テ思想上ニ顯ハル、モノハ決シテ疑フヘカラサルモノナリト假定シ、經驗學派ニ於テハ之ニ反シ凡テ外界ノ事物ハ真正ナルモノニシテ之ニヨリテ生スル所ノ知識ハ決シテ誤ルコトナシト假定シ各其哲學ヲ組織セリ。此ノ如ク一ハ思想ヲ確實ナリト獨斷シ、一ハ經驗ヲ真正ナリト假定シ、以テ其論法ヲ進ムルガ故ニ、各一方ニ偏スルノ弊アリ、從テ其論礎亦極メテ鞏固ナラス、彼等ハ思想ハ正確ナリト信シテ思想其者ノ如何ヲ知ラス、經驗ハ誤謬ナシト考ヘテ經驗其者ノ成立ヲ顧ミズ、是ニ於テカントハ此等ノ欠點ヲ看破シ、一新面目ヲ哲學界中ニ開キタリ。但シ氏ノ以前ニ在リテ英國ノヒューム既ニ此等ノ弊ヲ破斥シ、以テ一新說ヲ立テ、コトヲ企テシモ、惜ムヘシ其說遂ニ懷疑ニ陥リ、完全ナル哲學ヲ組織スルコト能ハザリキ。又當時佛獨等ノ諸國ニ於テハ、其初メ高尙ナリシ哲學モ、漸次通俗ニ傾キ、淺近ニ流レ、委微振ハサルノ有様トナリシガ、カント出テ、此類勢ヲ挽回シ、尙一層高尙深奧ノ度ニ進メタリ。之ニ加フルニ氏ハ從來論争ノ絶ユルコトナク調和スルヲ得サル兩學派ヲ折衷シ、其相一致スル點ヲ發見シ、以テ兩者ヲ成立セシムルコトヲ得タリ。以上ノ諸點ハ即チカントガ近世哲學中興ノ稱アル所以ナリ。

茲ニ主觀ト客觀トアリ、經驗學派ハ曰ク、主觀ハ客觀ニ附屬シ、常ニ之カ爲ニ支配制限セラル、モノナリト、獨斷學派ハ曰ク、客觀ハ主觀ニ屬シ、常ニ之カ爲ニ支配制限セラル、モノナリト、其說全ク相反シテ氷炭相容レサルノ有様ナリ。カントハ此兩說ヲ折衷シ、主觀的ノ我心ハ實際上ヨリ云ヘバ、自由ノ力ヲ有シ、外界ノ事物ヲ制限シ得ルモノナリ。然レドモ理論上ヨリ論スルトキハ、主觀ハ客觀ノ制限ヲ受ケ、外物ヲ待チテ初メテ成立ツモノナリトス。故ニ氏ノ哲學ハ理論ト實際トノ二方ヨリ成リ、其理論ニ屬スルモノヲ純正道理批判(純理批判)ト云ヒ、其實際ニ屬スルモノヲ實際道理批判(實理批判)ト云フ。

純理批判ヨリ見レバ吾人ノ心ハ外界ノ制限ヲ受ケ、外界ノ事物我心ニ入りテ始メテ知識ヲ生ス。故ニ外界ハ能動ニシテ内界ハ所動ナリ。又實理批判ヨリ云ヘバ主觀ハ能動ニシテ、自由ノ力ヲ有シ、外界ヲ支配スルコトヲ得ルモノナリ。且ツ理論上ニ於テモ主觀ノ我心ハ外界ノ材料ヲ待チテ始メテ知識思想ヲ生スルモノナレドモ、其

所謂知識ニハ主客兩觀ヲ含有セリ、何トナレバ吾人ガ一物トシテ認識スル  
 一  
 一ヲ得ルハ主觀ノ我ト客觀ノ事物ト結合シテ成リ立ツモノナレバナリ、而シテ其  
 外物ヲ認識スル所ノ力ハ、我心内ニ先天的ニ存在セルモノナリ、此ノ如クシテカ  
 トハ知識經驗ハ如何ニシテ生スルモノナリヤト云フニ論及シ、以テ從來諸家ガ  
 假定セシモノヲ尙一層深ク批評審査スルノ目的ヲ以テ講究セリ、故ニ氏ノ哲學ヲ  
 批判哲學ト云フ、又氏ノ哲學ヲ稱シテ超理的哲學(Transcendental Philosophy)トモ云  
 フ、超理的トハ吾人ガ我知識ヲ以テ外界ノ事物ヲ研究スルニ、外物其者ノ本體ニ到  
 レバ思想更ニ一步モ進ムヲ得ズ、却リテ後ロニ反戻セラル、ノ感アリ、故ニ物ノ本  
 體ハ思想外ニ超然タルモノニシテ、吾人ノ知識ハ只外界ノ現象ヲ包括スルニ過キ  
 ス、然レモ亦敢テ物ノ本體ハ我知識ヲ以テ全ク搜索スヘカラサルニアラス、唯我知  
 識ハ現象ト本體トノ境界ニ達シテ其本體アルヲ望見スルノミニテ其境遇ニ超入  
 スルヲ能ハサルナリ。

又カントノ說ニヨルニ吾人ノ知識ニハ形ト質トアリ、即チ知識其者ヲ組立ツル所  
 ノ形式ト之ヲ滿タス所ノ體質トアリテ始メテ知識ヲ生ス、而シテ其所謂形式ハ先天  
 的ニ存在スル者ニシテ、體質ハ五官ヲ經テ入ル所ノ外界ノ現象是ナリ、故ニ知識ハ  
 主客兩觀相結合シテ生スルナリ、氏ハ又心ヲ覺性悟性ノ二種ニ區別シ、其二者ニ亦  
 何レモ、外界ヨリ得來タル後天的ノモノト先天的ニ内界ニアルモノトノ二種アリ  
 トス。

先ツ覺性ニ就テ云ヘバ、吾人ガ五感ノ媒介ヲ經テ外界ノ事物ヲ感覺スルヲ得ル  
 ハ主觀ニ於テ時間空間ノ先天的形式アルヲ以テナリ、論者或ハ時間空間ヲ以テ外  
 物ニ屬スルモノナリト云フ人アリ、若シ果シテ外物ニ屬スルモノナラバ外物ノ滅  
 スト同時ニ時間空間モ滅スベシ、然ルニ吾人ノ思考中ニ於テ外物ノ悉皆消滅シテ  
 宇宙無一物ノ世界ニ達スト云フハ之ヲ考ヘ得ベキモ、時間空間ノ消滅ハ到底考  
 察スルヲ得ズ、而カモ如何ナル事物ヲ問ハズ之ヲ感覺スルニハ時間空間ノ關係セ  
 サルモノナシ、故ニ時間空間ハ吾人ノ心アル以上ハ決シテ心ヲ離ル、トナク外物  
 ニ先チテ先天的ニ存在シ、且ツ無限ナルモノナリ、又氏ハ悟性ノ上ニ十二ノ原則ヲ  
 考定シ、吾人カ感覺上或ハ見或ハ聞キ或ハ觸レテ其冷暖堅柔方圓等ノ性狀ヲ結合  
 シ以テ單一トナシ、此レハ一物ナリト吾心ニ認識スルカハ先天的ニ存在セルモノ

ナリトシ、覺性悟性共ニ先天的形式ノ存在セルヲ論定セリ。然ラバ外界ノ事物ハ吾人ノ知識ヲ以テ果シテ知リ盡スヲ得ベキカ、曰ク吾人ノ知ル所ノモノハ唯其外物ノ現象ナリ。外界ハモト時間空間ヨリ成立タルモノニシテ、其時間空間ハ吾心ノ上ニアルモノナレバ、若シ吾心ノ上ニ時間空間ヲ取除カバ外物ナル者ナシ。故ニ外界ノ現象ハ吾心ノ上ニ顯ハレタルモノノミ。然レドモ其外物ノ本體ニ至テハ吾人ノ知識ノ得テ窺ヒ知ル所ニアラズト。

カントノ純理批判ニ於テ論スル所ハ大略上ニ述フル如クニシテ、神及ヒ道德上ノ元則ノ如キハ悉ク之ヲ排斥セリ。然レドモ實理批判ニ於テハ主觀ヲ以テ能動トスルモノナレバ神ナルモノヲ立テ道德上ノ原則モ定メタリ。故ニ純理批判ト實理批判トハ二者全ク相異リテ恰モ一手ノ表裏ヲ顯ハスガ如シ、而シテ此兩者ノ結論ヲ爲セシハ断定批判ナリ。此實理批評ハ宗教哲學ニ關係ヲ有スルヲ以テ後ニ細論セントス。今聊カカント氏ノ年代ヲ擧ケレハ氏ハ千七百二十四年四月廿二日ヲ以テ獨逸クンヒバルフニ生レ、長シテ其地ノ大學教授トナレリ。其著書タル純理批判ハ一千七百八十一年ニ、實理批判ハ千七百八十七年ニ、断定批判ハ千七百九十年ニ發

行シ、一千八百〇四年二月十二日ヲ以テ遠逝セリ。

次ニカントノ宗教哲學ヲ講スル前ニ、尙ホ從來宗教哲學上ニ各哲學者カ論究セシ順序ヲ略述セサルベカラズ。抑モ宗教ヲ哲學的ニ論セシハ、スピノザヲ以テ其嚆矢トス。勿論哲學全體ノ上ヨリ云ヘハデカトヲ以テ始祖トスト雖モ、氏ノ宗教說タル耶蘇教ニ立ツル神ヲ用ヒシモノナレバ哲學トシテ考フヘキ價值ナシ。然ルニス|ピノザハ宗教ヲ哲學ノ上ニ説キ純然タル宗教哲學ヲ組織シタルモノナレバ、氏ハ實ニ宗教哲學ノ元祖ト云ハザルベカラズ。氏ノ説ハ萬有神教ノ上ニ論シ出シ、世界万有ノ本體ヲ以テ神トシ、物ト心トハ神即チ本質ノ上ニ顯ハレタル屬性トナシ、其結局吾人ガ神ニ達スルハ、外ニ求ムルヲ要セズ、内ニ省ミテ心内ノ極メテ高尙ナル道理的思想ノ本體ニ到達セバ、神ト合一スルヲ得ベシト云ヘリ。故ニ氏ノ説ハ内界ニ偏スル宗教論トナリ、外物ノ上ニ欲念ヲ起スヲ抑制シ、單ニ内界ノ清淨高尙ナルヲ願求シ、遂ニハ遁世脱俗ノ風ヲ起サシムルニ至レリ。之ニ反シテ外界ニ神ヲ立テシハライブニツナリ。氏ハ外界ニ神ノ存在スルヲ唱フレドモ、其説耶蘇教ニ説ク所トハ異リ、道理ヲ以テ基本トシテ耶蘇教ノ神ヲ説明セシナリ。故ニス|ピノザト

ライプニッツトハ其説全ク相反シテ内外ノ區別ヲナシ前者ハ厭世ニ過キ後者ハ樂天愛世ニ傾クニ至レリサレバ耶蘇教者ハライプニッツヲ得テ大ニ理論ノ援助ヲ得タリシガ如ク佛教家モスピノザノ説ヲ研究セバ得ル所亦々鮮少ナラザルベシ此ノ如ク二氏反對ノ地ニ立チテ相争ヒシガ其ノ以後漸次淺近ニ流シ獨逸ニアリテハウラルフライプニッツヲ襲ヒシモ却テ淺薄トナリ佛國モ亦々絶エテ高尚ナル理論ヲ唱フルモノナク英國ノ唯心派ハ元來宗教上ニ高尚ノ理論ヲ用ヒザルモノナレバ其説亦通俗ニシテ元ヨリ論スルニ足ラズ然ルニカントノ以前ニ當リテ再ヒ宗教哲學ヲシテ高尚ナラシメカントニ向テ其講究ノ道ヲ開キシモノハ英國ノヒューム獨逸ノレッシングナリヒュームハ從來ノ諸説ヲ悉ク破壊シ消極的ニ其道ヲ開キタリ當時英國ノ唯心論者ハ經典ノ文字歴史上ノ事實等ノ上ニ於テノミ論争セシガヒュームハ歴史經典ヲ以テ神ノ在否ヲ考定スルカ如キハ固ヨリ無用ノ争論トシ且ツ學理上ノ論究モ未ダ以テ信スルニ足ラストシテ之ヲ排斥シテ曰ク吾人ガ實際上神アリト信スルハ原因結果ノ規則ニ從ヒ此世界アレバ必ス能造ノ神アリト想像スルニ由ルモノナリ然レドモ是レ吾人ガ目撃スル狹隘ナル境遇ニ於テ經驗上

發見セシ事實ノミ之ヲ如何シテ經驗外ナル神ノ上ニ適用スルヲ得ンヤト其極遠ニ懷疑ニ陷レリ然レドモ氏ガ破壊セシ爲ニ再ヒ新基礎ノ上ニ更ニ新家屋ヲ改築セサルヲ得ザル場合トハナレリ又レッシングハ之ニ異リテ積極的ニ其道ヲ開キ直接ニカントノ前驅ヲナセリ氏ハ從來ノ學者ガ文字言語ノ上ニ宗教ヲ説キシヲ非難シ宗教ハ文字ノ上ニアルニアラス宗教ハ尙ホ深キ處ニ宗教ノ源アリテ經典ハ深キ處ニアル宗教心ヲ開發スル所ノ教育的ノモノニ過キズト論セリ是即チカントニ講究ノ道ヲ與ヘシモノニシテレッシングガ宗教ハ人心中心ニアリト云ヒシヲカントハ更ニ進ミテ如何ニシテ人心中ニ宗教ノ存在スルカヲ講究シ確然タル基礎ノ上ニ學理上ノ組織ヲ以テ宗教哲學ヲ論ゼリ

カントノ哲學ハ之ヲ批判哲學ト云ヒ其宗教哲學モ亦批判的宗教哲學ト云フ而ソカントノ説ハ其源スピノザライプニッツヨリ起リシモノナレバ批判的宗教哲學ハスピノザニ始マリテカントニ至リ大成シタルモノト云フベシ

上來カント哲學ノ大綱ヲ説キシガ其宗教説タル大ニ知識論ト關係スルヲ以テ今將ニ其宗教哲學ヲ講セントスルニ當リテモ尙幾分カ知識論ヲ混説セサルヘカラ

ス。依テ余ハ既ニ其大躰ヲ述ヘシニモ關ハラズ、茲ニ再ビ其要ヲ摘ミテ知識論ヲ講スベシカントノ知識論ハ二種ノ本原ヨリ成ル、一ハ經驗一ハ思想ナリ。即チ物ト心トハ二者相待チテ知識ヲ生スルナリ。英國ノロツクハ知識ハ經驗ヨリ來ルトナシ、獨逸ノライブニツハ知識ハ本來具ハレルモノトセシガカントハ此兩説ヲ取リ、一部分ハ本來具有シ、一部分ハ外界ノ經驗ヨリ得ルモノトセリ。而シテ心ヲ覺性(感覺)ト悟性(理解)トニ分チ、二者共ニ先天性アリトス。即チ覺性ニハ時間空間ヲ以テ先天性直覺トナシ、悟性ニハ十二ノ原則ヲ以テ先天性思想トス。抑モ吾人ノ心ニアリテ感覺經驗スル所ノモノハ時間空間ノ先天的直覺ヲ離ル、一ナク、又吾人ガ一物ヲ一物トシテ認識スルハ個々別々ナルモノヲ集メテ一物トスル先天性思想ノ力アルヲ以テナリ。故ニ外界ノ現象ハ總テ心ノ上ニ顯ハレタルモノナリトス。是ニ於テカントノ說唯心論ニ傾クカ如シ。然レトモ外界ノ事物其者ノ本躰ニ至リテハ吾心ヲ離レテ獨立現存スルモノナリ。其本躰ト現象トノ間ニハ之ヲ隔離スル所ノ一ノ界線アリテ吾人ノ覺性悟性此點ニ至レバ直ニ反戻セラレ、如何ナル方法ヲ以テスルモ本躰ノ何如ハ到底之ヲ窺ヒ知ルヲ得ズ。然ラハ其本躰ノ實存セリト云フコトハ如何ニシテ知ルヲ得ヘキカ。氏ハ之ニ答フルニ消極的ノ説明ヲ以テシ、吾人ノ知識本躰ヲ探ラントシテ其界線ニ至リ反戻セラル、ハ此レ本躰ノ反射ニシテ本躰アルノ證ナリト。然レドモカント哲學ノ難問ハ實ニ此點ニアリテ、本躰ハ知ルベカラザルモノトシテ、カラ何ヲ以テ其ノ現存ヲ知り得ルカ、既ニ知ルヲ得ズ何ヲ以テ知識ト本躰トノ分界ヲナスヤ、氏モ亦此點ニ於テハ其説明十分ナラス。氏ノ考ニヨルニ凡ソ現象アルモノハ必ズ其本躰アルヘシ、吾人ノ心中ニ先天ノ事情アルガ故ニ、能ク外界ノ事物ヲ經驗スルコトヲ得、ト同シク物ノ現象アル以上ハ又其本躰ノ存セサル理ナシト。然レドモ或ル場合ニ於テハ氏自身モ其本躰ノ存在ヲ疑ヒ判然其決心ナキカ如ク見ユル所アランドモ、兎ニ角結論ニ至リテハ本躰アリト定メタリ。

カントノ純理批判ニ於テノ長所ハ先天性ノ存在ヲ吾人ニ示セシニアリ。コトハ既ニ其要領ヲ略述セシガ、思想上ノ先天性ニハ氏ハ十二ノ原則ヲ立テ之ヲ數理ニヨリテ證明セリ。數理ハ吾人ガ實際上外物ニ適用スルニ際シ、若シ事實ノ數理ニ齟齬スルコトアルキハ、必ズ事實ヲ以テ誤レリトシ、再ヒ事實ヲ驗スルニ皆然ラサルハナシ。例セバ三角ノ和ハ二正角ニ等シトハ吾心ニ具ハレル數理ナルガ、若シ事實上三角

ノ和二正角ニ全シカラサレバ必ス事實ニ於テ誤リアルヲ發見スベシ。是レ數理ハ吾心ニ固有シテ普遍必要ノ性質ヲ具フルモノナレバナリ。普遍トハ何ノ處何ノ場合ヲ問ハズ同シク一ト二ト合シテ三トナレルガ如ク、必要トハ如何ニスルモ必ス然ラザルヲ得サルモノヲ云フ。此普遍必要ノ二性ヲ具フルモノヲ以テ眞理トス。今二ト三トヲ合シテ五トナルハ正確疑フヘカラザルコトナリ。然レトモ二ト三トヲ五ニ比スルニ五ヲ以テ多シトス。何トナレバ實際上二ト三トヲ其儘ニシテ五トナルニハアラス。二ト三トヲ吾心ニ於テ先天的統合ノカヲ以テ統合シテ五トスルガ故ニ五トナルナリ。サレバ五ヲ以テ二ト三トヨリハ多シトセサルヘカラズ。彼ノ英國派ノ學者ハ常ニ經驗ヲ口ニス。雖モ經驗ノミニテ知識ノ生スルニアラス。之ヲ統合シテ知識トナスハ實ニ我心ノ上ニアリ。

前述セシ如ク、カントハ吾人ガ外界ノ事物ヲ感覺經驗シ之ヲ我心ノ上ニ結合スルヲ得ルハ畢竟我心ノ本體一ナルガ故ナリトシ、此主觀ノ本體ヲ名ケテ自覺ノ體ト云フ。而シテ主觀ト客觀トハ並立スルモノナレハ、主觀ニ於テ自覺アリト云フト同時ニ外界現象ノ本體ナルモノハ存在セサルヘカラズ。假令之ヲ知ルヲ得サルモ其存在ハ明了ニシテ疑フヘカラズト云ヘリ。由此觀之氏ノ說ハ人ノ知識感覺經驗ハ皆自覺ノ上ニ顯ハンタル主觀的ノモノニシテ、客觀事物ノ本體ハ別ニ我心ヲ離レテ存在ストシタルナリ。然レトモ氏ハ既ニ外物ノ本體ハ或ル限界ノ爲ニ遮斷セラレ之ヲ知ルヲ得ズト唱ヘナガラ、外物ノ本體アルハ疑フヘカラスト云ヒシハ氏カ哲學ノ一大缺點ニシテ論理上ノ拙著ヲ免レズ。蓋シ氏ハ從來ノ二元論トハ相異ナリト雖モ亦一種ノ二元論ヲ主唱セシ人ニシテ、其以前ノ二元論ハ單ニ物心ノ現象上ニ説キタルモノナリシモ氏ハ本體ノ上ニ二元ヲ分ツニ至レリ。若シ果シテ本體ノ上ニ二元ノ別アルモノナラバ物ノ本體ノ我心ニ知ラルベキ理ナキハ勿論ナルニ心ノ外ニ此本體アリト断定セシハ氏ノ欠點ナリ。故ニ此論ヲ更ニ一步進メテ物心ノ本體一ナリト云ヘル一元論トセバ明カニ領會スルヲ得ベキナリ。是ヲ以テ氏ノ以後フヒテ、セーリング、ヘーゲル等皆カントノ二元論ヲ進メテ一元論ノ方向ヲ取レリ。然ラバ何故ニカントハ一元マデ説キ及ホサバリシカ、是レ氏ガ從來ノ哲學ヲ引繼キテ折衷説ヲ唱ヘタルモノナレバ其見識ノ未ダ此點ニ達セザリシモ道理ナリ。蓋シ氏ノ以前ニハ一派ノ論者ハ外界ヲ本トシ一派ノ論者ハ内界ヲ主トシ其

存在ハ明了ニシテ疑フヘカラズト云ヘリ。由此觀之氏ノ說ハ人ノ知識感覺經驗ハ皆自覺ノ上ニ顯ハンタル主觀的ノモノニシテ、客觀事物ノ本體ハ別ニ我心ヲ離レテ存在ストシタルナリ。然レトモ氏ハ既ニ外物ノ本體ハ或ル限界ノ爲ニ遮斷セラレ之ヲ知ルヲ得ズト唱ヘナガラ、外物ノ本體アルハ疑フヘカラスト云ヒシハ氏カ哲學ノ一大缺點ニシテ論理上ノ拙著ヲ免レズ。蓋シ氏ハ從來ノ二元論トハ相異ナリト雖モ亦一種ノ二元論ヲ主唱セシ人ニシテ、其以前ノ二元論ハ單ニ物心ノ現象上ニ説キタルモノナリシモ氏ハ本體ノ上ニ二元ヲ分ツニ至レリ。若シ果シテ本體ノ上ニ二元ノ別アルモノナラバ物ノ本體ノ我心ニ知ラルベキ理ナキハ勿論ナルニ心ノ外ニ此本體アリト断定セシハ氏ノ欠點ナリ。故ニ此論ヲ更ニ一步進メテ物心ノ本體一ナリト云ヘル一元論トセバ明カニ領會スルヲ得ベキナリ。是ヲ以テ氏ノ以後フヒテ、セーリング、ヘーゲル等皆カントノ二元論ヲ進メテ一元論ノ方向ヲ取レリ。然ラバ何故ニカントハ一元マデ説キ及ホサバリシカ、是レ氏ガ從來ノ哲學ヲ引繼キテ折衷説ヲ唱ヘタルモノナレバ其見識ノ未ダ此點ニ達セザリシモ道理ナリ。蓋シ氏ノ以前ニハ一派ノ論者ハ外界ヲ本トシ一派ノ論者ハ内界ヲ主トシ其

說全ク相反對シ水火相容レザル有様ナリシヲ以テ氏ハ之ヲ結合セントシタルモ  
 ノナレバ未ダ此ノ如ク性質ノ反對シタリシモノ、其本一元ナリトハ考ヘ得ザリ  
 シナルベシ然レドモ純理批判ヲ讀ムニ其說一元論ノ門戸ニ達セルヲ覺ユ氏モ或  
 場合ニ於テハ感覺以上ニ至レバ物心ノ本體ガ或ル一ノ基礎ヨリ成立セルカ如キ  
 言ヲ發セシテアリ而シテ斷定批判ニ於テハ純理批判ト實理批判トニ說キシテ結ビ  
 シモノナレバ物心二者ヲシテ稍一致セシムルカ如ク說キタリ故ニ氏ノ說ハ其表  
 面ニ於テハ二元論ナルモ其内實ハ一元論ヲ含有セリ是レカントガ後世學者ニ講  
 究スヘキ餘地ヲ與ヘタルモノト云フヘシ此ノ如ク氏ノ說ハ論理上完全ナルモノ  
 ト云フヲ得ザレドモ其以前ニ於テ單ニ現象ノ上ニ止マリシ問題ヲ更ニ進メテ其  
 本體ヲ發見シ以テ一元論ノ端緒ヲ開キ是ニ由テ氏以後ノ哲學ヲシテ益盛ナラシ  
 メシハ實ニ氏ノ功ト云ハザルヘカラス

ハ心ノ上ニ顯ハル、モ其現象ヲ與フル本體心外ニアリテ存セザルヘカラス  
 以テナリ而シテ之ヲ説明スルニ原因結果ノ理ヲ以テシ外物ノ現象我心ニ顯ハル、  
 以上ハ其原因タル實體ナカルヘカラストセリ此原因結果ノ原則ハ十二ノ原則中  
 ノ因果則(Causality)ナル一理ナリ此證明ハ論理ト撞着ヲ免カザル點ニシテ初メ  
 本體ハ別ニ獨立セルモノナリトシナガラ因果ノ原則ヲ當儀メテ此レ有ルヲ知ラ  
 ハ我ガ思想ヲ之ニ當儀メテ知ルニアラスヤ既ニ我知識ヲ實體ニ及ホシテ知ラハ  
 實體ナルモノハ我知識以内ニアリト云ハザルヘカラス是レ後ニフヒテガ物ノ本  
 體ヲ心内ニ入レテ唯心論ヲ完成セシ所以ナリ又カントハ外界ノ事物ハ常ニ變化  
 シテ止マラサルモノナレドモ此變化中ニ變化セザル基礎アリ即チ現象ト本體ト  
 ノ關係ナリ之ヲ十二原則中ニ本體則(Substance)ト云フ此原則ニヨルニ事物ノ基  
 礎タル本體チカルヘカラスト證明セリ是亦論理上ノ撞着ヲ免レズ此原理モ十二  
 原則中ノ一ニシテ之ヲ當儀メテ本體アルヲ定ムルハ是亦思想ヲ事物ノ本體ノ上  
 ニ當儀メシ者ナレバ本體ハ思想中ニ存ストナサザルヘカラス以上ハ氏ガ哲學ノ  
 一大欠點ナルガ此欠點アルガ爲メニ其後ニ至リ一元ノ理念明ヲカナルニ至レリ



要之純理批判ニテハ先天性ノ道理ニ依リテ事物ノ本體ハ吾知識ノ與リ知ル所ニ  
 アラサレドモ其本體ノ存在ハ決シテ疑フベカラズト結ビ純理批判ニテハ更ニ進  
 ノテ理性ナルモノヲ覺性悟性ノ上ニ加ヘテ説キタリ而シテ理性ノ上ニハ觀念アリ  
 テ此理性ノ觀念ハ知識ノ境遇ヲ超エテ尙ホ一層高キ處ニ立チ覺性悟性ニ於テ云  
 ハサル所ノ精神ノ不滅意志ノ自由及ヒ天帝ノ實在ト云フヲ考ヘ出スト説ケリ  
 然ルニ氏ハ純理批判ニ於テハ此等ノ問題ハ皆空想ニ止マルモノトシテ悉ク之ヲ  
 排斥セリ抑モ此世界ノ事物万有ニ秩然タル規律アリテ運行成立スルハ之ヲ造出  
 シタルモノアリテ定メシナラント云フモノアレトモ是レ空想ニシテ此世界ニ如  
 何ナル規律アルニモセヨ之レアルヲ以テノ故ニ神アリトスルハ不當ノ理ニシテ  
 我が知識ノ上ニ考ヘテ正確ナリト認ムルヲ得ス畢竟此等ノ想像ハ人ガ理性ニ欺  
 カレタルモノニシテ覺性悟性ハ現象ノ範圍外ニ一步モ出ツルヲ得サレドモ理性  
 ハ之ヲ超エテ無限ノ想像ヲナスヲ得ルモノナレバ此等ノ事ハ總テ理性ニ欺カレ  
 タル眞ノ空想ナリト破壊セリ此ノ如ク破壊シ終リテ實理批判ニ至レハ此問題ヲ  
 成立タシメタリ是レ氏ガ心ヲ二様ニ見一ハ倫理ヨリ一ハ倫理ヨリ見タルヲ以テ

ナリ倫理ノ作用ハ智力ニ屬シ倫理ノ作用ハ意志ニ屬ス智力一方ヨリ見レバ天帝  
 ノ實在ノ如キハ正確ナリトスルヲ得サレドモ之ヲ意志ヨリ見ルトキハ正確ナリ  
 ト認ムルヲ得ベシ蓋シ純理批判ハ理論ヲ目的トシ實理批判ハ實際ヲ目的トスル  
 ヲ以テ道理ガ二様ノ方向ニ働キ純理批判ニテハ道理ガ外界ニ關係シテ如何ナル  
 位置ニ立ツカテ説示シ實理批判ニテハ道理ガ道德ニ關係シテ如何ナル位置ニ立  
 ツカテ説示シ前者ハ心カ所作用ノ位置ニアリテ外界ヲ待チ後者ハ心カ能作用ト  
 ナリテ外界ヲ制スル方トナル故ニ一方ニ破壊セシモノヲ一方ニ於テ構成シ知力  
 ノ上ニハ空想ナリトスルモ意志ノ上ニハ必要ノモノトナル此ノ如ク純理批判ニ  
 テハ智力ニ限リアリテ無限ニ達スルヲ得サレドモ實理批判ニテハ我意志ハ無限  
 テ知リ無限ニ達スルカアリトシ兩者全ク相反セルヲ斷定批判ニテハ之ヲ一致セ  
 シメ以テ一元論ニ近ツカシメタリ  
 カントガ神ノ實在等ノ問題ハ純理上空想ナリト判斷セシマハ既ニ陳述セシガ其  
 說途ニ懷疑ニ陷レリ氏ハ通俗ノ有神說ニ對シテ曰ク彼等ガ神ハ實存セリト云フ  
 ハ蓋然ノ道理ヲ直ニ必然トシテ論スルモノナリ神ハ蓋シ在ラント云フ倫理ハ吾

(一八)

ハノ認メ得ベキモノナルモ、之ヲ以テ必ス存在セリト云フハ論理ノ正鵠ヲ失スルモノナリ。又彼等ハ原因結果ノ理ヲ推シテ神ノ存在ヲ證明スレドモ、モト此規則タル吾人ノ經驗ヲ以テ考定シタルモノナレハ、吾人ノ經驗ノ範圍内ニ於テコソ云ハルニ經驗範圍外ノ神ニ適用スルハ其應用ヲ誤ルモノナリト謂ハザルベカラズ。又彼等ハ宇宙ノ秩序整然タルヲ見、恰モ茲ニ家屋アレハ必ス其構造者アリ、茲ニ書籍アレハ必ズ其著作アルガ如ク、此世界ニハ豫メ此世界ヲ造リシモノアリテ之ニ規律ヲ賦與セシメタルモノナリト云ヘリ、吾人ハ此世界アル以上ハ其構造者アリト云フトハ幾分カ想像シ得ザルニアラズ、然レドモ唯其構造者アリト云フヲ得ベキノミ、豈ニ其創造者アリト云フヲ得ンヤ、材料ヲ集拾シテ家屋ヲ組立ツルモノアルモ未タ材料ヲモ創造スル大工アルヲ知ラズト、此ノ如ク純理批判ヨリハ此等ノ問題ハ全ク空想ニ過ギズト排斥セシガ、此點ハ實ニカントノ說ノ壞疑ニ陥リタルヲ疑ハシムルモノナリ。然レドモ氏ハ純粹ノ懷疑論者ニアラズ、モトヒュームノ懷疑說ニ反對シ道理一方ヨリ論シ出シタルモ、尙幾分カ懷疑說ノ餘響ヲ蒙リテ其臭味ヲ脱スルヲ能ハザリシノミ、要スルニ氏ハヒュームノ懷疑說ヲ破懷シ、尙ホ一層深

高ノ點ニ於テ懷疑トナリシモノナリ。

純理批判ト實理批判トハ全ク反對ノ結果ヲ顯ハシ、前者ニ破壊シタルモノヲ後者ニ於テ構成セリ。然レドモ又一方ヨリ見レバ斯ク二者反對ノ位置ニ立ツモ其實ハ只一ナリ、蓋シ其見ル所ノ方面相異リテ一ハ論理ヨリシ一ハ倫理ヨリシタルヲ以テナリ。今カントガ實理批判ニ説ク所ノ倫理說ヲ見ルニ、其主唱スル所全ク義務說ニシテ、氏ノ所謂義務トハ人ノ必ス然カセザル可ラザルコトヲ云フモノニシテ、此義務ノ觀念ハ外界ニ制セラレテ起ルニアラズ、全ク我心ノ自由力ノ指揮スル所ナリ。從來ノ經驗論者ハ凡テ道德ハ經驗ヨリ起ルトナセドモ、氏ハ之ヲ排斥シ、義務ハ尙ホ一層深キ處即チ意志ノ自由ヨリ起ルモノニシテ、道德上ノ自由ハ感覺ノ境遇ニヨリテ支配セラレズ、外界ニ對シテハ獨立シテ能作用タル力ヲ有スト。是ニ於テ純理批判ニ否定セル問題ヲ實理批判ニ於テ正定スルヲ得タリ。

以上論セシ處ニ就イテ其論理上ノ撞着ヲ擧クンバ、カントハ純理批判ニ破壊セシテ實理批判ニ構成シタルハ、其撞着ノ嫌ヲ免カレタルガ如ク見ユルモ、其實決シテ然ラズ先ツ純理上ヨリ云ヘバ氏ハ第一ニ經驗ノミニテハ眞理ヲ證明スルニ足ラ

ストシテ經驗論ニ反シ、人ノ知識ハ先天性ノ形式ヨリ生スル者ニシテ外界ノ經驗ハ此先天的形式ノ上ニ成立スト論シ、次ニ知識ノ材料トナルヘキ外界ハ其實主觀上ノ現象ナリ此現象ノ外ニ外物ノ本體アルヘキモ我知識ハ現象ノ外ニ進ムコト能ハスト説キ、其結局ニ至リテ我理性ヨリ想像セシ神ノ如キハ空想ナリト排斥セリ。是其撞着ヲ免カレザル點ニシテ始ニ心内ヨリ生スル先天性知識ヲ正確ナリトシ後ニハ心内ノ理性一方ヨリ想定スルモノハ虛妄ニシテ眞ヲ證スルニ足ラストシテ之ヲ排斥シ、又前ニハ人智ハ現象以內ニ止マリ其外ニ及ホスカナシトシテ後ニハ外物ノ本體實ニアリト論定セシハ非論理的ト云ハザルベカラズ。此ノ如キ誤謬ハ尙ホ其他ニ多シ、而シテ實理批判ニモ亦同様ノ撞着アリ、我意志ハ能作用ニシテ自由ノ力ヲ有シ外界ヲ自由ニ命令支配スルヲ得トセシハ道理アルコトニシテ、斯クセザルベカラズトシテ外界ヨリ支配セラル、ニアラズ、然レドモ道德上ノ規律ヲ充タスベキ體質ハ何ニヨリテ生スルカ、是亦外界ノ經驗ナリト云ハザルヲ得ザルベシ、恰モ純理批判ニテ我智識ニハ先天性アリテ之ヲ充タスモノハ經驗ナリトスルト同シク、實理批判ニテモ亦先天後天ノ兩性相待タザルベカラズ、再言スレ

ハ心ノ外界ニ及ボスカハ道德上ノ規律形式ナリ、然レドモ之ヲ充タス體質ハ外界ノ經驗即チ吾人ノ欲望ニ對スル幸福快樂是ナリ、然ルニ其物柄タル人ニヨリテ各異ナルモノナレバ、我願望ニ對スル外界ノ幸福快樂ハ普遍必要ナル先天性ト云フヲ得ズ、之ニ反シテ道德上ノ規律ハ先天性ナリ、故ニ氏ハ經驗上ヨリ得ル所ノ快樂ハ道德上ノ規律トナスニ足ラズトシテ道德上ノ本分ニ加ヘザリシト雖モ是レ亦氏ノ一僻論タルヲ免レズ、何者氏ハ道德上ニ於テモ經驗ヨリ來ルモノ(後天性)ト經驗ヨリ來ラズシテ本來存スルモノ(先天性)トノ二種ニ區別セシガ、凡ソ人ニハ願望情欲アリテ此中ニハ下等ニ屬スルモノアレドモ又高等ナル仁愛ノ如キ情ナキニアラス、若シ此情ナクハ決シテ道德ハ成立ツモノニアラス、然ラハ先天ノミ尊キニアラズ、後天亦何ソ賤シムニ足ラン、然ルニ氏ハ先天性ノ一方ニノミ重ミテ置キシハ誤謬ナリト謂ハザルヲ得ズ、但シ氏ガ道德上ノ形式ハ先天性ナリト云ヒシハ確論ナリ、要スルニ氏ガ實理批判ニ於テ先天ト後天トヲ結ヒ付ケントシテ遂ニ結ヒ付クルヲ得ザリシハ、蓋シ氏ガ從來ノ獨斷懷疑ノ餘響ヲ蒙リシニ由ル者ナラン、

實理批判ハ分解法ト辨證法トノ二段ニ分ル、前ニカントガ道德ノ形式ト體質トヲ

結合スルコト能ハザリキト云ヒシハ分解法ニ論スル所ナリ。分解法ニ於テハ道德ハ道理ヲ本トスルコトヲ説キ、其道理ハ先天性ノモノナレバ外界ニ接シテ起ル所ノ情欲願望トハ全ク異ナルモノナリ。故ニ道德ハ苦痛快樂ト同一視スベカラズ、而シテ道德ハ或場合ニハ苦痛ヲ願ミズシテ實行セザルヲ得ザルコトアリ、換言スレバ道德ハ感覺ニ制セラレズシテ感覺ヲ制スルモノナリト。又氏ハ此點ニ於テ道德上ノ意志ノ自由ヲ説キ、外界ニ制セラル、モノハ先天性ニアラズ、從テ又自由ナリトハ云フベカラズ、外界ノ事情ニ制セラレズ却テ外界ヲ支配スルヲ以テ自由ト云フベシ。故ニ道德ノ規律ハ先天性ナリト論ゼリ。此説ハ甚タ功妙ナルガ如ク見ユルモ、氏ハ單ニ先天性ノ骨ノミヲ取リテ、之カ肉トナルベキ外界ヨリ來ル所ノ願望情欲ノ如キ後天性ヲ棄却シタルハ誤謬ト云ハザルヲ得ズ。然レトモ氏ハ辨證法ニ至リテ遂ニ幸福ヲ取リ出セリ。元來氏ハ道德ハ高尚ナル理性ヨリ成ルヲ説キ、道理教ヲ主唱スルモノナルガ、此道理教ニニアリテ一ハクライクプライス等ノ説ク所一ハカントノ説ク所ナリ。前者ハ普通ノ道理ヲ以テスレ、後者ハ高尚ノ道理ヲ説ク。故ニ氏ハ道德上自然ニ感覺ヲ顯ミザル傾向アリ。而シテ氏ガ道德上ノ善ナルモノ

ノハ外界ニ制セラレズシテ單ニ意志ノ自由ニ依リテ働クモノナリト云ヘルハ、既ニスビノザノ説ク所ニシテスビノザハ道理ヲ本トシテ内ニ省ミ神ニ合スルニ至ルヲ以テ道德上ノ善トス。然レドモ此説遂ニ厭世ノ傾向アルヲ以テ此弊ヲ救ハンガ爲ニライブニツハ外界ノ上ニ道德ノ規律ヲ立タリ。カントハ此兩説ヲ折衷センコトヲ企テシガ尙ホ純正高尚ノ道理ヲ本トセリ。然ルニ辨證法ニ於テハ分解法ニテ賤ミタル感覺快樂モ道德上ニ混入セザルヲ得ザルニ至レリ。是レ氏ガ辨證法ニ於テ無上至極ノ善ヲ説キシヲ以テナリ。此ノ無上至極ノ善ハ總テノ善ノ大本ニシテ人間究竟ノ目的ナリ。而シテ又最上ノ徳ト稱セラル、モノナリ。然レドモ徳ノミヲ以テ善ト爲スヲ得ズ、何トナレハ人ノ一般ニ希望スル所ノモノハ幸福ナレバナリ。若シ幸福ヲ捨ツルトキハ最上ノ善トハ謂フベカラズ、是レ氏カ幸福ト徳トヲ一致シタルモノヲ以テ善トシタル所以ナリ。然ラバ既ニ最上ノ善中ニ幸福ノ加ハルモノトセバ、幸福ハ本ト快樂ト常ニ相關係スルモノナレバ快樂モ亦此善中ニ加ヘザルベカラズ。是ニ至リテ始メテ幸福論ト非幸福論トヲ結合セリト謂フ可シ。

純理批判ニ於テ破壊セシ自由意志ヲ實理批判ニ構成センコトハ既ニ陳ベタルガ

如シ、是ヨリ靈魂不滅ノ説ニ及ブベシ。凡ソ人ノ道理ハ人間ノ最上究竟ノ目的タル善ニ達セシコトヲ望ムモノナリ、既ニ人ノ道理ニシテ最上ノ善ヲ目的トスルモノナラバ、皆ニ想像上ノミナラズ、實際上其望ヲ滿タス方法ナカルベカラズ。然ルニ其善ハ本ヨリ最上至極ノモノナレバ、僅少有限ノ時間中ニ爲シ得ルモノニアラズ。殊ニ人間ハ肉躰ヲ有シ、其命亦有限ナルモノナレバ、到底此目的ヲ達スルヲ得ザルコト明ナリ。故ニ道理上此目的ヲ達シ、此望ヲ滿サントセバ、人間ノ壽命ヲシテ無限ニ永續セシメザルベカラズ。無限ニ永續セントスルニハ、即チ靈魂不滅ナラザルベカラズト。由此觀之、道德上ノ目的ヲ實行スル爲ニハ、靈魂不滅ナラザルベカラズト云フハ、一往理アルコトナルモ、之ヲ以テ靈魂ハ眞ニ不滅ナリト斷定スルハ、誤謬ノ論ト云ハザルヲ得ズ。然レトモ、氏ハ此説ヲ以テ數理ト等シク正確ノ道理ナリト信セリ。次ニカントガ神ノ存在ヲ證明セシ説ヲ陳ベシニ、人ノ最上ノ善ハ人間最上ノ目的ニシテ、其善ト徳ト幸福トヲ統合セシモノナレバ、其善中ニハ快樂モ亦加ハラザルベカラズ。然ルニ快樂ハ万有自然ノ狀態ニ屬スルモノナレハ、人ノ先天的ト其關係ヲ異ニス、即チ万有自然ハ万有自然ノ規律ヲ以テ支配セラレ、人ノ先天性ノ規律ニ

支配セラレ、ニアラズ。然ルニ吾人ガ最上ノ善ヲ完ウセシニハ、万有自然ニ支配セラレ、快樂ヲ待タザルベカラザルヲ以テ、吾人一個人ノ力ニテハ、到底之ヲ自由ニ左右シテ無上ノ幸福ヲ得、最上ノ善ニ達スルヲ得ズ。故ニ此場合ニハ、物心万有ノ上ニ位スル神ノ力ヲ借ラサルベカラズ。神ハ本ト無上無限ノ力ヲ有スルモノナレバ、人ノ善惡得失ヲ支配シ以テ、其人ニ幸福快樂ヲ與フルヲ得ベシ。若シ神ナクハ、吾人ハ幸福ヲ得ルコト能ハザルベシ。何トナレバ、此世界ニ疾病等ノ災害ナクハ、吾人ハ常ニ幸福ナルベキモ、吾人ハ之ヲ隨意ニ左右スルヲ得ズ。唯之ヲ自由ニスルハ、神ノミナレバナリ。而シテ此神ノ存在セルコトハ、實理上實ニ欲クベカラザル必然ノ理ニシテ、殊更ニ證明ヲ要セスシテ正確ナリト。此ノ如ク、氏ハ神ノ存在ヲ説明セリ。凡ソ人ノ一身ノ道德上ニハ、理性ナル高尚ノ道理ヨリ起ル規律ト、外界ノ狀態ニ應ジテ起ル規律トノ二法アリテ、吾人ハ之ニヨリテ支配セラレ、モノナリ、換言セバ、人ハ先天的或ハ道理的ト、後天的或ハ感覺的トノ二性ヲ有スルモノナリ。然ルニ此二性ハ、吾人ノ上ニハ、抵觸スルモノニシテ、一方ニハ人欲ノ私即チ感覺ヨリ起ル刺戟ニヨリテ或ル事ヲ爲ントシ、一方ニハ之ニ反シテ理性ノ上ヨリ之ヲ抑制セント

宗 教 哲 學

シ二者相一致スルコト能ハズ、故ニ道德ハ先天性ヲ以テ主トス。然レドモ道理ハ制限ナキ廣大ナルモノニシテ、吾人ハ道理ニハ如何ニ高尚ニ如何ニ完全ナルコトヲモ考ヘ得ルモ、實行上ニハ後天的感覺上ノ境遇ノ障碍ニ由リテ之ヲ爲シ遂クルコト能ハス。故ニ道德ヲ説カントスルニハ勢ヒ神ハ存在シ靈魂ハ不滅ナリトナサザルヘカラズ。靈魂ニシテ永久不滅ナルトキハ幾万年ヲ經トモ完全ニ向テ進ムコト得ベク、加之神ノ存在スルトキハ神ハ常ニ之ヲ助ケ自由ニ幸福ヲ與フルヲ得ベシト。由此觀之カシトハ始ニ感覺ヨリ起レル幸福快樂ハ純粹ナル道德ヲ汚濁スルモノトシテ之ヲ廢除セシカ、其終リニ人生最大ノ目的ヲ説クニ至リテハ幸福快樂モ道德中ニ挿入セザルベカラザルヲ覺リ遂ニ二者ヲシテ結合セシメタルモノナリ。

カントノ實理批判ニ論スル所ハ往々論理上撞着ノ責ヲ免レズ。氏ハ始ニ感覺上ヨリ受クルモノハ悉ク之ヲ排斥シ、苟モ肉體上ノ願望情欲ニシテ道德ニ混入スルアラバ是レ道德ノ純粹ヲ汚カスモノナリト迄極論シナガラ、後ニ最上ノ善ヲ説クニ至リテ幸福ヲ加ヘタルハ前後矛盾ノ甚シキモノナリ、何トナレバ最上ノ善中ニ加ヘタル幸福ナルモノハ假令幸福中ノ最上等ノモノトスルモ尙ホ幸福ハ快樂ニ關

宗 教 哲 學

係ヲ有スルモノナレバナリ、又幸福ナルモノハ吾人ノ先天性ヲ以テ自由ニスルヲ得ザルガ故ニ神アリテ之ヲ與アルモノナリトシテ神ノ存在ヲ假定セシハ論理上決シテ許スベキコトニアラズ。畢竟氏ガ幸福ヲ以テ道德ノ目的トセシハ始ニ道德ハ單ニ先天性ノ規律ヨリ生スルモノトシタルモ後ニ其說ノ道理ニ適ハサルヲ自ラ證明スルモノト謂フヘシ。

然ラバ此撞着ハ如何ニシテ療治スベキカ、曰ク此ノ療治ヲナサントスルニハ内部ヨリスルト、外部ヨリスルトノ二法アリ。外部ノ療法ハ人心ヲ二ニ分チ、一ハ先天性ノ規律、一ハ外界ヨリ受クル感覺トス、而シテ此二ハ全ク別ナルモノニシテ前者ハ唯形式ノミヲ有シテ之ヲ充タス材料ナク、後者ハ物質ノミアリテ之ニ形ヲ與フル規律ナシ、斯ク二者ヲシテ全ク異ナルモノトスルトキハ第三ノ者ヲ設ケ來リテ媒介者トナシ以テ外部ヨリ二者ノ結合ヲ計ラントス、此第三者タルモノハ即チ神ナリ。然レドモ此療方タル正當ノモノニアラズシテ人ヲ満足セシムルニ足ラズ、之ニ反シテ内部ヨリスルモノハ全ク此點ヲ療治スルヲ得ベシ、凡ソ人ノ心中ニハ先天後天ノ兩性本來同一ニシテ一體ヲナシ、一方ニ先天ノ規律アレバ一方ニハ之ヲ滿

マス感覺上ノ願望アリ、一方ニ道德ヲ實行セントセバ一方ニハ高尙ノ情感起リ以テ人間ノ幸福ヲ求メントス、是レ快樂モ規律モ其内部ノ本體一ニシテ共ニ表裏相伴ウテ存スルガ故ナリ、斯ノ如ク内部ヨリスルトキハ撞着ノ責ヲ免カレ神ヲ立テテ調和ヲ計ルノ必要ナシ、然ルニ氏ノ未ダ此點ニ考ヘ到ラザリシハ實ニ惜シムベキコト、謂フベシ、而シテ氏ノ以後其門弟フヒテ等ノ如キハ師ノ説ヲ辨護セントシ、幸福ハ外部ヨリ我道德性ニ加ハルベキモノニアラズシテ、吾人ガ道德上ノ目的ヲ實行スルニ當リテハ、此世界ハ最上ノ善即チ最上ノ幸福ヲ得ラル、様ニ適當セラルモノニシテ、即チ此世界ニハ一種高尙ナル力アリテ道德上ノ意志ガ其目的ヲ實行スルニ適當ノ成立ヲナセリト云ヘリ、此説ニヨルバ道德上ノ規律ト幸福トハ其根原ニ至ンバ一ニシテ、其一ナルモノニシテ相結合セシムト云フニアリ、此説カントニ一歩進ミタルガ如キモ尙ホ未ダ完全ナリト云フベカラズ、

カントハ斷定批判ニ至リテ純理實理ヲ結合セルヲ見ルニ二元ノ根據ガ連合スルト云フ傾向アルカ、如シ、即チ先天ト後天ト外界万有ノ規律ト吾人内界ノ自由意志ト一致スルガ如シ、然レトモ未ダ内外一元ナリトハ云ハザリキ、蓋シ氏ハ始ヨリ我

心性中ニ斷定ナル一種ノ作用アリテ二者反對セルモノヲ結付ケントセシニ由ルナリ、其論中ニハ既ニ一元ノ道理ヲ含ミタレドモ氏自身ニハ之ヲ悟ラザリキ、而シテ氏ハ一元ヲ説カズシテ先天後天ヲ結合セントシタルヲ以テ遂ニ天神ノ存在ヲ説クニ至レリ、且ツ氏ハ神ノ存在ナル問題ハ物理學ニアラズ又形而上學ニモアラズ、唯道德學上之ヲ許サ、ルヘカラサルモノナリト云ヒシガ、此道德學上天神アリトセシコトハ後世哲學者ノ大ニ異論ヲ唱フル所ニシテ、又宗教家ノ大ニ喜ブ所トナレリ、即チ宗教家ハ此説ニ由リテ神ハ單ニ道德上ノ問題ニシテ物理理論形而上ノ諸學ヨリ決シテ容喙スベキニアラズトセリ、然レドモ哲學上ヨリ見レバ此神ヲ立テタルハ氏ノ哲學ノ一大缺點ニシテ之カ爲ニ幾分カ氏ノ哲學ノ價值ヲ減少セリト云フベシ、

カントノ説一元論ノ如クニシテ二元論ナルコトハ既ニ述ヘタリ、而シテ此點ニ至ルトキハ却テデカント等ノ説ニ近ヨリシテ覺ユ、デカントハ物心二者ヲ結付クルモノハ物心ノ外ニ存スル神ナリトセシガ、實理批判ヨリ見レバカントノ説モ亦物心神三元ナルガ如シ、三元論ニハ凡ソ二説アリテ一ハ豫定説ニシテ神ガ世界ヲ創

造スルトキ豫メ物心二者ノ調和ヲ規定セリトス、ライプニツノ説ク所是ナリ、他ノ一説ハ神ハ絶エズ此世界ヲ支配シ時々刻々物心ノ媒介ヲナシテ之ヲシテ契合セシムトナス、是レデカートノ説ナリ、カントハ此兩説ヲ退ケ其何レヲモ取ラザリシハ其著書中ニ徴シテ明ナリ、然ラハ氏ハ如何ニシテ神カ此物心二者ヲ結合スルヲ説キシカト云フニ、氏ハ論理上ニハ此等ノ媒介ヲ立ツルノ意ナク、神ノ存在ノ如キハ全ク取ルニ足ラザル空想ナリ、唯々神ノ媒介セザルベカラザルハ實理批判ノ上ニアリテ道德實行ノ範圍ニ限レリトナセリ、故ニ氏ノ論ハ二方ニ分テテ之ヲ見ザルベカラズ、恰モスピノザノ宗教哲學ト實際宗教ヲ説ケル政教論トノ關係ノ如シ、カントカ理論ト實際ト全ク異ナルモノトシタルハスピノザノ見ニ類似スレドモ、前者ノ後者ニ異ル所ハ純理批判モ實理批判モ共ニ道理ヲ以テ本トシ、唯同一ナル道理ガ純理批判ニハ理論ノ形ヲナシ、實理批判ニハ實際ノ形ヲ取リテ其作用ヲ異ニスルノミトナスニアリ

上來カント哲學ノ大要ヲ講述シ了レリ、是ヨリ進ミテ氏ガ宗教論ヲ講ズベシ、抑モ氏ノ宗教論ハ全ク前ノ道德論ニ基ククモノナレバ、既ニ實理批判ニ於テ其道德論ヲ知レルモノハ、之ヲ推シテ其宗教論ノ何如ヲ窺フテ得ヘシ。

(宗教論) 宗教ハ道德ヲ基本トシテ起ルモノナリトハカント氏宗教論ノ根據ナリ、

氏ハ先ツ宗教ト道德トノ關係ヲ論シテ、宗教ヲ道德ニ附屬スルト道德ヲ宗教ニ附屬スルトノ二様ノ見方アリトセリ、此見方ハ吾人ノ義務ヲ以テ神ノ命令ナリト認ムルニ就キテ、義務ヲ先ニスルト神ノ命令ヲ前ニスルトニ由リテ分ル、ナリ、宗教ヲ以テ道德ニ附屬スルモノトナストキハ、義務前ニアリテ神ノ命令其後ニアリ、即チ神ノ命令ヲ認ムルニ先チテ吾人ノ義務アルコトヲ知ラサルベカラス、之ニ反シテ道德ヲ以テ宗教ニ附屬セシムルトキハ、神ノ命令前トナリテ義務後トナリ、神ノ命令ヲ本トシテ後ニ義務アルヲ認ム、此ノ關係ハ自然教ト天啓教トノ相別ル、所以ニシテ、自然教ハ神ノ命令ヲ認ムル前ニ義務ヲ立テ、天啓教ハ義務ヲ認ムルニ先チテ神ノ命令アルコトヲ説クモノナリ、要スルニ氏ノ説ハ凡ソ宗教トハ吾人ノ義務ヲ神ノ命令ナリト認ムルモノナリトノ考ニシテ、此ノ義務ト神ノ命令トノ關係ニ於テ自然天啓ノ二教ノ區別ヲ生スルナリ、而シテ氏ハ又宗教ハ必ス道德ヲ本トシテ立チタルモノナラザルベカラストセリ、何トナレバ吾人ガ道德上ノ幸福快樂



ヲ思考スルトキハ、神ハ必ス存在スト云フ考ノ起ルモノナレドモ、神ノ存在ノミチ  
思ヒタリトテ、道德ノ必要ヲ感スルモノニアラザレバナリト。

自然教ト天啓教トノ區別ニ就イテ、從來ノ學者中其說ノ異ルモノアリ。第一ハ天啓  
教ヲ必要ト認ムルモノニシテ、凡ソ宗教ノ事タル世界ノ規律以外ニ立ツモノナレ  
バ、吾人ノ道理ヲ以テ之ヲ判斷スベカラズトス。此說ヲ主張スルモノハ、理外教ヲ唱  
フルモノナリ。第二ハ天啓教ハ其必要ナシト唱フルモノニシテ、一切宗教ノコトハ  
人智道理ヲ以テ解説シ得ベキモノトス。即チ道理教諭者ノ說ク所ナリ。第三ハ天啓  
教ハ實際ニ於テ成立ツテ得ズトスルモノニシテ、理學上ヨリ宗教ヲ見ルニ天啓教  
ハ全ク理學ノ原則ニ反スルモノナレバ、實際上成立ツテ得ザルモノナリト。是レ  
理學者ノ唱フル所ナリ。此ノ如ク天啓教ニ就テ三說アレドモ、尙ホ此他ニ第四ノ說  
ナカルベカラズ。其第四說ハ即チ宗教ハ客觀的ニ在リテハ自然教ニシテ主觀的ニ  
在リテハ天啓教ナリトスル折衷說ナリ。何トナレバ人ハ單ニ主觀的ノ理性ノ上ニ  
立チテ考フルトキハ、時々天啓教ノ道理ニ達シ得ルモノナリ。然レドモ之ヲ外界ノ  
事實ノ上ニ照合セバ天啓教ノ信ズベカラザルヤ明クシ。故ニ主觀一方ニアリテハ

天啓教ノ必要アリテ客觀上ニハ自然教ノ必要アリトス。此ノ折衷說ハカントガ耶  
蘇教ニ對シテ下シ、見解ナリ。要スルニ氏ハ天啓教ハ實際上ノ道理ニ照セバ眞理  
ト認ムルヲ得ザレドモ、吾人が宗教ヲ研究スル場合ニ當リテ時アリテ天啓教ノ必  
要ヲ感スルコトアリト云ヘリ。故ニ氏ハ其本心ハ自然教ニアレドモ、亦全ク天啓教  
ヲ捨ツルニアラズ。

カントガ天啓教ノ解釋ハ大ニ通常ノ耶蘇教說ト異ナル所アリ。氏ノ宗教論ニハ天  
啓教ノ必要ヲ說クニ當リテ、先ツ人ノ性質中ニ惡アルハ何ソヤト云フ問題ヲ講究  
シ、以テ其宗教說ノ起ル基礎トナセリ。抑モ人ノ心内ニ惡ノ存スルハ疑マベカラザ  
ルコトナルガ、此惡心ハ感覺ヨリ起ルモノナルカ、將テ道德即チ感覺以上ヨリ起ルモ  
ノナルカ、曰ク此惡心ハ決シテ感覺上ノ情欲ノミニ存スルニアラズ。若シ感覺上ニ  
ノミニ存スルモノナラバ、則チ禽獸的生活ヨリ起ルモノニシテ、道德上ノ惡ト稱スル  
ヲ得ズ。既ニ道德ニ離ルハモノナリトキバ、道德上ノ責任ナキヤ明ナリ。然ラハ惡心  
ハ道德上ノ本心ノ中ニ存スルモノナルカ、曰ク是亦道理ニ於テ許スベカラズ。何ト  
ナレバ道德上ノ本心ハ道德上ノ規律ヲ與スルモノナリ。既ニ道德上ノ規律ヲ與ス

ルモノニシテ其中ヨリ己ニ反對スル惡ヲ造リ出サバ是レ己ノ自身ニテ己ヲ殺ス  
 ニ異ナラズシテ全ク道理ニ反スルモノナレバナリ。サレバ感覺ノ欲念ヨリ起ルモ  
 ノハ之ヲ獸性ト云フベク、道理上ヨリ起ルモノハ之ヲ魔心ト云フベクシテ未ダ道  
 徳上ノ惡ト名クベカラズ。然ラハ人間ノ惡ナルモノハ果シテ何レニ屬スルカ、曰ク  
 惡心ハ決シテ一方ニアラズ、感覺ト道德トノ二者ノ間ニアリテ存ス。凡ソ吾人ノ道  
 徳上ノ作用ナルモノハ感覺上ノ刺戟ト道德上ノ刺戟トノ二方ヨリ起ルモノニシ  
 テ、此二者常ニ相戦ウテ感覺ノ道德ニ勝ツコトアリ、又道德ノ感覺ヲ制スルコトア  
 リ、而シテ此二者ノ關係上ヨリ生スルモノコソ即チ惡ト謂フベキモノナレ。畢竟二  
 者ノ關係ヨリ心ニ一種ノ腐敗ヲ生シテ惡トナリ、此性質祖先ヨリ遺傳シ來ルモ  
 ノナリト、氏ハ此説ヲ以テ經典ノアダム犯罪ニ適用シテ之ヲ説明セリ。曰ク始メ神  
 ノアダムヲ非リシトハ決シテ惡ナルモノアラザリシガ、アダムハ自己ノ自由意  
 志ニ任セテ惡事ヲ爲シ、茲ニ始メテ惡ナルモノ起リ、遂ニ遺傳シテ今日ノ吾人ニ至  
 リ殆ト人間ノ天性ノ如クナレリト。由此觀之惡ノ起リシ原因ハ今日ノコトニ非ス  
 シテ、天地開闢ノ時既ニ自由意志ノ爲ニ人心ノ上ニ腐敗ノ元素ヲ生セシニケリ。然

ラハ此惡ヲ除キ其根本ナル善ニ復歸セシメントスルニハ如何ナル方法ニヨルカ  
 ト云フニ、漸次人心ヲ改良セントスル如キ緩慢ナル手段ニ依ラズシテ、人間ノ性質  
 ヲ一變シテ、直ニ元來ノ本性ニ復歸セシメザルベカラズ、而シテ人間ノ性質ノ上ニ  
 大改良ヲ實行セントスルニハ、道德ノ本心ヲシテ我意識中ニ十分發生スベキ方法  
 ヲ求メザルベカラズ。此ノ道德ノ思想ヲ強ク起サシムルニハ、單ニ尋常道理上ノ説  
 明若クハ一人一個ノ善行ヲ以テ之ガ改良ヲ試ムルモ何等ノ功ナシ、之ニハ人間ノ  
 形骸ヲ取レルモノニシテ、世界多數ノ人ノ爲ニ非常ノ艱難辛苦ヲ爲シ、以テ其模範  
 ヲ示サバ、之ニヨリテ人間精神ノ大改良ヲ遂クルヲ得ベシ。其模範ハ即チ耶蘇基督  
 ナリト。是レ氏ガ其説ヲ應用シテ耶蘇降世ヲ説明セシモノナリ。蓋シ耶蘇ハ人間ノ  
 形骸ヲ具ヘ、人間ノ爲ニ無量ノ苦辛ヲ嘗メ盡シタルモノナレバ、吾人ハ之ヲ見テ大  
 ニ道德心ヲ興起シ、之ガ爲ニ亦吾心モ大ニ改良セラル、ナリ。

案スルニ今日耶蘇教ノ世界ニ勢力アル所以ノモノハ決シテ其教ノ道理如何  
 ニ關スルニアラズシテ、耶蘇ガ人間ノ形骸ヲ有シ、人間ノ爲ニ艱難辛苦シ、人間  
 ノ爲ニ己ノ生命ヲ犠牲ニ供セント云ヌコトアルヲ以テナリ。凡ソ古來宗旨ヲ開

宗

教

書

學

キレモノハ皆非常ノ艱難ニ遭遇セザルハナシト雖モ耶蘇ノ如キ甚クシキ艱難ニ遭遇セシモノハアヲザルベシ彼ノ舊教ノ如キハ耶蘇ノ十字架上ニ苦メラル、偶像ヲ造リ以テ其實狀ヲ人ニ見セシム、若シ門外ノ人之ヲ見バ或ハ其奇怪ニ驚クベクレドモ之ヲ信スル人ニアラハ之ヲ見テ益々其信仰ヲ深クスベシ是レ耶蘇教ノ信仰ヲ起ス第一ノ原因ニシテ又舊教徒ノ新教徒ニ勝リテ熱心者ノ多キ所以ナリ。

カントノ論スル所ト通常ノ耶蘇教説トハ大ニ異ナル所アリ然レドモ氏ハ能ク之ニ適合シ得ヘキ様ニ説明セリ通常ノ耶蘇教者ハ曰ク耶蘇ハ神子ニテ吾人ヲ助クル爲ニ降世シ吾人ニ代リテ其生命ヲ捨シモノナシバ吾人ノ罪惡ハ之カ爲ニ既ニ消滅セリトカントハ曰ク耶蘇ハ神子ニシテ吾人ニ代リテ其罪ヲ贖ヒシヲ以テ吾人ハ生シナガテ無罪ノ身トナリシト云フニハアラズ吾人ハ耶蘇ノ一代記ヲ見レバ心ニ完全ナル德義ノ思想ヲ起シ從來爲セシ惡行ヲ自ラ改ムルニ至ルヲ以テ罪モオノツカテ消滅スルナリト主觀上ニ説明セリ又氏ハ耶蘇教者ガ所謂耶蘇ヲ拜スルモノハ救助セラルト云ヘルコトヲ解釋シテ曰ク吾人ハ耶蘇ヲ拜スルトキハ、

宗

教

書

學

吾心ニ自然道德心ヲ喚起シ其思想ハ我惡心ヲ抑制スルヲ以テ純良ナル善人トナリ、從テ以前爲セシ罪惡ヲモ後悔シ遂ニハ消滅スルニ至ルナリト又耶蘇ヲ信スレハ如何ナル病魔災厄ニモ打勝ツヲ得ヘシト耶蘇教者ハ唱フレドモ氏ハ畢竟我心ノ道德心強キヲ以テ惡魔モ之ヲ誘フヲ能ハザルナリト説明セリ斯クノ如ク氏ノ宗教説ハ決シテ耶蘇教ヲ破壊セシニアラズシテ却テ之ヲ助ケタルモノナリ。

次ニカントハ教會ノ事ニ論及セシガ氏ハ先ツ何故ニ教會ノ起リシヤト云ヘル問題ニ就キテ説明セリ凡ソ人タルモノハ其何人タルヲ問ハズ皆善事ヲ行ハソコトヲ企望シツアルモノナリ然レドモ吾人ヲ圍繞セル所ノ境遇社會及ヒ朋友ノ如キ總ベテ惡ヲ以テ滿タサレタルモノナレバ吾人ハ之ニ抵抗シテ善ヲ爲スヲ得ズ、若シ此等ノ者ヲシテ悉ク善ヲラシメハ吾人ノ善ヲ爲スハ最モ容易ノ業ノミ故ニ吾人ハ茲ニ善ヲ爲サントモバ善ヲ爲サントスル者相集リテ道德ヲ練習スル團體ヲ組織セサルベカラズ此ノ團體ハ政治上或ハ法律上ノ團體ト全ク異ナルモノニシテ法律上ノ團體ハ自己ノ權利ヲ保持セントスル趣旨ナルモ此團體ハ唯道德ヲ完ウセシ爲ノ集合ナリ又政治上ノ團體ハ政治上ノ代理者ニヨリテ組織セラレ又

或ル一部分ノ區域若クハ或ル一種ノ人民ヲ限レドモ、此團體ハ其國ノ開、未開ヲ問ハズ廣ク萬國ニ涉リテ、同一ノ目的ヲ有スルモノハ皆相集リテ道德ヲ練磨セントスルモノ、團結ナリ、此團體ヲ稱シテ教會ト云フ。然レドモ此ノ教會ハ神ノ教會ト云フモノトハ大ニ異ナルモノナリ。凡ソ教會ニハ二種アリテ、一ハ神ノ教會、一ハ世間普通ノ教會ナリ。神ノ教會ハ無形世界即チ神ノ前ノ集合ニシテ世間普通ノ教會ハ有形世界ノ集合ナリ。然レドモ有形世界ノ教會ハ無形世界ノ教會ノ有様ヲ摸倣シテ組織セルモノナリ。而シテ神ノ教會ナルモノハ吾人ノ極メテ純然タル理性ノ中ニ於テ發見スルコトヲ得ルモノナレドモ、本ト吾人人類ハ不完全ナルモノナレバ、常ニ其理性中ニ神ノ教會ヲ構成スルヲ得ズ。是ニ於テ世間普通ノ有形的教會ヲ組織シ、以テ神ノ教會ヲ代表セシムルナリ。然ラバ此ノ教會ノ起リシ目的タルヤ、吾人が神ニ對シテ道德上完全ナル義務ヲ盡シ、以テ我道德ノ責任ヲ全ウセムトスルハ何人モ等シク思考スル所ナレドモ、人カノ薄弱ナル到底之ヲ爲シ遂クルヲ得ズ、乃チ有形世界ニ種々ノ儀式或ハ規則ヲ設ケ外界ヨリ之ヲ遵奉スル様ニ制御セムトスルニアリ。サレバ儀式規則ハ單ニ方便トスルニ過ギズシテ、普通ノ教會組織ハ純

然タル道理上ニ考フンバ一致シ難キ點ナキニアラザレドモ、其方法ニヨリテ吾人ノ道德心ヲ喚起シ、以テ純然タル神ニ達セントシ、又他日之ニ達スルヲ得バ、假令方便タリトモ眞實ト看做シテ敢テ不可ナルコトナルベシ。之ヲ要スルニ吾人ハ固ヨリ宗教上ノ思想アンドモ、感覺的ノ情欲ノ爲ニ妨ケラル、モノナレバ、有形的教會ノ不道理ナルヲ知リナガラ、之ヲ方便トシテ道德心ヲ開發セザルベカラズ、斯クノ如クニシテ始メテ眞正ノ神ノ教會ヲ發見スルニ至ルナリト。以上ハ氏ガ教會ニ關スル解釋ノ大要ナルガ、是ヨリ氏ガ宗教上ノ歴史ニ就テノ説ヲ陳フベシ。

カント氏ノ考ニヨルニ、宗教上ノ歴史ナルモノハ普通儀式上ノ宗教ト、道德上ノ信仰ヲ以テ成立ラル宗教トノ争ヲ以テ充タサレタルモノナリ。即チ從來ノ宗教歴史ハ寺院教會僧侶ノ制度儀式或ハ一國ニ關スル制度ヲ以テ組織セル宗教ト、道德一方ヲ以テ組織セル宗教トノ互ニ争ヘル狀態ヲ示セルモノナリ。而シテ氏ハ宗教ハ總テ道德ヲ目的トシテ成立タザルベカラズト云フ考ナレバ、世間普通ノ宗教ハ氏ノ所謂眞正ノ宗教ニ非ズ、然レドモ世間ニ於テハ道德ヲ目的トセザル儀式的宗教却テ其勢力ヲ逞ウセリ、而シテ道德主義ニ非サルモノハ己ノ宗旨ヲ以テ第一ノ

ノトナシ、宗教ハ必ス斯ノ如クナラザルベカラズト考ヘ、道德主義ノモノハ亦其宗旨ヲ以テ無上ノモノトシ、宗教ハ總テ道德ヲ離ルベカラズトス、是ニ於テ乎二者ノ間ニ争テ生ズ、此ノ争鬭ノ有様ヲ顯ハセルモノハ宗教歴史ナリト而シテ氏ハ次ニ猶太教ト耶蘇教トノ關係ヲ論シテ曰ハク、猶太教ト耶蘇教トハ歴史上ニ於テハ前後ノ關係アリト雖モ、其宗教内部ニ入リテ之ヲ見ルトキハ毫モ關係ナキモノナリ、抑々猶太教ナルモノハ真正ノ宗教ニアラズ、唯僧侶ノ政治組織ニヨリテ成立チタル法律制ノモノニシテ道德制ノモノニアラズ、何トナレバ神ノ命令ヲ以テ法律トシ、此レニ由リテ人民ヲ支配シ、全ク神ノ政府ヲ組織スルモノナレバナリ、又此教ニ於テハ人間ノ現在一世ノ罰ヲ重ニ論シテ未來ニ及ハズ、又此宗ハ一神教ナリト云フト雖モ其實多神教ニ大差ナキモノナリ、何トナレバ此教ニ奉スル一神ハ神ニ主從アルヲ説ク所ノ多神教ノ主神ト異ナルコトナク壓制的神ナレバナリ、故ニ此教ハ真正ノ宗教ニアラズ、猶太教既ニ然リ、况ンヤ東洋諸邦ニ行ハル、諸教ヲヤ、サレバ真正ノ宗教歴史ハ耶蘇ヨリ始マルモノニシテ他ニ決シテ見ザル所ナリト、此ノ考ハ獨リカントノミニアラズ、當時ノ社會ニ於テモ皆等シク考ヘザル所ナリ、氏ハ曰

ハク東洋ノ宗教ナルモノハ恰モ壓制政府ノ形ヲナシ、其神ハ生殺與奪ノ權ヲ恣ニ執ル君主ノ如ク、其信者モ亦之ニ對スルニ諂諛ヲ以テ其救助ヲ得フトシ、組織上佛仰上共ニ道德的ニテラス、又道理的ニテラス、故ニ是レ亦真正ノ宗教ト謂フベカラズ、真正ノ宗教ハ實ニ耶蘇ヨリ始マルモノナリ、何者耶蘇ハ法律制の信仰壓制的神ヲ以テ宗教上無用ナリトシテ之ヲ改良シ、加フルニ道德制の信仰ヲ以テシ、更ニ之ヲ己ノ一身ニ實行シテ其模範ヲ示シタルモノナレバナリト、氏ガ此論タル甚ダ狹隘ナル考ト云ハザルベカラズ、東洋ノ宗教豈ニ氏ガ言フ如キ淺薄ナルモノナラザヤ然レドモ氏ノ當時ニアリテハ東西ノ交通未タ今日ノ如ク頻繁ナラズ、從テ東洋宗教ノ事情ヲモ十分ニ搜索スルヲ得ザリシモノナレバ氏ガ此説アル亦深ク咎ムベキニアラザルベシ、氏ノ説ニキルニ耶蘇教ニテモ耶蘇一代ノ間ハ純粹ノ道德ヲ以テ成立チシガ、日ヲ累テ年ヲ經ルニ從ヒ漸々猶太教ニ類スル傾向ヲ顯ハシ、其甚クシキ羅馬教ノ如キニ至リテハ如何ナル壓制政府ト雖モ尙ホ及ハザル暴虐政治ヲ行ヘリ、是レ最初純粹ノ宗教ヲ弘メシガ爲ニ方便トセシモノナリ、因襲ノ久シキ之ヲ眞實ト認メ、道德ノ本來ノ目的タルヲ忘レ儀式法律ヲ以テ信仰ヲ維持セリトシ、遂ニ

宗 教 哲 學

歷制殘酷ノ處置ヲ施スニ至レリ、而シテ數万無智ノ人民モ亦憐ムベシ妄信迷想ヲ以テ滿タサル、ニ至レリ、是即チ中古暗世ノ時代ニ於ケル宗教ノ有様ナリ、然レドモ近世ニ移リテ再ビ純然タル光輝ノ宗教界中ニ發耀スルヲ得タリ、即チ道理上ノ道德ヲ以テ基本トセル信仰發達シ、今日ニ及ヒテ尙ホ愈々盛ンナルノ傾向アリ、故ニ宗教ハ必ス今日マデノ發達セシ方向ニ從テ益々進歩セザルベカラズ、然レドモ之ヲ助ケル手段トシテハ經典ヲモ採用セザルベカラズト、レツシンク既ニ經典ハ吾人ノ宗教心ヲ開發スベキ教育的ノモノナリト云ヒシガ、カントモ此點ニ於テハ同シク道德的信仰ヲ發達セシムル手段トシテ經典ヲ用フルト唱ヘリ、而シテ其之ヲ用フルモ歷史上ノ事實ヲ以テ壓制スルニアラズ、經典中ニ含蓄セル道德ノ意味ヲ以テ吾人ノ信仰ヲ喚起シ、道理的ノ道德ヲ開發セシムルモノナリ、而シテ僧侶タルモノハ此ノ目的ヲ以テ他人ニ經典ヲ教授シ、是レニヨリテ他人ノ道德的精神ヲ發達セシムルノ任ニ堪ヘタルモノナラザルベカラズ、其他禮拜讀經洗禮供養等ノ儀式ハ單ニ外形上ノ儀式習慣トセバ全ク無用ノモノナレドモ、之ヲ道德上ノ方便トシテ利用スルトキハ亦必要ナルモノナリ、若シ夫レ道德ノ精神ヲ忘レテ之ヲ用

宗 教 哲 學

フルニ至ラバ迷信ニ陥リテ真正純粹ノ信仰ヲ發サシムルコトナカルベシ、何トナレバ真正ノ信仰ハ必ス道德ニ由リテ成立ツモノナレバナリ、斯クノ如クニシテ世人盡ク道德ノ人トナラバ此ノ世界ハ即チ天國トナラン、假令如此キ境界ニ至ルヲ得ザルモ宗教ニ從事スルモノハ必ズ此レニ到達セシメントスル精神ナカルベカラズト、

以上陳述シタルカント氏宗教論ヲ批評センニ、此ノ宗教論ニモ亦短所ト長所トアリ、其短所ハ道德一方ニ偏シ、道德ニアラザレバ宗教ニアラズト斷定シタルニアリ、勿論宗教ニシテ道德ヲ離レタルモノナシト雖モ、宗教ハ道德ヨリ尙ホ高キ處ニ位スルモノニシテ、此點ハ宗教ニ於テ決シテ捨ツルヲ得サルモノナリ、若シ氏ノ言フ如クナラバ宗教ハ道德ノ範圍内ノ一部分タルニ過キズ、宗教豈ニ斯ル狭少ノモノナランヤ、宗教ハ實ニ道德ノ範圍外ニ涉リ又道德ニ關係スルモノナリ、然レドモ若シ極メテ廣キ意味ヲ以テ道德ヲ説カバ、或ハ宗教ニ一致スルニ至ルヤモ知ルベカラズト雖モ、氏ガ理性ヲ本トシテ立テタル義務一邊ノ道德ニ於テハ、宗教ハ尙ホ其他ニ幾多ノ領地ヲ占有セザルベカラズ、蓋シ道德ト宗教トノ相異ナル所以ハ直接

ニ我生活スル外界ニ關係スルトセザルトニアリ。詳言セバ道德ハ單ニ現世界ノ上  
 ノミニ限リ、宗教ハ此世界以外ニ無限不可知的ノ躰アリトス。而シテ道德ハ一個人  
 ノ上ヨリ此世界ニ及ボス關係ヲ説キ、宗教ハ世界總躰ノ上ニ人類ノ位置ヲ定メ、吾  
 人人類ガ無限中可知的ノ躰ニ對シテ如何ナル關係アルカヲ示ス。故ニ道德ハ直接  
 ニ外界即チ此現在世界ニ關係シ、宗教ハ間接ニ此目前社會ニ關係スルモンナリ。若  
 シ此ノ區別ナクバ道德モ宗教モ敢テ異ナルコトナカルベシト雖モ、既ニ此區別ア  
 ル以上ハ二者特殊ノ解釋ヲ與ヘザルベカラズ。然ルニ之ヲ混合シテ説キタルハ  
 氏ガ宗教論ノ短所ナリト云フベシ。然レドモ又氏ノ説ニヨリテ大ニ利益スル所ア  
 リ。當時宗教ノ有様ヲ見ルニ、神ハ壓制政府ノ君主ニ異ナラズシテ、吾人ハ全ク神ノ  
 從屬者ナリ、而シテ神ノ命令ヲ以テ法律トシ、外部ノ規則ニヨリテ信仰ヲ興サシメ  
 ントス。而シテ彼等宗教家ハ之ヲ以テ宗教ノ本色ナリト誤認シ、其唱フル所ハ甚々  
 淺薄ニシテ取ルニ足ラズ。氏ハ之ヲ排斥シ、道德上ニ於テ世間普通ノ法律的宗教ヨ  
 リハ尙ホ一層深キ處ニ宗教ノ基礎ヲ發見セリ。是レ氏ガ宗教論ノ長所ナリ。此ノ如  
 ク氏ハ宗教ヲ道德的ニ説明セシガ、後世ノ學者之ニヨリテ進メテ宗教ノ原理ハ道

德的ヨリ尙ホ一層高キ處ニアルヲ發見セリ。故ニ氏ハ宗教哲學ノ先導ヲナシタル  
 モノニシテ、是ガ爲ニ一般ノ宗教説ヲシテ大變革ヲ生セシメタリ。要之氏ハ哲學上  
 ニ於テ極メテ高尚ノ道理ヲ説キ以テ其基本トナセシガ故ニ其説乾燥無味ノモノ  
 トナリシガ、之ト同シク其宗教説モ地理的ノ道德ヲ以テ根據トナシタルガ爲ニ亦  
 其弊ヲ免レザリキ。凡ソ物ハ道理一邊ヨリ説キ下ストキハ乾燥無味ニ陥ルヲ免レ  
 ズ。然レトモ之ガ乾燥ヲ醫シテ潤色アルモノトシ無味ヲ變シテ好美ノモノトナス  
 ハ唯、情感ナリ。之ヲ社會上ニ例スルモ道理一方ヲ以テセバ不和ヲ醸スニ至ルモ、若  
 シ之ニ調合スルニ人情ヲ以テセバ爲ニ圓滑トナルヲ得ベシ。カントハ哲學上ニモ  
 宗教上ニモ此情感ノ肉ヲ加フルトニ氣付カザリシガ、後ノ哲學者乃チ之ヲ補ヒタ  
 リ。畢竟氏ノ茲ニ至リシ所以ノモノハ、從來ノ宗教説ガ道理ノ骨ナクシテ唯情感ノ  
 肉ノミヨリ成リ爲ニ肥滿ニ過キタリシカバ、之ヲ去ランコトヲ務メ其反動トシテ  
 却テ内落チテ骨ノミ出テタル枯瘦羸弱ナルモノヲ造リ出セリ。故ニ氏ノ説ハ完全  
 無疵ナリト云フヲ得ズ。

カント氏ガ純理批判ヨリ宗教論ニ至ルマデノ全躰ヲ總評センニ、氏ノ説ハ總テ道

理ヲ本トシ、純理批判ニテハ物ノ本體アルコトヲ論定シ、此本體ハ人智ヲ以テ窺ヒ知ルヲ得スト、説クハ是レ既ニ述ベタル如ク氏ガ物心ノ本體ヲ結合スル點ニ至リテ誤ヲ生シタルモノナリ、而シテ實理批判ニ於テハ道德ハ先天性道理ニ本キ義務ナル思想ヨリ出ツルモノナリトシ、義務ヲ充タス所ノ情感ノ肉アルコトヲ知ラズシテ、遂ニ先天的ノ道理ト後天的ノ感受トヲ一致スルコト能ハザリキ、此ノ如ク雙方共ニ物心ノ本體ヲ結合スルヲ得ザリシガ、之ト等シク宗教説ニ於テモ道理一邊ノ道德ヲ説キテ之ヲ充タス外界上ノ經驗感覺ヨリ來ルル歷史上ノ考ヲ捨テ、道理ト天啓トヲ結付クルヲ得ザリキ、是レ氏ガ其以前ノ哲學者ノ唱ヘタル二元ノ思想カ飽クマテ解ケザリシガ爲ナリ、若シ此二元ヲ結合シテ一元ヲ唱フルニ至ラバ氏ノ哲學茲ニ完全セシナラン、氏ハ道理ハ事物其者ノ本體ニ到達スルヲ得ストスレドモ、其本體ヲシテ道理中ニアルモノトセバ、純理批判ニ於テ一元論タルヲ得ベシ、又道德上ニテモ經驗上ノ境遇ヲ道德ノ内部ニアルモノトセバ、實理批判ニ於テ一元トスルヲ得ベシ、又宗教上ニアリテモ我一人ノ心ト世界万有ノ源ナル神ト一體ニシ、神ノ一部分我心ニ存シテ以テ天啓ヲ受クヘシトセバ、天啓ト道理トヲ一致スルヲ得ベシ、是レ即チ宗教上ノ一元論ナリ、且ツ氏ハ宗教ヲ道德以內ニ止メテシドモ、勢力モ情感モ共ニ天啓ニ關係スルモノトシテ、道德ニ説キ及バ、氏ノ論更ニ一層完全ヲ得ヘシ、又智力ノ上ニハ感覺ト道理トアリ、此ノ二者共ニ外界ノ現象上天啓ヲ認ムルコト難シト雖モ、此二者ノ間ニ位スル想像ニ由ルトキハ宗教上ノ天啓ヲモ説明シ得ベシ、此ノ如ク考フレバ、宗教ハ智力情感意志ノ上ニ總テ存スルモノナルニ、氏ハ智力道理ノ一方ニミ説キタルヲ以テ偏僻ノ評ヲ免ル、ユト能ハザリキ、又宗教上ヨリ見レバ、宗教ノ思想ハ各個人ノ等シク之ヲ有スルノミナラズ、歷史上亦發達スルモノナリ、故ニ單ニ心内ヲ搜索スルニ止マラスシテ、又他ニ求ムルモ得ラル、ナリ、然ルニ氏ハ歷史上ノ實事ヲ全ク排棄セシハ、氏ノ缺點ト云ハザルベカラス、然レドモ又歷史上ノ實事ノミヲ尊ビテ之ヲ以テ信仰ノ本トセル從來ノ宗教ノ陋弊ヲ矯正セシハ、氏ノ説與リテ大ニカアリト云フベシ、而シテ此等ノ缺點ヲ補ヒテ天啓ト道理、宗教ト道德トヲ結合シテ説キシモノハ、氏以後ノ哲學即チ理想學派ノセーリンク、ハーゲル等其人ナリ、カントハ實ニ此理想學派ノ前驅トナリシモノニシテ、氏ニ由リテ始メテ理想ノ萌芽ヲ見ルヲ得タリ、

ルヲ得ベシ、是レ即チ宗教上ノ一元論ナリ、且ツ氏ハ宗教ヲ道德以內ニ止メテシドモ、勢力モ情感モ共ニ天啓ニ關係スルモノトシテ、道德ニ説キ及バ、氏ノ論更ニ一層完全ヲ得ヘシ、又智力ノ上ニハ感覺ト道理トアリ、此ノ二者共ニ外界ノ現象上天啓ヲ認ムルコト難シト雖モ、此二者ノ間ニ位スル想像ニ由ルトキハ宗教上ノ天啓ヲモ説明シ得ベシ、此ノ如ク考フレバ、宗教ハ智力情感意志ノ上ニ總テ存スルモノナルニ、氏ハ智力道理ノ一方ニミ説キタルヲ以テ偏僻ノ評ヲ免ル、ユト能ハザリキ、又宗教上ヨリ見レバ、宗教ノ思想ハ各個人ノ等シク之ヲ有スルノミナラズ、歷史上亦發達スルモノナリ、故ニ單ニ心内ヲ搜索スルニ止マラスシテ、又他ニ求ムルモ得ラル、ナリ、然ルニ氏ハ歷史上ノ實事ヲ全ク排棄セシハ、氏ノ缺點ト云ハザルベカラス、然レドモ又歷史上ノ實事ノミヲ尊ビテ之ヲ以テ信仰ノ本トセル從來ノ宗教ノ陋弊ヲ矯正セシハ、氏ノ説與リテ大ニカアリト云フベシ、而シテ此等ノ缺點ヲ補ヒテ天啓ト道理、宗教ト道德トヲ結合シテ説キシモノハ、氏以後ノ哲學即チ理想學派ノセーリンク、ハーゲル等其人ナリ、カントハ實ニ此理想學派ノ前驅トナリシモノニシテ、氏ニ由リテ始メテ理想ノ萌芽ヲ見ルヲ得タリ、



是ヨリ理想學派ニ移リテ講述スベキナンドモ、當時カント氏ニ反對シテ道理以外ニ宗教ヲ説キテ一派アリ、之ヲ直覺的宗教哲學ト云フ、理想學派ハ即チ道理教ト直覺教トノ二派ヲ結合シテ起リシモノナレバ、先ツ直覺學派ノ説ヲ講シ、而シテ後チ理想學派ニ及ブベシ之ニ對シテカント學派ハ批判的宗教哲學派ト名クルナリ

第二段

直覺學派直覺的宗教哲學派

第一、ハーマン氏哲學(Johann Georg Hamann)

直覺學派ハカント氏ノ當時ニアリテ其批判的的道理教ニ反對シテ起リタルモノナリ、凡ソ宗教ナルモノハ哲學ト其性質ヲ異ニシ、人智ヲ以テ思議スベカラザルモノヲ本體トスルガ故ニ、道理上ヨリ之ヲ説明スルヲ得ザルハ固ヨリ其所アリ、サレドモ、古來ノ宗教家ハ宗教ハ不可知的ニ本クモノト云ヒテ、遂ニ如何ナル奇蹟怪談ト雖モ道理上不同ニ附シ安リニ之ヲ信仰セシガ、社會ノ進歩ト共ニ道理ノ發達スルニ於テハ、通俗ノ宗教家ノ與フルカ如キ單純ナル説明ニ満足セズ、進マズ道理上之ガ解釋ヲ試ミントシ、終ニ宗教ハ必ズ道理ニ依ラザルベカラズト説クモノアルニ至レリ、然レドモ又道理ノミニ據リテ宗教ヲ説クトキハ道理一方ニ偏スルノ弊アリ、

從テ宗教ノ區域甚タ狹少トナルナリ、カント氏ノ如キ最モ高尚ノ道理ヲ基本トシテ宗教ヲ説キタルモノナレドモ、既ニ道理ヲ本トシタル以上ハ、宗教ハ道理ノ範圍内ニ包括セラル、モノトナルナリ、此ノ如ク一方ニ道德ニ僻シタル説ヲ唱フルモノアレバ、之ニ反シテ又他ノ一方ニハ道理以外ニ宗教ヲ立ツル學派ノ起ラサルベカラザルハ自然ノ勢ナリ、今此ノ反對説ヲ見ルニ凡ソ世界ニハ可知的ト不可知的トノ二アリテ、宗教ハ不可知的ヨリ可知的ニ關係ヲ及ボスモノニシテ、宗教ノ本源タルモノハ不可知的即チ吾人ノ道理以外ニアルモノナリ、故ニ宗教ノ本體タルモノハ吾人ノ智力ニ因リテ知ルヲ得サレドモ、吾人ノ心ニハ智力ノミニアラズシテ情感意志ナルモノアリ、此情感上ヨリ考フルトキハ道理ノ及ハザル不可知的ノ本體ニ接シテ、其狀況ヲ窺ヒ以テ之ト交通スルヲ得ベシ、是レヲ名ケテ天啓感通ト云フ、此天啓ハ道理上ヨリ云ヘバ認知スベカラズト雖モ、情感上ヨリ見レバ信許スルニ難カラズ、此ノ如ク宗教ハ情感ニ本ツクモノナレバ、其情ノ高下ニヨリテ宗教ニモ亦優劣アリ、而シテ其最モ高等ナルモノニ至テハ智力ノ元素ヲ其中ニ含有スルモノナリ、此天啓ヲ解スルニ於テ人間ノ智識思想ハ極メテ僅少ノ區域ノ外知ルヲ

宗 教 哲 學

得ズ、何トナレバ此世界ハ無限絶對ノ体ナレバ、有限ノ人智ヲ以テ無限ノ世界ヲ知  
 リ盡スコト能ハザレバナリ。然レドモ有限ノ心ヲ以テ無限ノ宇宙ヲ幾分カ推測ス  
 ルヲ得バ、又無限不可思議ノ体ヨリモ吾人ニ通ズルノ道ナカルベカラズ、是レ即チ  
 天啓ナリ。此天啓ハ吾人カ道理上ノ考究ヲ要セズシテ、吾人ノ精神上ニ自然ニ感知  
 悟了スルモノナリ。故ニ之ヲ直覺ト云フ。即チ直覺ハ道理ニ由ラズシテ感情ノ上ニ  
 成立ツモノナリ。此説ヲ主張スルモノハ直覺學派ノ人ナリ。此ノ如ク宗教ニハ道理  
 教ト直覺教トノ二派アリト雖モ、二者何レヲモ偏廢スベカラズ、直覺一邊ヲ説クモ  
 僻説ニシテ、必ス道理ヲ借ラザルベカラズ、サリトテ道理一方ニ依ルトキハ宗教ハ  
 人智ノ範圍内ニ止マルモノトナルヲ以テ、是亦直覺ヲ以テ補ハザルベカラズ。要ス  
 ルニ宗教ハ道理ト直覺トノ二者相提携シテ進歩シ、二者統合シテ始メテ完全ノ眞  
 理タルヲ得ベキナリ。

古來宗教ヲ説クモノハ言フマデモナク直覺教ニ由リシモノナルガ、近世ノ初年道  
 理上ヨリ説明セントスルモノ興リ、遂ニカント氏ニ至リテ道理一方ヲ以テ之カ解  
 釋ヲナセリ。而シテ此道理教ニ反對シテ興リシモノヲ直覺學派トナス。即チカント

宗 教 哲 學

氏ノ時代ニ當リテ此直覺教ヲ唱ヘシモノハハトマン氏ナリ。氏ハ一千七百三十年  
 獨逸クニヒバルフニ生レ、一千七百八十八年没ス。カント氏ヨリ若キコト六年ナリ。  
 ハトマン氏ハ全クカント氏ニ反對シ、宗教哲學ニハ信仰ト云フコトヲ以テ原理ト  
 ナシ、此信仰ハ道理ノ更ニ關係セザルモノナルコトヲ説ケリ。凡ソ吾人ガ生存スル  
 所以、又吾人ノ外ニ事物ノ存在スル所以ハ唯、吾人ガ之ヲ信スルノミニシテ、決シテ  
 道理ノ作用ニ由ルニアラズ。例セハ人生ルレハ必ス死スト云フコトハ寸毫ノ道理  
 ヲ要セズシテ確實ナリ、而シテ是レ唯、信仰ニ由ルヨリ外ナシ。此等ノ信仰ハ神ニヨ  
 リテ教ヘラレタル自然ノ眞理ナルモノナリ。故ニ吾人ガ總テ信仰スルコトハ決シ  
 テ道理ノ關係セザルモノナリ。夫レ然リ信仰ハ道理ニ由リテ知ルベカラズ、吾人ノ  
 見テ赤シトシ、味ウテ甘シトスル、亦何ノ證明ヲカ待タシ。此信仰コソ實ニ宗教ノ起  
 ル所以ナレト。此ノ如ク氏ハ信仰ヲ以テ宗教ノ基礎トシ、智力道理ヲ以テ論スル諸  
 學ニ反對シ、哲學ノ如キハ全ク人ノ空想ニシテ畢竟無益ノ勞力ノミ、彼ノスピノザ、  
 ヒューム、レッシング、カントノ如キ只無益ノ勞ヲ徒費シテ一モ得ル所ナシ、是レ魔心ノ  
 作用ニシテ信仰ヲ有タザル故ナリ、又理學上コバニカスガ天文説ヲ一變セシ如キ

モ是レ亦學者ノ空想ニ過キズトシ、總テ經典ニ反對セルモノハ盡ク之ヲ排斥セリ。要スルニ氏ノ考ハ、既ニ宗教ハ信仰ヲ本トスルモノナレバ、哲學上如何ニ研究スルモ知り得ベキモノニアラズ、恰モ天才ハ熟練ヲ要セズ、幸運ハ功勞ヲ以テ測ルベカラザルガ如ク、宗教ハ決シテ哲學上ノ論究ヲ以テ領會セラルベキモノニアラズト斷定シ、信仰一邊ヲ取リテ道理ヲ排撃シ、カント等ノ説ク所ハ空虛無實ノ妄論ナリトシタルモノナリ。然レドモ氏ガ極端ニ奔リテ主張スル所ノ信仰一邊モ亦無益ノ空論タルコトヲ覺ラザリキ。蓋シ宗教ナルモノハ信仰ト道理ト相統合シテ始メテ完キヲ得ルモノナレバ、道理ヲ離シタル信仰ハ亦空虛無實ノ信仰タルニ過ギズ。故ニ氏ハカント氏ガ道理一方ニ偏シタルト同シク信仰一邊ノ極端ニ傾キタルモノナリ。

第三段 直覺學派

第二、ヘルデル氏哲學

ヘルデル氏 (Johann Gottfried Herder) ハ一千七百四十四年獨逸モランゲンニ生レ、一千八百〇三年ワイマールニ没ス。氏ハ夙ニケニヒバルフ大學ニ入りテカント氏ニ從

ヒ哲學ヲ學ビ、二十歳ニシテ或ル學校ノ助教授トナリ、又哲學神學文學等ニ關係セル種々ノ書ヲ著述シ、名聲甚タ藉々タリ。氏ハ直覺學派ノ一人ニ列スト雖モ、ハイマール氏ヨリハ一層高等ノ位置ヲ占メ、又今日ノ哲學上理學上ニ非常ノ効績アリシ人ナリ、其之ヲ直覺學派ニ列スルハ道理一方ヲ説クモノニ反對シタルニ依リテナリ。然レドモハイマール氏ノ如キ宗教上奇怪ノ事蹟ヲモ單ニ信仰上ヨリ説明セシモノニ比スレバ、一層價值アルモノニシテ決シテハイマール氏等ト同一視スベキモノニアラズ。

ヘルデル氏ノ學ハ多ク先輩ノ説ニ基ツキタルモノニシテ、經典、プラト、シャフツバリー、スピノザ、ライプニッツ、ルソー等ノ諸説ヲ根據トナシ以テ一家ノ説ヲ組織シタルモノナリ。其中何レカ最モ氏ニ影響セシヤ詳カナラサレドモ、就中ルソーノ説ハ大ニ影響ヲ及ホシタルガ如シ。氏ガ嘗テ大學ニアリシトキカント氏ヨリルソーノ説ヲ聽キ、後チ自ラモ復ルソーノ説ヲ考究玩味シタルコトアリ。此ノ如ク氏ハルソーノ説ヲ學ヒタレドモ、氏ハ決シテルソー門派ノ人ニアラズ、唯其人間性ノ起原ヲ論スル點ニ於テ幾分カルソーニ指示セラレタルガ如シ。ルソー

宗 教 哲 學

ハ政治上社會上ヨリ人間性ノ起原ヲ論テ天賦民權ノ説ヲ唱へ出シ、ヘルデル氏ハ之ニ異リテ理學上ヨリ研究シテ人間ノ文明言語歴史並ニ宗教ノ起原ニ就キテ其發達ヲ論セリ。是レ氏ガ或ハ近代ノ言語學歴史學宗教學ノ理學的研究ノ元祖ト稱セラル、所以ナリ。氏ノ以前ニ在リテハ宗教歴史等ヲ研究スルモノアリタレトモ、其研究ノ方法タル總テ純理的即チ空想的ニシテ夫ノカント氏ノ哲學ノ如キ最モ高尚ナリト雖モ、其講究ノ方法ハ批判的即チ消極的ナルヲ以テ實際上得ル所ナシ、而ルニ其方法ヲ一變シテ實理的即チ理學的ノ研究ヲ始メ、積極的ノ學風ヲ起シ、以テ言語學歴史學宗教學ヲ組織シタルモノハヘルデル氏ナリ。換言スレバ十八十九兩世紀學風ノ一變セシハヘルデル氏ノ力與リテ功アリ。何トナレバ十八世紀ノ末年ニハ英國ニヒュームアリ獨逸ニカントアリテ、道理ノ論究ハ大ニ進歩セシガ其理ハ空想ニ流レ懷疑ニ陥リ、只古來ノ淺薄ナル議論ヲ批評分析スルニ過ギザリキ。然ルニ十九世紀ノ學風ハ一家ノ新説ヲ組織スルコトヲ勉メ專ラ構成統合ニ力ヲ盡セリ、即チ十八世紀ニハ消極的破壊的ノ風アリシモ十九世紀ニハ積極的建設的ノ方針ヲ取ルニ至レリ。是レ蓋シ學問ノ進路ニ於テ止ムベカラザル順序タリ。近世

宗 教 哲 學

ノ初年一タヒ思想ノ自由ヲ得シヨリ種々ノ空想虛理ヲ説クモノ相繼ギテ起リシカバ、茲ニ之ガ批評分析ヲ試ムルモノ現出セリ。然レドモ舊草ノ枯ル、ハ新草ノ生スル所以、批判説ノ起ルハ新説ノ發スル所以ニシテ、十八世紀ノ批判説ガ舊學ノ古根腐株ヲ刈リ盡シタルガ爲ニ、十九世紀新學ノ萌芽ヲ見ルニ至レリ。而シテ其間ニ立チテ十八世紀ヲシテ十九世紀ニ移セシ率先者ハヘルデル氏ナリ。ストラウス氏評シテ曰ク、ヘルデルハ十八世紀ノ關門ヲ破リテ十九世紀ノ道ヲ開キシモノナリト。然ラバ氏ハ如何ニシテ十九世紀ノ新學問ヲ開クニ至リシカヲ考フルニ、氏ハスピノザ、ライブニツ等先哲ノ説ヲ統合シ以テ新學問ヲ組織セリ。而シテ其之ヲ統合スルモ外部ヨリ一部々々ヲ集メテ混合シタルモノニアラズ、内部ヨリ化合同化シテ以テ新思想ヲ造リ一家ノ新學風ヲ開キシナリ。然レドモ氏ガ此ノ如キ新學風ヲ起スニ至リシハカントノ豫メ氏ニ向テ新思想ヲ發達セシムベキ餘地ヲ與ヘタルヲ以テナリ。換言スレバカントハ十八世紀ノ學問ヲ統合シテ十九世紀學問ノ起ルベキ準備ヲ爲シタルモノナリ。而シテカントヲシテ此ノ如ク爲サシメシモノハヒュームナリ。更ニ之ヲ例セシカ茲ニ一ノ原野アリ、之ヲ開墾セントスルニハ豫メ其地

宗 教 哲 學

ノ草木ヲ刈取ラザルベカラズヒュームハ其草木ヲ伐採シ、カントハ榛ヲ切り根ヲ斷  
 チ地ヲ均ラシ、以テ種子ノ自由ニ發達シ得ベキ準備ヲナシ、ヘルデルハ茲ニ始メテ  
 種子ヲ下セリ、即チヒュームハ從來ノ哲學ヲ破リ、カントハ更ニ之ガ根底ヲモ碎キ、前  
 者ハ外部ヨリシ後者ハ内部ヨリシテ破壊シ盡サハルヲナシ、然レモ尙ホ未ダ種子  
 ヲ下セシモノト謂フベカラズ、爰ニ新種ヲ蒔キシモノハ實ニヘルデル氏ナリ。  
 ヘルデル氏ハ哲學文學史學等ノ諸學ニ就イテ新說ヲ立テシガ、今コトニ講述セシ  
 トスルハ其中ノ宗教哲學ナリ、氏ノ宗教哲學ハスピノザ、ライブニツ兩氏ノ說ヲ統  
 合シ以テ一家ノ說ヲ組織シタルモノナリ、スピノザ氏ノ唱フル所ハ萬有神教ニシ  
 テ世界全軀ヲ以テ神トシ世間普通ノ有神說ヲ排撃シテ神ハ一種格段ノ性質ヲ有  
 スルモノニアラズト說キタルモノナリ、此點ハヘルデル氏ノスピノザ氏ヲ繼承ス  
 ル所ニシテ、神ハ世界ヲ離レテ存在スルモノニアラズ、若シ此ノ世界ヲ離レテ存在  
 セバ吾人何ヲ以テカ其存在ヲ考察スルヲ得、然ルニ吾人ハ既ニ神ノ此世界ニ關  
 係スルコトヲ是認スルモノナレバ、神ハ此世界以內ニ成立タザルベカラズ、又神ハ  
 一種特殊ノ性質ヲ有スルモノニアラズ、若シ神ニシテ特性ヲ有スルモノナラハ是

宗 教 哲 學

レ有限ナリ何ソ無限ト云フヲ得、然レドモ何人ノ考究ニヨルモ神ハ無限ナリト  
 ス、既ニ無限ナル者ナラバ特殊ノ性質格段ノ成立ナキヤ明ナリ、然ルニ耶蘇教者ハ  
 以爲ラク神ハ此世界ヲ離レテ存在シ、吾人ノ有スルカ如キ智情意ノ一層高等ナル  
 性質ヲ有シ、人ノ家屋ヲ建築スル如ク此世界ヲ創造セリト、若シ此說ヲシテ眞ナラ  
 シメン乎神ハ有限タルヲ免レザル者ナリ、豈ニ其理アラシヤ、神ハ實ニ世界万有ノ  
 中ニアリテ而モ世界万有ノ本體タルモノナリト、此レヘルデル氏ガスピノザ氏ニ  
 一致スルノ點ナリ、然レモ氏ハスピノザノ說ヲ飽クマテ唱ヘタルニアラズ、又スピ  
 ノザハ唯万有ノ本體ハ神ナリト云フニ止マリテ、其本體ガ如何ニ此世界ニ關係セ  
 シカ、如何ナル活動ヲ與ヘ如何ニシテ發達セシメシカト云フ點ニ至リテハ論究セ  
 ザリキ、故ニヘルデル氏ハスピノザヲ評シテ曰クスピノザハデカトトノ神ノ思想  
 ヲ受クナカラデカトトトハ大ニ異ナル所アリテ万有神教ニ向テ解釋ヲ試ミシモ  
 尙ホデカトトノ影響ヲ免レザリキト、デカトトノ說明ハ數學的器械的ノ方法ヲ用  
 ヒシガスピノザモ亦數學的思想器械的說明ノ臭味ヲ脱セザリキ、故ニ其神ハ死物  
 ニシテ活動セザルモノナリ、是ニ於テ乎ヘルデルハ此スピノザガ唱ヘタル死セル

宗 教 哲 學

神ニ活動作用ヲ加ヘンコトヲ企テタリ。而シテ氏ノ以前ニアリテ既ニ此活動作用ヲ説キシモノハライブニツツニシテライブニツツノ所謂元子ハ活動作用ヲ有シ、物理上ニ説ク如キ死物分子ニアラズ、元子自身ニ有スル所ノ勢力ニヨリテ自ラ發達シ以テ此世界万有ヲ顯ハスニ至レリトナス、而シテライブニツツ氏ハスピノザガ世界ノ本體ヲ一ナリトセシ論ニ反對シテ元子ノ無數ナルコトヲ説ケリ、然レドモ單ニ元子ノ無數ナルヲ説クノミニテハ世界ノ説明ニ支吾ヲ生スルヲ以テ元子ノ上ニ尙ホ一ノ神ヲ立テタリ又氏ハデカトガ神カ此世界ヲ創造シ時々刻々之ヲ支配スト云ヘル説ニ反對シテ神ハ世界創造ノ際既ニ其將來ヲ豫定セリト論ゼリ、ヘルデルハ此ライブニツツノ元子説ヲスピノザノ本質即チ神ノ上ニ與フンバ以テ活動作用ヲ有スル神タルヲ得ベシト考ヘ兩氏ノ説ヲ統合折衷スルニ至レリ、故ニ氏ノ所謂神ハ此世界ヲ離レテ一種格段ノ性質ヲ有スルモノニアラズ、絶對無限ノ體ニシテ自存自活自動ノ大勢力ヲ有シ、其大活動力ノ發達ニヨリテ此世界ヲ現出シタルモノナリト是レ蓋シ從來ノ宗教哲學ヲ比較シ來ラバ必ズ此點ニ歸着セザルヲ得ズ、何トナレバスピノザガ万有神教ヲ唱ヘタルハ固ヨリ卓見ナリト雖モ如何セ

宗 教 哲 學

ノ其神ハ活動ヲ有セザル死物ナリ、之ニ反シテライブニツツハ活動ヲ論シタルモ亦万有神教ト一致スル能ハズ、故ニ此兩説ヲ統合スルトキハ則チ活物ノ神タルヲ得ベケンベナリ、是ヲ以テヘルデルニ續テ聲出セルシェーリング、ヘーゲル等ノ説ク所モ亦活動力ヲ有スル活物的神ヲ唱ヘヘルデルノ説ヲ完成スルニ至レリ

今之ヲ佛教ノ上ニ比較スルニスピノザ以後ノ説ハ大乘ニ似タリ、其中スピノザハ權大乘ニ近ク、万有ノ本體ハ神ナリト云フニ止リテ其本體ガ如何ナル作用ヲ與フルカヲ説カズ、恰モ法相ニ説ク所ノ眞如凝然トシテ本來獨存シ其活動ヲ顯ハサズト云フガ如シ、カントハスピノザノ説ヲ一變シ物心本體上ノ二元ヲ説キシガ、其實唯心論ニシテ分析上ニ心ヲ説明シ以テ心ノ本體アルヲ發見セシモ尙ホ心ノ本體ヨリ此世界ヲ開發セルヲ説カズ、故ニ是亦權大乘ノ位置ナリ、然ルニヘルデル、シェーリング、ヘーゲル等ニ至リテハ活動力ヲ有セル神ヨリ此世界ヲ開發スルヲ説クヲ以テ佛教ノ眞如緣起説ニ近シ、即チヘルデルノ哲學ハ起信論ノ眞如發説ニ類スル所アリ、故ニヘルデル以下ノ哲學ヲ以テ實大乘ト看做スモ亦可ナランカ。

ヘルデル氏ガスピノザ、ライプニッツ二氏ノ説ヲ折衷セシコトハ前既ニ述ヘタリ、而シテ其ノ神ノ規律ヲ論スルニ至リテモ亦兩説ヲ調和セリ。スピノザハ必然論ヲ唱ヘ宇宙間唯一ノ因果必然ナル天則アリテ宇宙万有ヲ支配シ神ト雖モ此規律内ニ存シテ決シテ之ヲ動カスベカラズト。而シテライプニッツハ目的論ヲ説キ神ガ世界創造ノ時既ニ豫定セル目的ヲ以テ此世界ヲ支配スト。然レドモ兩説トモニ各其弊アリテ若シ必然論ヲ取レハ吾人ハ因果ノ規律(器械的)ニ制セラレ若シ又目的論ニ因レバ吾人ハ神ノ意思ニ(自由的)ニ制セラル、故ニヘルデルハ兩説ヲ折衷シ、前者ニ對シテハ世界ノ活動スル所以ハ神体内ニ存セル力ノ活動スルナリ、其所謂因果必然ノ規律ハ即チ神ノ中ニ存セル活動作用ナリトシ必然論ノ一邊ニ偏スルヲ避ケ、又後神ノ者ニ對シテハ神自身ノ活動作用ガ開發シテ世界トナリシ者ナレバ之ヲ活動ト云フモ或ハ自然ノ規律ト云フモ異ナルヲナシ、故ニ吾人ハ決シテ神ニ制セラル、ニアラズト論シ目的論ノ弊ヲ除キタリ。而シテ氏ガ始メテ此折衷ヲ唱ヘシヨリシニ、ライプニッツハ絕對無限ノ開發ヲ説キヘーゲルハ之ニ次テ理想ノ進化ヲ論シ、茲ニ始テ世界ト神ト一躰ニナリ、又從來一致セザリシ必然目的ノ二論相統合スル

ニ至レリ。蓋シ唯物論者ハ物質上ノ規律ニ本クモノナレハ必然説ニ傾キ、唯心論者ハ先天性ノ心力ヲ説クモノナレハ自由論ニ偏スルハ、是レ免ルベカラザル弊ニシテカント以前ニ在リテハ此兩説全ク一致スルヲ得ザリキ、然レドモカントニ至リテ始テ一元論ノ端緒ヲ開キヘルデルニ及ビテ漸ク其理ヲ明カニセリ。前段ニ於テカントガ一元論ニ進ミナガラ之ヲ説キ盡スヲ得ザリシコトヲ述ベシガ茲ニ至リテヘルデルハ目的必然ノ二論ヲ一致結合シテ一元開發ノ理ヲ啓示スルニ至レリ。ヘルデル氏ノ世界開發説ハ既ニ陳述セシ如ク、神自身ノ有セル大勢力大活動力ヨリ順序ヲ追フテ万有其形象ヲ現示スルモノナリ、恰モ一個ノ草木ガ一粒ノ種子ヨリ芽ヲ萌シ幹ト成リ枝ト分レ葉ヲ生シ、花ヲ開キ實ヲ結ブガ如シ。初メ世界ノ開發スルヤ先ツ物質中結晶性ノモノヲ生シ、順序ヲ經テ草木及ビ動物ヲ生シ、最後ニ人間ヲ生ズ。人間ニ至レバ畜ニ肉體上ノ四肢百骸ヲ具フルノミナラズ、又精神ヲ有ス、而シテ其身體ハ結晶性若クハ動植物ヨリ遙ニ高等ニ位シ、精神モ亦タ一種特殊ノ性質ヲ有ス。サレバ人間ナルモノハ一方ニハ物質界ノ最上ニ位シ、他方ニアリテハ精神界ト交通シ、物心兩界ヲ連結スルノ位置ニ立チテ、以テ兩界ノ連鎖タルモノナ

リ、即チ人間ハ生レテヨリ人間自然ノ發達ニ順フテ其固有セル本性ヲ發揮シ、物質上ニハ有機體中ノ最上ニ達シ、精神上ニハ高等ノ精神界ヲ其體中ニ開キ以テ其ノ自由ヲ得ルニ至ル故ニ人間ノ歴史ハ人間ノ人間タル本性開發ノ順序ヲ示シタルモノナリ。顧ミテ此世界ヲ觀ルニ其始ハ渾沌トシテ不整頓不規律ナル一塊ナリシガ、其中ヨリ漸々順序成立シ規律確定シ以テ今日ニ及ベルナリ、之ト同シク精神界モ亦最初ハ不規則不完全ノ者ナリシモ漸々秩序相定マリ規律備ハリ道理發達シテ遂ニ完全ナル者トナレリ、是レ何ニ由テ然ルヤ、即チ神自身ノ體ニ具ヘタル大活動力ノ開發ナルヲ以テナリ、且ツ神ハ單ニ人間性ノ開發ヲ支配スルニ止マラズ、一切万物悉ク其支配スル所ナリ、故ニ神ハ天地方有ノ外ニ存在スルモノニアラズ、方有ノ中ニアリテ而モ方有ノ上ニ其ノ大勢力ヲ發現啓示スルモノナリ。要之森羅万象總テ其始ハ不規律不完全ナルモ其發達ノ進ムニ從ヒテ事物ノ關係判明トナリ秩序整頓シ規律確定シ遂ニ相一致契合スルニ至ル、是レ畢竟神ノ命令支配スルガ故ナリト以上陳ヘタルヘルデル氏ノ説ハスピノザノ方有神教論及ヒ因果必然論ヲ持チ來リテ之ニ加フルニライブニツノ元子開發論及一致契合論ヲ加ヘテ之ヲ統

合シ以テ宗教哲學ノ原理ヲ組織シ、タルモノナリ。

今ヘルデル氏ノ説ヲカントノ説ニ比較スルニカントハ世界以外ニ神アリト云フニトハ理論上ニ於テハ空想妄説ナリトシ實際上ニハ必要ナルモノトセリ、然ルニヘルデルハ之ニ反シテ神ガ世界ノ外ニ存スト云フハ理論上不道理ナルニシテ實際上ニモ亦不必要ナリ、然レドモ此ノ世界方有ノ上ニ考フルトキハ此世界方有テ開發スル所ノ本源タル神ハ必ス現存セサルベカラズ、而シテ此神ハ世界方有ノ中ニ位シ、衆勢力ノ大原因、衆活動ノ大根本タルモノナリ、其説タル吾人ハ確ニ存在シ、又吾人ニハ道理ヲ有シ諸種ノ事柄ヲ思考スルヲ見レバ吾人ノ道理思想ノ最上ニ位スルモノナカルベカラズ、又此世界ノ上ニ山川草木禽獸魚介等森羅万象ノ現ハル、ヲ見レバ之ヲ發現スベキ原因本體必ズナカルベカラズ、又万物ノ一元子個々獨立ノ成立ヲ爲スヲ見レバ此總元子ノ基礎トシテ存セル活動ノ體ナカルベカラザルハ瞭乎トシテ火ヲ見ルガ如シ、要スルニ之ヲ吾人ノ心内ニ考察スルモ又之ヲ外物ノ上ニ觀察スルモ物心方有ノ本體タル大基礎大根本ナカルベカラズ、此者ハ即チ是レ神ナリ、故ニ曰フ神ハ世界方有ノ本源ナリト、而シテ其ノ體ハ現象ヲ



離レテ存スルニアラズ、現象ノ中ニアリテ而モ現象ニ活動ヲ與フ、然レドモ神其者ノ跡ハ無現象ナリ、故ニ神ヲ以テ一種ノ現象トシテ見ルベカラザレドモ、既ニ現象ヲ顯ハスベキモノナレバ吾人ノ思想上其本體アルヲ推知スルヲ得ルナリ。又カントトハ理性ニ考フル所ノモノハ神ノ現存ノ如キ盡ク空想ナリトセシガ、ヘルデルハ之ニ反シテ理性ノ想像ハ決シテ偶然ニアラズ、必ズ其ノ顯ハルベキ必然ノ道理ノ既ニ内部ニ存セルヲ以テ然ラシムルナリ、凡ソ吾人ノ想像觀念スルヲ得ル所以ノ者ハ其基礎ニ神ノ存セルヲ以テナリ、故ニ吾人ノ思想中ニ深ク考フルトキハ神ノ存在セルトハ明確ニシテ疑フベカラズト。此神ノ解釋ハ氏ノ宗教說ノ基ツク所ナリ。

ヘルデル氏ノ所謂神ハ最上ノ勢力、最上ノ道理ヲ具ヘタル物心万境ノ本體ニシテ此本體ノ勢力万有ノ上ニ及ホシテ秩序規律ノ一致契合ヲ成立タシムト云フコトハ既ニ述ベタル所ナリ、而シテ氏ノ所謂宗教トハ此世界ニ顯現スル神ノ作用ヲ吾人ノ心ニ領納スルモノナリ、換言スレハ吾人ハ世界ノ一部分ニシテ世界ノ全體ハ神ナリト云フコトヲ直接ニ認識シ其道理ヲ已ニ會得スルガ宗教ナリ、夫ノカント

ガ道德ヲ以テ宗教トシ、又通俗ノ宗教者ガ吾人ハ世界以外ノ神ニヨリテ支配セラレ之ニ服従スル義務アリト云フコトヲ以テ宗教ト看做スガ如キハ皆宗教ノ全體ヲ知ルモノニアラズ、吾人ハ此世界ノ一部分ナルコトヲ自ラ證見スルガ即チ宗教ニシテ、之ニ伴ウテ道德上ノ關係モ亦起ルモノナリト。此點ハ通俗ノ宗教說及ヒカントノ道理說ニ比シテ一層高尙ナルガ如シ、斯ノ如ク氏ハ万有神教ニ重テ置キテ宗教ノ原理ヲ説キタルモノナルヲ以テ、吾人ニ其宗教ノ道理ヲ告示スルモノモ亦世界万有ニシテ、此世界万有ハ最上ノ大勢力ノ發現ニヨリテ一大有機體ノ有様ヲ顯ハスモノナレバ、宗教ノ思想ハ万有其者ヲ觀察シテ領得スルヲ得ベシ、而シテ此理ヲ推究スルトキハ太古ノ人民ガ事々物々ヲ見テ神ト想像セシモ、決シテ單純ナル空想ニアラズシテ、真正ノ宗教思想ガ開發スル最初ノ状態ナリト云ヘリ、而シテ氏ハ此點ヲ取リテ經典ノ奇蹟怪談ヲ説明セシコトヲ試ミタリ、即チ經典ハ世界創造ノ說ヲ始メ總ノ事實奇怪ナラサルハナシ、故ニ道理ヲ主張スルモノハ之ヲ信憑スルモノナシト雖モ氏ハ之ヲ説明シテ曰ク、蓋シ經典中ノ怪談タル古代無智ノ人民ガ事々物々ヲ以テ神ナリト想像シ、又詩人ガ天文地理ヲ察シテ神ノ作用ヲ感シ

其想像ヲ描キ顯シテ天地ノ美妙ヲ寫出スト同ク、此世界ノ一大勢力發現ノ有様ヲ感シテ起シタル想像ナリ、故ニ之ヲ表面ヨリ見ルトキハ不道理ナルガ如キモ、其内部ニ入りテ考察スルトキハ其内ニ一大真理ノ合メルヲ認ムルナリ、サレバ經典ハ神力ニヨリテ開發啓示セル世界万有ノ状態ヲ畫キ出シタルモノナリト云フモ敢テ不可ナルコトナシト。

今ヘルデル氏ガ此説明ヲ考フルニ此世界ハ神ノ大勢力ノ發動ナレバ如何ナル國民ト雖モ之ヲ感ストハ或ハ其理ヲキニアラザルベケレドモ、經典上ノ奇蹟怪談ヲシテ今日一般ノ道理上ニ照スコトナク、又之ヲ事實上ニ徵證セズシテ論斷セシハ氏ノ闕點ト云ハザルベカラズ、若シ之ヲ哲學上ノ一説トナサントセバ道理上満足スベキ解釋ヲ與ヘ、又之ヲ事實上ニ觀察シテ果シテ信スベキモノナルヤ否ヤヲ論究セザルベカラズ、故ニ氏ノ此説明ハ決シテ學術トシテ受取ルヲ得サルナリ、然レトモ又其長所アリテ從來ノ道理學者ハ道理一方ニ偏局シ、單ニ外部ヲ一見シテ其事ノ道理ニ反スルアレバ直ニ之ヲ排斥シテ毫モ其内部ノ如何ヲ顧ミザリシガ、氏ハ之ト異ナリテ深ク其内部ニ立入り之カ觀察ヲ下セリ、即チ蠻民ガ日月ヲ拜

シ木石ニ禮スル如キ信仰想像ハ固ヨリ非理ノコトニシテ取ルニ足ラザレドモ、若シ其内部ニ入りテ何故ニ此ノ如キ者ヲ信スルカヲ探究セハ、是レ實ニ世界ノ活動ニ感シテ起シタル想像ナリト云フコトヲ知ルニ至ラン、故ニ氏カ此内部觀察ハ氏ノ長所ト稱セサルベカラズ、然ルニ茲ニ又氏ノ說ノ前後相違スル所アリ、即チ氏ハ始ニハ幾分カ奇怪ノ事蹟ヲ許セシガ、後ニスピンザノ因果必然論ヲ講究スルニ至リ稍、其說ヲ變スル所アリ如何ニ奇怪ノ事ト雖モ道理上説明シ得サルモノニハ歴史上研究ヲ費サレバ明ナラズト云ヒ、道理上ノ解釋ヲ以テ奇怪ノ事實ヲ除カンコトヲ力メタリ、故ニ前後幾分カ相異ナル所アリ。

ヘルデル氏ノ天啓說ハレツシングト全ク天啓ハ教育的ノモノトス、其說ヲ見ルニ天啓ハ決シテ道理ニ脊反スルモノニアラス、天啓ハ總ノ道理觀念ノ基礎ニシテ、道理ノ發育ニ從テ天啓ヲ知リ、天啓ニ由リテ道理ノ發達ヲ促ガス、故ニ吾人ハ天啓ノ指導ニヨリテ宇宙間ニ一大道理ノ存シ一大勢力ノ有ルヲ發見スルヲ得、是レ天啓ヲ以テ教育的トスル所以ナリ、恰モ天啓ハ母ノ如ク道理ハ幼兒ノ如シ、母ノ幼兒ヲ養育シテ幼兒自身ニ獨立シテ歩行スルニ至ラシムルト同ク、天啓ハ吾人ノ道

理ノ幼稚ナルヲ導キテ以テ吾人ガ自由ニ道理ヲ使用スルヲ得セシムルモノナリ、故ニ天啓ハ決シテ道理ヲ離レタルモノニアラズト。又從來ノ宗教家ハ天啓ヲ以テ秘密不可知ノモノトセシガ氏ハ之ニ反シテ天啓ハ道理ノ發達ヲ促ガス先導者ナリトス、而シテ天啓ノ人智ヲ進歩セシムルニ於テ時ト場所トニ由リテ緩急遲速ノ相異アルハ畢竟神ガ或ル特別ノ人種ニ人間自然ノ本性ヲ開發スルニ於テ特別ノ時代ニ特別ノ資助ヲ爲シタルナリ、故ニ時アリテ或ハ賢哲ヲ出シ或ハ聖人ヲ生セシメテ人民ヲ開導スルコトアリ、是レ皆神カ人民ヲ教導スル方法ナリ、サレバ天啓ハ自然以外道理以外ノモノニアラザルハ明ナリ、又從來耶蘇教中神託(Inspiration)即チ神ガ人ノ精神ニ憑リテ託宣ヲナスト云フコトヲ信マ、之ヲ以テ理外ノ理ト考ヘタリ、然レドモ氏ハ是レ神ガ人ノ精神ヲ高尙ナラシムル所以ノモノニシテ決シテ秘密的ノモノニアラズト説明セリ。

ヘルデル氏ハ耶蘇教ヲ以テ人間教ノ一種トセリ、曰ク耶蘇教ハ人間ヲ愛シ人間ヲ助ケ人間真正ノ性質ヲ開發スル爲ニ起リタル宗教ナリ、夫ノ耶蘇ヲ見ヨ、其一代ノ所爲ハ耶蘇教ガ人間教ノ一種タルヲ證明セルモノニシテ、耶蘇ガ己ノ一身ヲ殺シ

テ人間ヲ救ヒシハ是レ人間教ノ人間教タル所以ヲ實地ニ行ヒタルモノナリ、蓋シ神ハ天父ニシテ耶蘇ヲ始メ吾人々類ハ皆神子ナリ、故ニ耶蘇ノ心中ニハ人類ハ總テ己ノ同胞兄弟ナルヲ信マ、之ヲ以テ其本心ヲ組立ツルガ故ニ人類ヲ愛スルノ情念、切ニシテ遂ニ其身ヲ十字架上ニ置キ以テ同胞人類ヲ救助セントセリ、是即チ耶蘇教ガ人間教タルノ證ナリ、此ノ如ク耶蘇教ハ人類ヲ愛シ人類ヲ進メ人類固有ノ本性開發ヲ目的トシテ成立シタル者ナレドモ、其世間ニ擴張スルト共ニ一種ノ習慣ヲ生シ其本來ノ性質ヲ失ヒ漫ニ外形ノ虛禮儀式ニ奔リ、之ニ加フルニ耶蘇教以外ノ風習ヲ混入シ肉食ヲ戒メ妻帯ヲ禁マ遁世脫俗ノ風起リテ遂ニ社會進歩ノ妨害ヲ爲スニ至レリ、凡ソ此等ノ事ハ悉ク人間教タル耶蘇教本來ノ性質ニ乖戾スルモノナリ、是レ畢竟中世耶蘇教ノ極メテ盛ナリシカ爲メ此弊風ニ陥リタルモノナリ、然ルニ近世ニ至リテ夥多ノ學者輩出シ此等弊習ノ耶蘇教ノ真意ヲ誤ルヲ看破シ以テ耶蘇教ノ眞面目ヲ形ハシ其正當ノ位地ニ復セシメントセリ、蓋シ藥ニシテ毒ト變スルヲ得バ毒モ亦藥ニ變スルヲ得ヘシ、中世惡弊ノ毒本ト純善ナル耶蘇教ヨリ出テタルモノナレバ、遂ニハ復テ惡弊ヲ轉シテ純粹ノ人間教トナルニ至ルベキ

ハ必然ノト云フベシ。而シテ今耶蘇教ノ積弊ヲ洗滌シ人間教ノ眞面目ニ復セシ  
 メントセバ唯、一ノ經典ニ依ルノ外ナシ、經典ハ淳朴ノ風ヲ帶ヒ言語文章亦古雅ニ  
 シテ、道德上人間性ヲ開發スルニ最モ適當ナリ、若シ眞正ニ經典ノ根本ニ復歸スル  
 テ得バ宗教ノ改良茲ニ至リテ畢レト謂フベシ。又通常經典ヲ見テ其奇蹟怪談ニ  
 滿サ、ルヲ訝カルト雖モ、是レ決シテ奇怪ナルコニアラス、人間性ノ最モ完全ナル  
 眞善眞美ノ状態ヲ其中ニ含有セルモノナリ、故ニ人ハ之ニヨリテ眞且美ナル性質  
 ヲ開發スルヲ得ベシト論ヲタリ。

以上陳述シタルヘルデル氏宗教哲學ヲ概括スルニ氏ハスピノザ、ライブニツノ兩  
 氏ノ説ヲ統合シ、此後ニ起ル所ノ理想哲學ニ向テ新思想ヲ與ヘタルモノナリ、故ニ  
 氏ハ理想哲學ノ前驅ヲナスト云フモ可ナリ。而シテ其宗教上經典ノ解釋ハ、レツシ  
 グテ取リテ教育的ノ者トセシガ、氏ハ更ニ進ミテ從來一致セザリシ道理ト天啓ト  
 ヲ結合セリ然レトモ其論タル氏以後ノ説ニ比スレバ其見ル所至リテ淺近ニシテ  
 宗教心ヲ説クニ於テモ之ヲ分析スルコトナク、且ツ宗教心ノ尙ホ深クシテ且ツ高  
 キ原因即チ本心ヨリ發生シ來ルモノナルコトヲ知ラザリキ、斯ノ如ク氏ハ幾分カ

理想一元論ノ論緒ヲ開キタルモ、氏ハ理想學派ノ門ニ入りテ未ダ其堂ニ登ラサル  
 モノナリ、サレド十八世紀ノ學風ヲ一變シテ十九世紀學風ニ轉セシメタル功ハ氏  
 ニ歸セサルベカラズ。

第四段 直覺學派

第三 ヤコビ氏哲學

ヤコビ氏 (Friedrich Heinrich Jacobi) ハ千七百四十三年普魯西ゾーセルドルフニ生  
 ル。始メ氏ノ父ハ氏ヲシテ商人タラシメントセシガ、氏ハ瑞西ノゼナバニ在リテ教  
 育ヲ受クルノ間哲學ヲ好ミ之ヲ研究セリ、然レドモ父ノ目的ニ反スルヲ以テ其教  
 育終ルノ後專ラ商業ニ從事セシガ、商業ハ氏ノ好ム所ニアラザレバ後之ヲ廢シ專  
 ラ哲學ノ講究ニ從事セリ、千八百〇四年ミューニヒ學校ノ招聘ニ應シ其校長トナリ  
 終生此職ニ當リ千八百十九年其地ニ沒ス、氏ハ哲學者タルノミナラズ又詩人ニシ  
 テ能ク世態人情ニ通ゼリ、故ニ其哲學ノ如キモ論理上並ニ講究上往々精密ヲ缺ク  
 ノ弊アリ又其書モ順序系統ノ整備スルモノナシ、要之氏ノ書ハ談話牀、隨筆牀ノ文  
 章ナリ、且ツ氏自身ニモ缺コトヲ知リ自ラ説明シテ曰ク、余ノ書ハ余ノ意志ヲ以テ

人爲的ニ順序ヲ設ケ或ハ組織ヲ立ツルコトナシ、唯吾心中ニ考フル所アレハ其儘  
之ヲ寫シタルモノナリト、思フニ氏ノ説ガ世ニ行ハル、コトノ少ナキハ其書ノ分  
類明ナラサルト順序ノ整ハサリシ故ナラソカ。

ヤコビ氏ノ哲學ハカントノ哲學ヲ批評スルヲ以テ起リタルモノニシテ、氏ハカ  
トニ反對シテ直覺的學説ヲ唱ヘ信仰原理ノ哲學ヲ講セリ、故ニ氏ハ直覺學派中尤  
モ有名ナル一人ナリ。カントノ説ハ主觀的理想論或ハ抽象的道理教ノ一邊ニ偏倚  
シタルモノナルガ、氏ハ之ニ反シテ直接ノ知識(直覺)即チ吾入ガ道理思想ヲ待タズ  
シテ直感即知スル所ノモノヲ以テ哲學ノ原理トス、是ノ所謂信仰ナリ、故ニ信仰ハ  
道理ヲ要セズ吾ガ感シテ其事ニ疑ナキヲ云フ。此ノ如ク氏ハカントガ道理一方ニ  
偏シタルト同シク直覺ノ一邊ニ僻シタルヲ以テ、氏ハ直覺ト思想、即チ氏ノ所謂直  
接的知覺(直覺)ト間接的思想(推理)トヲ結合スルヲ得ザリキ。

ヤコビ氏ノ哲學ガ順序系統ノナキコトハ既ニ陳ベタリ、畢竟氏ガ一家ノ哲學者ト  
シテ知ラシタルハ重ニカントノ哲學ヲ批評シテ其論理上ノ據着ヲ指摘シ、道理一  
邊ノ説ニ反シテ、信仰説ヲ立テタルニアリ、然レドモ氏ノ學ガ獨乙哲學ニ及ボシタ

ル影響ハ頗ル大ニシテ、氏ガ始メテカントノ哲學ヲ批評シタルガ爲ニ學者諸方ニ輩  
出シカントカ遺シタル餘地ニ向テ説明ヲ企テタリ、故ニ氏ヲ以テカントノ哲學批評  
ノ率先者トス、而シテ氏ガ批評ノ論鋒ハ甚タ鋭敏ニシテ明確ナリシガ、其説ノ組織  
ヲ有セザルカ爲ニ左程ニ世ニ行ハレザリシハ實ニ惜ムベキコトト云フベシ。  
ヤコビ氏カントノ哲學ヲ批評シテ曰ク、カントハ唯物唯心ノ兩説ノ間ニ彷徨スル  
ガ如クシ、何トナレバカントハ外界ノ事物ヲ以テ知識ノ原因トシ、其知覺ニ顯ハル  
ノ所ノ外界其者ノ本體ハ人智以外ニアリト云フヲ見レバ唯物實體學者ノ説ノ如  
シ、然ルニ一方ニ於テハ外界ハ悉ク主觀以內ニアリトシ、知覺ノ原因ヲ悟性ニ皈シ、  
悟性ノ先天的原則ニヨリテ外物ノ吾知覺上ニ顯ハル、所以ヲ説ク、故ニ氏ノ説ハ  
此三點ニ於テ據着テ生シ二者ノ間ニ彷徨シテ其皈スル所ヲ知ラズ、而ルニ今カ  
トノ説ヲシテ唯心説トセンカ、其説一部分ノ唯心説ニシテ完全ナルモノニアラズ、  
故ニフ、ヒテハ更ニ一步ヲ進メテ全體ノ唯心ヲ立テタリ、ヤコビハカントニ服セザ  
ルハ勿論、併セテフ、ヒテノ説ヲモ取ラズ、何故ニ氏ガフ、ヒテノ絶對的唯心論ヲモ取  
ラサリシカト云フニ、吾人ノ意識上ニハ主客兩觀彼此相對シテ存シ二者互ニ制限

シテ成立ツモノナリ、若シ主觀ニシテ無カラシカ客觀ナルモノ何レニカアル、若シ客觀ニシテ存セザラシカ主觀亦存スルコト能ハズ、然ルニ此相對的ノモノヲ以テ絕對的トセバ何故ニ絕對的ノモノ意識中ニ相對的トナリテ顯ハル、ヤ又何故ニ二者同時ニ存在スルヲ得ルカ、又フイヒテハ主觀ノ本體ヲ以テ正確ナルモノトシ之ヲ離シテ客觀ナルモノナシト斷定セシガ、若シ果シ然カ云フヲ得バ客觀外ニ主觀ナシト云フモ亦何ノ不可カラシ、是レヤコヒノフイヒテテ排斥シタル所以ナリカ、  
 ノトハ神ノ現存意志ノ自由靈魂ノ不滅ノ如キ問題ハ純理批判ニテハ空想トナシ、之ヲ實理批判中ニ説クニ當リテ實際上必要缺クベカラザルガ故ニ神ハ現存シ靈魂ハ不滅チリトセシハ論理上許サザル所ナリ、例セバ夢ノ空想ハ迷見ヲ以テ之ヲ信セバ確ニ存在セルコトヲ信スルヲ得ベキモ實際上ニハ空無ナルモノナリ、之ト同シク神ノ形骸ノ如キハ迷信上現見スヘキモ是ヲ以テ實在ヲ證スヘカラス、然ルニ實際上ニハ必要ナルヲ以テ存在スト云フカ如キハ謬妄モ亦甚シキ論斷ニシテ、實際上如何ニ必要ナリトモ之ヲ以テ直ニ實在ト云フハ論理上許スベカラス、故ニカントトハ理論ト實際トヲ結合スルヲ得ズシテ二者ノ間ニ彷徨シタルモノナリ。

是レ蓋シカントガ道理一邊ヲ取リタルヲ以テ勢ヒ爰ニ至ルナリ、凡ソ真理ナルモノハ道理ノミニアラズ、道理以外ニ道理ノ本ヅク所ノ真理ナルベカラズ、此真理ハ即チ直覺信仰ナリ、ヤコビガカントノ道理教ニ反シ又一般ノ哲學ニ反シテ立ツル所ノ原理ハ此ノ直覺即チ直接的知識ナリ、直覺トハ自ヲ開ケハ直ニ物ノ形狀黑白ヲ知リ、耳ヲ款ツンバ直ニ聲音ヲ分チ其間ニ毫モ思慮ヲ要スルコトナキヲ云フ、而シテ此直覺ハ單ニ感覺上ノ知識ナリヤト云フニ、氏ハ感覺ヲ内覺ト外覺トノ二種ニ分チ、通常五官上ノ感覺ハ外覺ニシテ此他ニ内界上ノ感覺即チ内覺アリトス、ヤコビハ直接的智識ヲ主張シテ曰ク、如何ナル道理議論モ既ニ論定セラレテ自然ニ明瞭ナルモノナカルベカラス、今甲ヲ論セントスルニ甲其者ハ未タ確定セザルモ甲以外ニ乙或ハ丙ノ既ニ確定セルモノナカルベカラス、若シ甲ヲ定メントスル乙ニシテ不確定ノモノナラバ何ヲ以テ甲ヲ定ムルヲ得、故ニ乙若シ不確定ノモノナラバ乙ノ他ニ更ニ丙或ハ丁ノ明瞭確定ナルモノナカルベカラス、恰モ幾何學上一ノ公理ヲ立テ、二點ノ最近距離ハ直線ナリ、部分ハ全體ヨリ小ナリト云フ如キハ既ニ明確ナルモノト斷定シテ是ヨリ他ニ論及スルガ如シ、此議論證明ヲ要セ

スノ既ニ明瞭確實ナル者ハ即チ我人カ自然ノ啓示ニヨリテ直ニ感知スル者ニシ  
 テ所謂直接的知識是ナリ。要之直接的知識ハ思想上ノ想像ヲ要セス又道理ノ證明  
 ヲ待マズ。總テ思想ノ媒介ナクシテ直ニ外物ヲ知ルモノナリ。而シテ此知識ハ空妄  
 ナル想像又ハ虛偽ナル現象ノ如キ者ニアラズシテ直接的ニ感知スル所ノモノハ  
 裏面ニハ一種不可思議ノ本體アリ。此本體ノ啓示ニヨリテ直覺アリ又直覺ニヨリ  
 テ其本體ノ存スルヲモ知ルヲ得ベシト。  
 以上陳ベタル所ニヨレバヤコビノ説ハロソク等ノ唱ヘシ普通ノ感覺説ニ似タル  
 ガ如キモ其實大ニ相異ナル所アリ。今其異點ヲ擧クレバロソクノ説ハ現象ノミニ  
 就テ講究シ現象以外ノ本體ニ論及セス。然ルニヤコビノ説ハ現象ノ基礎タル本體  
 アリトシ其本體ハ思想上推理シテ知ルニアラズ。現象ヲ見ルト同時ニ其裏面ニ本  
 體アルコトヲ感知スト。此レ其異ナル第一ノ點ナリ。次ニ普通ノ感覺説ハ五官ノ感  
 覺ニ止マリテヤコビノ所謂外覺ナルモノナリ。然ルニヤコビハ内意ナルモノアル  
 ヲ唱ヘ五官ニ感スルヲ得ザル本體即チ神ノ如キモノヲ直ニ心内ニ感知スルヲ得  
 ト。此レ其ノ異ナル第二ノ點ナリ。

カントハ心ヲ覺性悟性理性ノ三ニ分チ純理上ニハ悟性ヲ主トシ實理上ニハ理性  
 ヲ本トス。然ルニヤコビハ之ニ反シテ理性悟性ヲ棄テ之ヲ覺性ノ上ニ説キタリ。氏  
 ハカントノ説ヲ評シ悟性ヲ排斥シテ曰ク悟性ハ理解力或ハ推理作用ト云フベキ  
 モノニシテ形アリテ實ナク全ク虛想ナルモノナリ。而シテ其形ヲ充タス所ノ材料  
 ハ感覺ヨリ來ルモノニシテ唯感覺ノ材料ヲ收集シ之ヲ順序正シク組織スルノミ。  
 故ニ悟性ハ智識ノ物柄トナルヲ得ズシテ畢竟概念ト云ヒ總念ト云フモノト同一  
 ナリ。總念ハ決シテ智識ヲ組立ツルコトナク只其形ヲ與フルノミ。是ヲ以テ氏ハ總念  
 概念ト空虚ナル抽象的思想トシ外形ノ實體ヲ知ル作用ハ唯直接的知識ナリトセ  
 リ。此ノ如ク外界ノ實體ヲ直覺ニ由リテ知ルヲ得ト等シク内界ノ實體ヲモ亦知ル  
 ヲ得。乃チ氏ハ直覺ヲ内外ノ二種ニ分チ外部ノ直覺ハ外界ノ本體ヲ知リ内部ノ直  
 覺ハ神ノ現存等ノコトヲ知ル。今何故ニ神ノ現存スルコトヲ直覺作用ニ由リテ知  
 ルヲ得ルカト云フニ若シ神ニシテ道理上證明スルコトヲ得ハ是レ既ニ神ニア  
 ラズ凡テ證明トハ推論スルコトニシテ推論スルニハ或ル既知ノ者ヲカスルカラ  
 ズ。然ルニ神ハ尤モ明瞭ニ尤モ確實タルモノナリ。此レ明瞭ナル者ヲ他ノ者ニ由リ

ヲ推論セバ是レ神ヲ以テ不明不確ノ者トスルナリ神ハ決シテ然ル者ニアラス、證  
 明以外ニアル所ノ自明自證ノ者ナリ。且ツ吾人ノ思想上、眞善或ハ自由ト云フコト  
 ルハ神ニ就テノ直覺ヨリ起ル者ナリ、故ニ神ハ總ノ思想、總ノ道理ノ根本ナリト。  
 方向ヲ轉シテ更ニ以上ノ論點ヲ說明セバ、悟性或ハ概念ニヨリテ推究スルハ凡テ  
 一ノコトヲ他ノコトニヨリテ說明スト云フコトヲ意味ス、故ニ悟性概念ハ互ニ制  
 限セラル、事情ノ中ニ於テ一方ヨリ他ニ及ボスモノナリ、換言スレバ悟性概念ハ  
 相對的有限ノ間ノ知識作用ナリ、吾人ハ即チ其間ニ議論ヲ上下シ相對的ヲ離レテ  
 一步モ進ムヲ得ズ、然ルニ神ハ無限絶對ノ躰ナリ、故ニ若シ吾人有限ノ知識ヲ以テ  
 之ヲ證明センカ然ルトキハ神ハ有限ノ範圍内ニ入り復タ無限ニアラス何者事物  
 ニハ證明スルモノ(能證)ト證明セラル、モノ(所證)トアリ、神ハ證明セラルモノ即  
 チ所證ノ躰トセンカ、之ヲ證明スル者即チ能證ノ躰ハ有限ノ事物ニシテ且ツ所證  
 ノ者ハ能證ノ者ノ一部分ヲ分派シタルモノナラザルベカラス、例セハ茲ニ甲ナル  
 一物アリ之ヲ證明スルニ乙ヲ以テス、即チ甲ハ所證ニシテ乙ハ能證ナリ、而シテ甲  
 ヲ證明スルハ乙ノ中ニ存セル眞理ヲ分チテ甲ニ與フルナリ、故ニ今有限的事物ヲ

以テ神ヲ證明セントセハ神ハ有限ノ者ヨリ分派シタルモノトナルナリ、然レトモ  
 神ノ有限ナラザルハ既ニ明ナリ、且ツ悟性概念ナル吾人ノ道理作用ハ万有自然ノ  
 理法ニ基ツキ經驗上ノ原則ニ照シテ論スルモノナレバ神ノ存在、精神ノ不滅ノ如  
 キ問題ハ如何ニ此レガ解釋ニ力ヲ盡スモ到底完キヲ得ズ、故ニカントハ純理批判  
 ニ於テ之ヲ否定セリ、ヤコビモ亦神ハ道理作用ヲ以テ決シテ知ルベカラス、之ヲ知  
 ルハ直接的智識即チ直覺ニ依ラザルベカラザルコトヲ云ヘリ、而シテ其直覺中殊  
 ニ内界ニ存スル直覺即チ信仰作用ニ於テ感知スルナリ、此信仰ハ他物ノ假定ヲ要  
 セズ直接ニ其確實ナルヲ知ル、故ニ吾人ガ感覺以上現象以外ノ事ハ總テ信仰ニ由  
 ラザルベカラズト。  
 以上陳述セシ如ク、ヤコビ氏ハ信仰ヲ以テ總ノ智識ノ基本トセシガ、世間或ハ氏ヲ  
 目シテ盲目信仰論者ト看做サントテ恐レ、氏自身ニ之ガ盲目信仰ニアラザルコト  
 ヲ辨護セリ、氏ハ曰ク愚夫愚婦ノ信仰ハ其事ノ善惡正邪ヲ問ハズ一概ニ他人ノ說  
 ヲ其儘信ス、是レ即チ盲目信仰ナリ、然レドモ余ガ所謂信仰ハ他人ノ說ニ憑リテ信  
 スルニアラス、己ノ心ニ於テ自ラ感シタルモノヲ謂フナリト、由此觀之、氏ノ所謂信



仰ハ愚夫愚婦ノ信スル盲目信仰トハ異ナル所アリト雖モ之ヲ道理或ハ理解ニ比  
 スルニ亦全ク異ナルモノナリ道理理解ハ有限ノ間接的智識ニシテ氏ノ所謂信仰  
 ハ無限ノ智識即チ天啓ニヨリテ自然ニ感スル所ノ直接的智識ナリ此道理ト云フ  
 ヲトニ就テ氏ノ説前後ニ於テ不同ヲ生ス始ニハ道理ト理解トテ同一視シ共ニ之  
 ヲ有限的ノモノトシテ直覺信仰ヨリ區別セシガ後チカントノ覺性悟性及理性ノ  
 區別ヲ見理性ノ道理上ノ直覺ハ即チ信仰ナリトシ道理ト直覺トテ一致セシメ之  
 ヲ悟性ト區別セリ故ニ心内ノ直覺即チ信仰ハ道理上直接ニ感知スルモノナリ吾  
 人ハ此道理上ノ直覺ニ由リテ神ノ本體ノ如キモノヲ直接ニ感知スルコトハ猶ホ  
 感覺上ノ直覺ニテ現象上ノ有様ヲ知ルガ如シト氏ハ白ク一切ノ事物ハ内外直覺  
 ノ二作用ニ依ラサルモノナシ抑モ直覺作用ハ總ノ智識ノ根本ニシテ人獸ノ區別  
 アルモノニハ内部ノ直覺信仰ヲ有スルヲ以テナリト是亦カントト異ナル所以ニ  
 シテカントハ神ノ實存等ノ如キハ理性上ノ空想ニシテ事實上虛偽ナルモノナリ  
 ト排斥セシガヤコビハ之ニ反シテカントノ所謂覺性ヲ取リ之ヲ理性ト上ニ持來  
 リテ説明シ此等ノ問題ハ直覺ニヨルモノトシテ眞正ナルモノナリト斷定セリ且

(20)

ツカントハ悟性ヲ主トセシモヤコビハ之ヲ排斥シ理性ヲ以テ眞理ノ基礎トセリ  
 即チ感覺上ノ現象ハ外部ノ直覺ヲ以テ知ルヲ得レバ感覺以上ノ神ノ如キハ直覺  
 理性ニ由テ知ルト茲ニ至レバ氏ノ説甚スピノザニ近クキタリスピノザハ万有ノ  
 本體即チ神ニシテ吾人ノ心ハ其一部分ナレバ吾人若シ神ヲ見ゾト欲セバ須ラク  
 其心内ニ反省スベシト云ヒシガヤコビモ亦心内ニ直覺作用アリテ之ニ由リテ感  
 スト云ヘリ是レ其一致スル所ナリ然レドモ前者ハ道理ヲ本トシ後者ハ信仰ヲ本  
 トシタルハ二氏ノ相異ナル點ナリ是ヲ以テヤコビハスピノザヲ許シテ無神論者  
 トセリ何トナシバスピノザノ神ハ道理ニ由リテ説明セラレ因果必然ノ法理ニ由  
 リテ支配セラルモノニシテ所謂器械的物理的論法ヲ以テ神ニ當欲メシモノナ  
 レバ是レ却テ神ヲ無ニスルモノナリト此ノ如クヤコビハスピノザヲ排斥シタル  
 ドモ其説スピノザノ影響ヲ蒙リシコトハ甚ク大ニシテ且氏ノ力ニヨリテスピノ  
 ザ哲學モ大ニ世ニ知ラルニ至レリ  
 ヤコビ氏ノ耶蘇教ニ對スル點ハ只直覺的信仰ニヨリテ神ヲ知ルト云フヲ論シ  
 タルノミニシテ從來ノ哲學者ノ如ク實際上ノ制度儀式ニハ更ニ論及セザリキ又

(21)

耶蘇ト他教トノ區別モ耶蘇教ハ直覺ニ本ツキ他教ハ悟性ニ本ツクト云フ考ナリ  
キ要之氏ハ智情意三種中カントガ智ヲ主トセシ如ク情ヲ取リシガ氏ノ欠點タル  
所ハ此情即チ信仰一邊ニ偏セシニアリ若シ此ノ智ト情トノ中間即チ道理ト直覺  
トノ折衷ヲ取ラバ茲ニ始メテ宗教哲學上ノ真理ヲ見ルニ至ラン。

第五段 直覺學派

第四、ゴエテ氏哲學

ウオルフ、ガメク、フオジ、ゴエテ (Wolfgang von Goethe) ハ歐洲文學界ノ北斗ト稱セラレシ  
大詩人ニシテ且ツ哲學上ニモ一家ノ説ヲ爲セシ人ナリ。氏ハ一千七百四十九年獨  
逸メーン河畔ノフランクフルト府ニ生レ十五歳ニシテライプテヒニ遊ヒ此處ニ  
其教育ヲ受ク然レドモ氏ハ順序ヲ逐フテ學修シタルニアラズ千七百六十八年此  
地ヲ去リテストラスバルク大學ニ入り專ラ法律學ヲ研修シ千七百七十一年法理  
學ノ學位ヲ得タリ。千七百七十四年文學上ノ一書ヲ著述セシガ是レ氏ガ最初ノ著  
述ニシテ是ヨリ續々書ヲ著ハシ其名聲ヲ歐洲諸國ニ轟カセリ。千七百八十六年以  
太利ヲ遍歴シ二年間此地ニ止マリ千八百三十二年ワイマール府ニアリテ歿ス

ヤゴヒハ其哲學ノ系統整頓セザルガ爲ニ哲學者トシテ大家ノ稱ヲ得ルヲ能ハザ  
ルシガ其説ノ當時ノ哲學上ニ及ホセシ影響ハ尠ナリトセズゴエテノ如キモ亦  
ヤゴヒノ説ニ感動セラレテ興起シタル一人ナリ。ゴエテガ千七百七十四年ライ  
河畔ニ沿フテ漫遊セシ時ヤゴヒニ會シ親シク其説ヲ聽キ大ニ宗教哲學ノ思想ヲ  
得又此時ヨリスピノザノ哲學ヲ研究セリ。前段述ヘシ如クヤゴヒハスピノザノ影  
響ヲ蒙リシガゴエテハヤゴヒヨリスピノザノ説ヲ聞キ且ツ自ラモ亦之ヲ研究シ  
大ニ得ル所アリキ然レドモゴエテモ亦スピノザヲ祖述セシ人ニアラスシテ夫ノ  
スピノザガ本質屬性ノ説ノ如キ又因果必然ノ説ノ如キハ其取ラサル所ナリ。氏ハ  
以爲ヘラク因果必然ノ理法ハ物質上ノ規律タルガ故ニ之ヲ神ニ適用スヘカラス  
若シ之ヲ適用セハ是レ神ヲ器械的ニ説明スルモノト云ハサルヘカラス又此世界  
ノ表面ニハ必然性ノ理法アルモ其世界全體ノ裏面ニハ一種ノ理想アリテ其作用  
ヲ現バズモノナリト又氏ハ世間ノ唯神論ヲ排斥シテ曰ク世人ハ神ヲ有限的ノモ  
トトシテ説明ヲ與フレトモ是レ人間ノ有限ノ範圍ヲ擴充シタルニ過キス神ハ無  
限ノ本體ナレハ諸有限ノ上ニ位スルモノナリ故ニ吾人ハ如何ナル名稱ヲ以テス

ルモ到底神ヲ表彰スルニ足ラズト然レトモ氏ガスピノザヲ評スルヤヤコビノ如ク無神論者トセズ蓋シ氏ノ考ハ世界万有ハ總テ神ノ天啓ニヨリテ成立ツモノニシテ万有ノ時々刻々變化スルハ是レ神ノ啓示ナルヲ以テ吾人ハ心内ヲ省ルモ心外ヲ考フルモ世界万有ハ總テ皆神ヲ知ルノ階梯ナリトスルカ故ニ此説ハスピノザガ万有皆神ノ現レト説キタル點ト相一致スル所ニシテ氏ガスピノザノ影響ヲ受ケタル點亦實ニ此ニアリ然ラバゴエテハ唯一神教ナリヤ万有神教ナリヤト云フニ氏ガヤコビニ與ヘルタル書翰ノ中ニ曰ク吾ハ詩人及ヒ技術家トシテハ一神教者ナリ博物學者トシテハ万有神教者ナリト畢竟氏ノ考ハ神ト種々ノ方向ニ於テ其力ヲ啓示シ種々ノ事柄ニ於テ世界ト關係スルモノナルカ故ニ吾人ハ單一事物ニ就テ神ヲ知ルヲ得ス換言セバ神ハ心内ニ啓示スルノミナラス万有普遍ニ顯示スルモノナレハ吾人ハ廣ク内外ヲ觀察シテ始メテ神ヲ想見スルヲ得ベシト云フニナリ是レ氏カ世間ノ反對論者ヨリ不信神者トシテ攻撃セラレシ所以ナリ然レトモ氏ハ世間ノ有神論者ガ神ヲ以テ有限ナリトスル狹隘ノ考ヲ排斥シテ吾人ノ有限ナル知識思想ニヨリテ限ラレハ如キモノハ真正ノ神ニアラスト論シテ

ルヲ見レバ假令世間ヨリ不信仰者ト看做スト雖モ或ル意味ニ於テハ氏モ矢張り信仰者ナリ且シ氏ハ物心万有ノ啓示ヲ説クモノナレバ耶蘇教者ヨリ見レハ万有神教ヲ傾アズ然レトモスピノザノ意ヨリ見レハ一神教ナルガ如シ要スルニスピノザハ世界ノ本體神ナリトシテ神ノ世界ノ上ニ及ホセル作用ヲ明ニセザリシガゴエテハヘルズルト同シク万有ノ本體即チ神ニシテ神ハ万有ノ上ニ啓示ヲナスト説キ又ヤコビハ心内ノ直覺信仰ニヨリテ神ヲ知ルト云ヘドモ氏ハ廣ク万有ノ上ニ於テ感知スルヲ得ベシト云ヘリ是レゴエテハ他ノ説ト異ナルノ點ナリゴエテハスピノザニ基キタル説ニ二點アリ一ハ神ヲ以テ世界ノ本體トスル一ハ神カ世界ノ上ニ顯示スル作用ヲ因果必然ノ規則ニ從フテ是ナリ然レドモ其之ニ異ナル點カスピノザノ所謂本質ノ本體ハ活動作用ヲ有セザル死物的本體ナルモゴエテハ此本體ヲ創造力ヲ有スルモノトシ活物的本體トセリ又スピノザノ万有ハ實體ナルモノニ非スシテ本質ノ外面ニ顯ハル性質即チ外象ニ過キス且ツ其者ニ特別ノ成立勢力ヲ有スルヲナシトセシガゴエテハ万有ノ一物々々ニ勢力ヲ具スルモノナルヲ説ケリ此ニ由テ之ヲ觀レバゴエテハスピノザノ説ニライア

ニツテ加へ二氏ノ説ヲ折衷シタルモノナリ。又スピノザハ因果必然説ヲ唱ヘライ  
 プニツテハ目的豫定説ヲ主張セシガ、ゴエテハライブニツツテ取リ万有ノ内部ニ一定  
 ノ目的アリテ神ノ啓示ニ從テ開發スト説キ、又ライブニツツニ據リテ世界万有愈進  
 化スレハ一致契合スルニ至ルト説ケリ。故ニゴエテノ説ハスピノザ、ライブニツツニ  
 氏ノ折衷論ト云フモ敢テ不可ナルトナシ。又其道德説ニ於テモ氏ハ一方ニスピン  
 ザノ説ヲ取リナガラ其厭世説ノミハ之ヲ用ヒス、之ニ代フルニライブニツツノ樂天  
 主義ヲ以テシ、二氏ノ説ヲ結合セシメタリ。  
 ゴエテノ道德説トカントトノ關係ヲ説クニ、カントハ感覺上ノ刺激ニ由リテ生ス  
 ルモノハ惡ニシテ吾心内ヨリ生スルモノハ善トシ、感覺上ノ欲念ト純粹高尚ノ道  
 理トノ二者ニツイテ之ヲ結合スルト能ハスシテ遂ニ欲念ヲ放棄セリ、故ニ其説ハ  
 乾燥枯槁セル高尚ノ道理一邊ノ道德ニシテ嚴肅主義ニ傾キタリ。然ルニゴエテハ  
 情念ト道理トハ本來一致セルモノニシテ、決シテ反對ニ立ツヘキモノニアラズ却  
 テ情念ハ吾人ノ善ヲ爲ス助トナリ、且ツ道理ヲ充タス所ノ材料トナルベキモノナ  
 リ、然レトモ吾人ノ善ヲ妨得スル下等ノ情欲ノミハ之ヲ排除セサルヘカラズト論

シ、カントガ欲念ト道德心トヲ結合スル能ハサリシモノヲ一致セシメタリ。然レド  
 モ吾人ハ實際上外界ヨリ刺激セラル、欲念ト本來ノ道德心トハ往々相反抗スル  
 モノナリ、此ノ如キ場合ハ如何ト云フニゴエテノ考ニ依レハ是レ二者ノ兩立シテ  
 争フニハアラズ、万有自然ノ發達ノ途中ニ於テ假ニ不和抗抵ノ現象ヲ示スノミ、故  
 ニ其發達ノ極度ニ到ラハ不和ヲ生スルコトナシト是レ蓋シ氏ガ心ノ上ニ啓示ヲ説  
 クシミナラズ、万有ノ上ニモ之ヲ説クヲ以テ勢ヒ物心二者ノ契合一致ヲ論定セザ  
 ルベカラズ。  
 凡ソ耶蘇教ノ宗教ヲ説クニ消極積極ノ二方アリ、消極的ヨリ云ヘバ吾人々類ハ罪  
 惡人ナリト説キ、自ラ己ヲ責メシム、而シテ神ハ之ニ反シテ純善ナルモノトス、然ル  
 ニ積極的ヨリ云ヘハ吾人モ神ノ愛ニヨシテ罪惡消滅シテ神人同等ノ位地ニ進ム  
 テ得ルナリ。故ニ消極的ヨリ云ヘハ神人相離隔シテ其間甚々遠ク、トモ積極的ヨ  
 リ云ヘハ神人相同シキ者ナリ、而シテ消極的ニヨリテ人間ヲ有罪ナリト説クハ  
 人ヲシテ恐怖心ヲ起サシム、是ニ於テ積極的ニアリテハ神ノ仁惠ヲ説ク、此説ハ眞  
 宗ノ機法二種ノ安心ニ類似セルカ如シ、機トハ吾人ノ機根性質ニシテ機ヨリ云ヘ

吾人の罪惡ノ凡愚ナキ法トハ佛ノ方ニ寄セテ云フモノニシテ法ヨリ云ハ吾人ニ如キ惡人ト雖モ彌陀ノ本願ヲ信セハ其願力ニヨリテ助ケラレ彌陀同躰トナル。此ノ如ク安心ノ説明ハ二教稍類似シ此ニ彌陀ノ五劫永劫ノ苦行ヲ説クハ彼ニハ耶蘇ノ磔死ヲ万人ニ代ハルコトヲ説ク固ヨリ彌陀ノ神トハ其性質全ク相異ナルモノナリトモ其宗ノ他力往生ヲ説ク安心ニ上ニハ多少類似スル所ナキニシテサレハ實ニ奇ト云フベシ。而シテ同中ニオノ異クテ異體ノ存在ヲ示スルハ亦掩テハカラス宜ク比較的ニ講究スベシ。

耶蘇教ヲ取ルニ當リテ其消極的ノ方ヲ取リタルモノニシテ吾人ノ欲念ヲ探シテ一善ヲモテオシテ説キゴケテハ積極的ノ方ヲ取リテ此有罪ナル人間ニ神ノ愛ニ倚ルハ無罪ノ人トナルト説クハ是レニ氏ノ説ノ相異ナル點ナリ。耶蘇教ニ或ル場合ニハ幾分ノ厭世ノ傾キアリテ中世ノ耶蘇教ノ如キハ全ク遁世脫俗ノ風ナリシガ是レ蓋シ宗教ノ性質トシテ止ムヘカラサルモノナリ。ゴエテハ此厭世ノ風習ヲ反對シ此天地方有ハ神ノ啓示ヲ與フルモノナレハ外界其者ノ本來惡キ善キ世界無キ世界ナラザル以上ハ何ゾ之ヲ遁ル。要アテ若シ之

ヲ遁レントスル者ハ其見識ノ極メテ狭少ナルモノナリト云ヘリ。

又ゴエテハ神ガ人間ノ如キ性質ヲ有スト云ヘル説ニ反對シ神ハ有限ノモノニアラズ尙ホ廣大無限ノ者ナリ人間ヨリ比較シテ之ニ類スルモノトナスハ誤謬モ亦甚シキモノナリト。然レントモ氏ハ耶蘇教ノ説ヲ全然排棄セシニハアラズ。耶蘇ノ如キモ之ヲ捨ツルコトナク基督ハ道德上神ノ最上ノ啓示ヲ得タルモノナリ。然レントモ基督ノミ神ノ啓示ニアラズ世界方有總テ神ノ啓示ナリ。只人間ノ中ニ在リテハ基督尤モ多ク啓示セラレタルモノニシテ外界方有ノ中ニハ太陽コソ最モ勝レタル啓示ヲ得タルモノナレ故ニ吾人ハ宜シク外ニハ太陽ヲ禮シ内ニハ耶蘇基督ヲ拜スベシト云ヘリ。

第六段 直覺學派

第五シラー氏哲學

フリードリヒ・ヒンラー(Friedrich Schiller)ハゴエテ共ニ獨逸文學界ノ兩雄ト稱セラレタル大詩人ナリ。氏ハ一千七百五十九年獨逸ノマールバッフニ生レ、一千八百〇五年ワイマール府ニ歿ス。氏ノ父ハウラルランボルグ公ニ仕ヘシ人ニシテ公ハ氏ガ少年ニ

宗 教 哲 學

シテ非凡ノ才能アルヲ知り其教育ヲ引受ラシタリ。氏ハ始メ法律ヲ學ビシガ中途ニシテ之ヲ廢シ、更ニ醫學ヲ修メ大學卒業後モ醫學ヲ以テ其業トス、然レトモ其間常ニ好ミテ詩文ヲ作り遂ニ著名ナル詩人トナレリ。又傍ヲ哲學ヲ研究シ初ニ英國ノ倫理學者並ニ佛國ルソーノ書ヲ讀ミ、一千七百九十一年以後ニハカントノ書ヲ閱讀シ殊ニ其斷定批判ニ意ヲ注キ又其間カント派ノ學者ト議論ヲ上下シ大ニ哲學上ノ知識ヲ得タリ、故ニ氏ノ哲學ハカント哲學ノ影響ヲ蒙リシコト太ク多シ。カントハ感覺上ノ欲念ト道理上ノ道德心トヲ互ニ相反對スルモノトセシガ、シラハゴエテト同シク欲念ト道德心トヲ一致セシメタリ。シラハゴエテノ考ニヨレバ吾人ノ一舉一動ガ正シキヲ得ルハ感覺上ノ欲念ヨリ起ルモノニアラズ、然レトモ道德上ニ生スル欲念ナキトキハ以テ完全ナル道德ヲ得ルヲ能ハズ、道德上ノ徳トハ道德上ノ義務ヲ爲サント欲スル一種ノ欲念タルニ過ギズ、故ニ吾人ノ有スル欲念ヲ悉ク排棄スルトキハ道德ヲ完成スルヲ能ハズト。要スルニ氏ハ先天ノ義務ト後天ノ快樂即チ道理ト幸福ト一致シタルモノヲ以テ道德ノ目的トシタルナリ。又氏ノ說ニ依ルニ人間ハ其全軀ガ道德性ヨリ成レルモノニシテ、其下等ノ欲念情ガ道德

宗 教 哲 學

上ノ義務心(道理)ト一致スルヲ得ザルハ是レ人間ガ尙ホ下等ノ位地ニ止マリテ高等ニ達セザルガ故ナリ、若シ一步進ミテ吾心内ニ固有スル善良完全ナル美靈ノ軀ニ達スレハ二者必ス相一致スベシト。今カント、ゴエテ、及ヒシラー、三氏ノ道德說ヲ比較セシニカントハ道德上ニ感情ト道理トノ二元ヲ唱ヘ此二者ハ一致セサルモノト看做セシガ、ゴエテ、シラー、二氏ハ共ニ之ニ反シテ一致スルモノトセリ。然レトモ二氏ノ中ニモ亦各差異アリゴエテハ本來二者一致スル者ト看做スガ故ニ更ニ一致セシメントスル必要ナシトス。詳言セハ氏ノ考ハ物心兩界ハ共ニ神ノ啓示ナリト唱ヘ殊ニ万有自然ノ上ニ重キヲ置キシ說ナレバ、道德上ニモ亦此ノ如ク吾人ノ善ヲ行フハ万有自然ノ然ラシムル所ナリ、故ニ吾人ハ殊更ニ感情ト道理ト一致セシムヘキ必要ナシ、然ルニ吾人が實際上善惡二心ノ相争フコトアリ、本來既ニ一致スルモノナラバ何故ニ此衝突ヲ生スルヤト云フニ、是レ万有自然ノ開發啓示ノ未ク十分ナラサルカ爲ニ假ニ此現象ヲ生スルノミ、已ニ本來一致セルモノナレハ十分ニ發達スレハ此衝突全ク消失スルニ至ルヘシ、之ヲ一個人ノ上ニ就テ見ルニ其人一時惡ヲナスモ自然ニ其惡ヲ滅ス

宗 教 哲 學

ル機ニ進ミ又人間全体ノ上ヨリ見ルモ万有自然ハ人間ノ惡ヲ除キテ善ニ進マシ  
 メントスル傾向アリ、蓋シ自然ハ神ノ啓示ニヨリテ開發セルモノナレハ自然ノ人  
 ヲ惡ニ陷ラシムル理ナシ、然ルニ吾人カ外界ノ刺戟ニヨリテ惡心ヲ起スハ是レ自  
 然ノ目的ニアラス、只其發達ノ途中ニ於テ遭遇スル事實ノミト。然ルニシラハ内  
 外兩界ヲ別ニシ其ノ内界即チ心ノ内部ニハ美靈ナルモノアリ、此美靈ハ諸心力ヲ  
 結合スル高等ノ本性ナレハ進テ此躰ニ達スルニ至ラハ感情モ道理モ共ニ契合ス  
 ルニ至ルベシト論セリ。之ヲ要スルニゴエテハ万有ノ上ニ重キヲ置キ、シラハ心  
 ノ上ニ重キヲ置キタルノ相違アリ、故ニゴエテハ嘗テシラハ評シテ曰ハク、シラ  
 ハ万有自然ノ恩義ヲ知ラザル者ナリト。  
 上來陳述セシ直覺學派ヲ一括シテ論セバ、抑モカントハ近世哲學ノ漸ク衰フルニ  
 乘シ一大革命ヲ企テ始メテ批判哲學ナルモノヲ唱導セシガ、其說高尙ナル道理一  
 方ニ偏シ純理ノ極端ニ奔リタルガ爲メ、之ガ反動トシテ情感上ヨリ直覺ノ一方ヲ  
 主張スル學派興ルニ至レリ、即チハイマン氏直覺軍ノ先鋒トナリテ道理軍ヲ攻撃  
 シ大ニ戰端ヲ開ク、而シテ(ルデル、ヤコビ、ゴエテ等各一軍ニ將トシテ以テハイマン

宗 教 哲 學

ニ次ク。然ントモ彼等ハ其進軍スル間ニ最初ハイマン氏ノ唱ヘシ所ニ一步々々改  
 良ヲ加ヘ以テ同氏ガ論理ニ反シテ道理以外ニ偏シ過激極端ニ奔リタル僻見ヲ去  
 レリ。殊ニゴエテ、シラハニ至テハ人間精神ノ理想的觀念ヲ取り之ヲ以テ道德ノ本  
 原トスルニ至レリ。ヘルデルハ神ノ啓示ノ開發スルヲ以テ人世ノ歴史トシ之ニ學  
 術ヲ適用シ、ゴエテハスピノザノ主觀說ヲ取りテ之ニ加フルニ万有自然ヲ以テシ  
 万有自然ノ開發ハ神ノ啓示ナリトシ之ニヨリテ道德上ノ完美ヲ得ル所以ヲ説キ、  
 シラハカントノ影響ヲ受ケ人間ニ本來諸性ヲ結合一致スル美靈ノ存スルヲテ  
 説キ此上ニ神人相合ノ有機ヲ見ルト云ヘリ。是レ畢竟ゴエテ、シラハニ氏ガ文學者  
 ニシテ希臘古代ノ文學上ヨリ得來セル思想ナラン。尙ホ茲ニ陳述スベキアリ、即  
 チ當時詩人ノ上ヨリゴエテ、シラハニ反對シタル說ナリ、之ヲ「ローマンチズム」(Ro-  
 manticism)直譯シテ荒唐學派ト云フ。

第七段 直覺學派

第六ノパリス氏哲學(Novalis)

ノパリス氏ノ學說ヲ講スル前ニ先ツ荒唐學派ノ如何ナルモノナルカヲ略陳セザ

ルベカラズ。抑モ此荒唐學派ナルモノハ十九世紀ノ初年ニ當リ一種ノ詩人ニヨリテ組織セラレタル學派ニシテ、當時社會ノ氣風思想ノ其以前ヨリハ人爲ニ過キ柔弱ニ流ル、傾向アルヲ以テ、之ニ反シテ中世時代ノ氣風ヲ挽回セントスル目的ヲ以テ起リタルモノナリ。而シテゴエテ、シラーガ古代文學ノ理想的觀念ニ支配セラレ美學倫理學ノ思想ニ抑制セラレタルニ反對シテ一切放任主義ヲ取リ少シモ檢束スルコトナク人間自然ノ性質ニ從ヒテ道德ヲ組立テントセリ、是レ其荒唐ノ荒唐タル所以ナリ。然レトモ其說ハ尙ホ直覺學派ノ範圍ニ屬スベキモノナリ。今ゴエテシラー二氏ノ說ト荒唐學派トノ異同ヲ述シニ二者共ニ詩學派タルガ故ニ何レモ想像ヲ以テ其基本トナセトモ、ゴエテ、シラーハ其想像ノ多少道理ニ檢束セラル、傾アリ、然ルニ此學派ハ自然ノ自由ニ放任シ其想像ヲ縱橫ニ奔騰セシメテ敢テ檢束スルコトナク、道理規則ノ如キハ之ヲ捨テ、毫モ顧ミルコトナク却テ想像ヲ以テ道理規則ヲ支配シ、從來ノ思想上ノ秩序論理法ニ代フルニ無制限無規律放任自由ヲ以テセリ。然レトモ其内ニ亦幽玄秘密ノ風ヲ帶ヒタリ、是レ蓋シ事物ニ毫モ檢束ヲ加フルコトナキガ故ナリ。其氣風ノ中世時代ノ風ヲ學ブテ以テ勇壯ナル所アレントモ

其舉動ハ粗野ニ傾クノ弊ナキ能ハズ。此風先ツ詩文ノ上ニ顯ハン文學上ノ一派ヲナシ、延テ哲學上ニ波及シ又其一派ヲナスニ至レリ。而シテ此風ヲ宗教上ニ用フハ幽玄秘密微妙ノ趣味ヲ添へ、實行上ニ用フハ忠臣義士ノ勇壯ナル士風ヲ興起スルニ至ル。乃チ此風ヲ宗教哲學上ニ持來リシハノバリス氏ナリ。ノバリスノ稱ハ通常文學上ニ呼ハル、名ニシテ其實名ハフリードリッヒ、フラン、ハーディンホルン(Friedrich Von Hardenberg)ト云フ。氏ハ千七百七十二年獨逸ニ生レ、ライプシツヒ及ヒウ、ラインホルフニ於テ其教育ヲ受ク、不幸短命ニシテ千八百〇二年、廿九歳ヲ以テ肺病ニ罹リテ歿ス。氏ハ最モ感情深キ人ニシテ詩人的才能ニ富メリ。始メシラーノ說ヲ聞キ大ニ之ヲ愛玩シ其說ヲ固執セシガ、後ニフイヒテノ哲學ヲ知り又其說ニ感化セラレタリ。故ニノバリスノ心中ニハフイヒテノ哲學的觀念トシラーノ詩學的觀念ト相結合シタルモノアリテ、是ヨリ得タル結果ハ哲學的宗教的詩學的秘密的ノ種々ノ結合セル一種ノ學說ナリ。氏自ラ之ヲ稱シテ魔力マヂツル、フイアリスム的唯心論ト云ヘリ。ノバリスノ學說ハ大體ノ組織ヲフイヒテノ唯心論ヨリ取り我モヲ以テ絕對的原動機トセリ。而シテフイヒテハ之ヲ道理ニ訴ヘテ説明セシモ、ノバリスハ純然タル想像ノ



上ニ説キタリ。其想像ノ奇々怪々妙々ナルヲ魔力ト云フ。凡ソ吾人カ日々夜々經驗スルモノハ總テ奇々怪々ナルトニシテ一トシテ魔力ナラザルハナシ。又吾人一切ノ知識ハ道理ニアラスシテ信仰ニ由ル者ナリ、而シテ其信仰ハ奇怪秘密ノ魔力ヨリ生スルモノナリ。又或ハ思想ヲ事物ニ變ヘ事物ヲ思想ニ變スルモ皆是魔力ノ作用ニ依ルモノナリト。要スルニ此魔力論ハフヒテノ唯心論ヲ空想秘密ニ一變シタルモノニシテ、氏ハ道德上ノ作用ニ至ル迄亦此魔力ニ歸スルモノト説キ直覺學派ノ論ヲシテ一層極端ニ奔ラシメタリ。

此魔力ハ如何ニシテ起ルカト云フニ是亦フヒテノ所謂絕對的我ヨリ生スルモノナリ。此絕對的我ハ吾人ノ有スル我ト異ナリテ吾人ノ我ノ根本ナリ、而シテ吾人一個人ノ我ハ此絕對的我ノ一分子ニシテ吾人若シ是ヨリ進ムキハ遂ニハ絕對的我ニ到達スルヲ得ベシ、而シテ此點ニ皈スルキハ全ク一トナリテ相對比スヘキモノナシ、故ニ之ヲ絕對的ト云フ。

言セハ絕對的感情ハ絕對的我ヲ感スル情ニシテ、此感情ニヨリテ、宗教思想成立スルナリ。例セハ吾人ハ事物ニ對シテ恐怖ノ情アリ、此情ノ最モ大ナルモノハ神ニ對シテ恐怖スルノ情ナリ、此情ノ外ニ吾人ノ情ハ尙ホ許多アリト雖モ總テ此情ノ中ニ包容セラル、ナリト。此考ハシユライエルマツヘルト一致スル點アリテシユライエルマツヘルガ宗教ト哲學トヲ判然區劃シ宗教ヲ情感ノ一部ニ込メタルハ即チノパリスト一致スル所ナリ。然レモシユライエルマツヘルハ理想的情感ニ基キテ宗教ヲ講シノパリスハ實際的感情ヲ本トシテ宗教ヲ立テタリ、實際的感情トハ吾人ノ實際上ノ種々ノ刺激ニヨリテ起ル所ノ衝動的感情ヲ云フ、此衝動的感情ニ對スレハ美學的情ハ靜止的感情ナリ、故ニ二氏共ニ情ノ一方ヲ取リシハ相同シキモ其情ノ性質ニ至リテハ各相異ナリ。今二氏ノ學說ノ基ク所ヲ探究スルニシユライエルマーヘルハスピノザノ靜止的觀念ニ近ク、ノパリスハフヒテノ自動的我ニ本ツキ或ハシヨッペンハワーノ意志ニ類似セルヲ見ルナリ。

次ニノパリスノ宗教歴史ノ考ヲ述ビ、氏ハ曰ク神ト人トハ直接ニ關係スルヲ得ズ、故ニ其間ニ必ズ一ノ媒介者ヲ要ス、而シテ此媒介者ハ宗教ニ由リテ異ナルモノ

ニシテ、又此媒介者ノ撰釋如何ニヨリテ宗派ノ相別ル、ヲ見ル、或ハ日月或ハ草木或ハ英雄或ハ鬼神或ハ偶像或ハ人性的ノ神ヲ取りテ其媒介トス、蓋シ此ノ如ク媒介ノ種々異ナルハ人智ノ程度性質ニ由ルモノナリ、然レトモ全ク此媒介ナキモノハ偽教ナリ、又日月動植等ノ媒介其者ヲ以テ直ニ神トスルハ即チ偶像教ニシテ是亦真正ノ宗教ニアラズ、真正ノ宗教ハ偶像教ト媒介ヲ立テサル偽教トノ間ニアルモノニシテ即チ媒介物ヲ拒絕スルニアラス又之ヲ神トシテ信スルニアラサルモノ是ナリ、然ラハ媒介物ヲ何ト信スルヤト云フニ此媒介物ハ神ノ機關ニシテ吾人ハ之ニ依リテ神ニ對スルヲ得、神ハ之ニ憑リテ吾人ニ顯現スルヲ得トスル者是ナリ。此真正ノ宗教ニ二アリ一ハ凡神教、一ハ一神教ナリ、凡神教(万有神教)ハ一切万物ヲ以テ神ノ機關トシ、一神教ハ世界中ニ神ノ機關タルベキモノ唯、一アリトスルナリ、而シテ凡神媒介説ト一神媒介説トヲ結合スルホハ多種媒介中ニ特殊ノ媒介アリテ世界ヲ以テ盡ク媒介者トシ其中ニ耶蘇ヲ以テ殊ニ勝ンタル媒介者トナス、此ノ如ク考フンハ古代ノ宗教モ今日ノ宗教ヲモ悉ク一致統合スルヲ得ルナリ。此點ニ至レバノバリスノ説ゴエテノ万有ヲ以テ盡ク神ノ啓示ナリトシ其中ニ耶蘇獨リ

最モ天啓ニ富メルモノナリトシタル説ニ相全シ、只其間二者ノ異ナルハゴエテハ啓示ニツイテ此説ヲ唱ヘノバリスハ媒介ニツイテ此説ヲ述ベタルノミ。以上カントノ道理教ニ反對シテ起リタル直覺學派ノ大要ヲ講了セリ。是ヨリカントノ道理説ニ基キテ興リタル理想學派ノ説ヲ講述スベシ。

第八段 理想學派(理想的宗教哲學派)

第一 フイヒテ氏哲學

フイヒテ氏(Johann Gottlieb Fichte)ハ一千七百六十二年獨逸ノ一地方ニ生ル。氏ハ十八歳ニシテエナ大學ニ入り神學ヲ修メ、シカ大ニ哲學ヲ好ミ殊ニスビノザノ著書ヲ愛讀セリ。大學ヲ出テ、後氏ハ地方ノ一寺ニ住職ヲラントセシカ、其說通俗ノ宗教説ニ反對セルカ爲メ世ニ容レラズ。遂ニハ其故郷ヲモ去ラサルヲ得サルニ至レリ。千七百九年始メテカントノ書ヲ繙キ大ニ其說ニ感シ自著ノ書ヲ紹介トシテカントニ見エ其門人トナレリ。後學クフンテエナ大學ノ教授トナリシガ其說極端ナル唯心論ナルヲ以テ世間ヨリ無神論者トシテ目セラレ非常ノ困難ニ遭遇セリ。然レトモ氏ハ社會ニ非常ノ効績アリシ人ニシテ當時獨逸ハ佛帝那破翁ノ爲ニ蹂躪

セラレ國民皆其壓制ニ苦シミシカハ氏ハ慷慨ノ情ニ堪ヘス自由獨立ノ必要ヲ諸方ニ演説シ以テ愛國心ヲ奮起セシメタリ。後伯林ニ移リ千八百十四年其妻ノ熱病ヲ患フルニ際シ之ニ傳染シテ歿セリ、行年五十三。

フイヒテ氏ノ宗教哲學ヲ講スル前ニ方リテ先ツ氏カ哲學全系ニ就テ陳述セサルヘカラス。氏ノ哲學ハ前後二期ニ分レ其エナニ在リシ時ト伯林ニ在リシ時ト其說異ナレリ。初ニ氏カエナ時代ノ說ヲ陳フベシ。而シテ此時代ノ說ハ理論的哲學ト實際的哲學トノ二部ニ分ル。

フイヒテ氏ノ哲學ハカント氏哲學ヨリ其思想ヲ得來ルモノニシテ、其全體ヲ取レハ全クカント學說ノ結果ヨリ生セルモノト云フモ不可ナルナシ。抑モカントカ事物其者ノ實體ハ心ノ現象ヲ離レテ存在スルモノニシテ吾人ノ心ニハ之ヲ知ルヲ得スト云ヒシハ、是ゾカント以後哲學上ノ大問題ニシテ即チ率先シテ之カ説明ヲ試ミシ者ハフイヒテ其人ナリ。フイヒテハ心ノ外ニ事物ノ本體アリト云フモ其實ハ心内ニ存スル者ナリト説キカントノ唯心說ヲ更ニ一步ヲ進メテ純然タル唯心論トナセリ。是レ氏ノ說ヲ絕對的主我論唯心論ト云フ所以ナリ。即チ通常ノ說ハ我ニ對シ

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

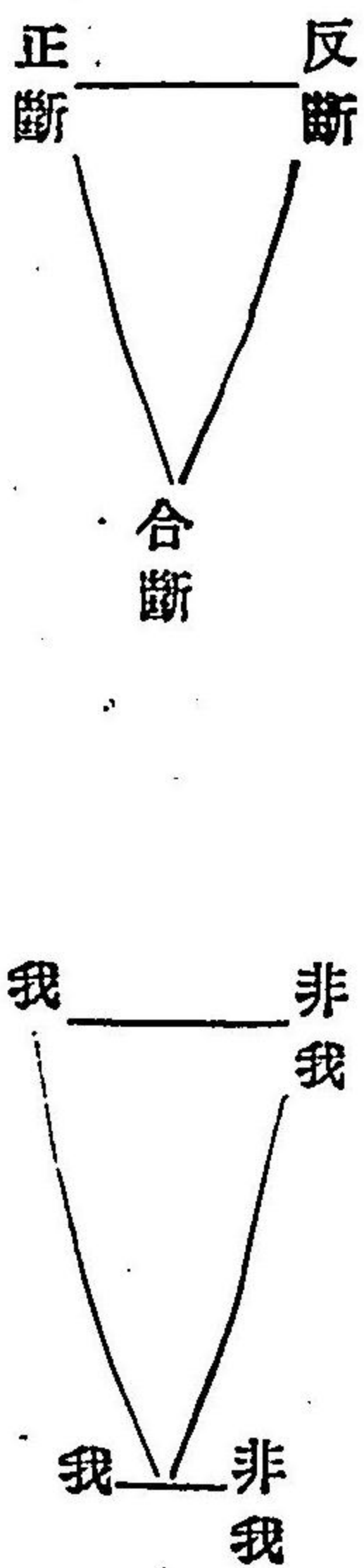
テ非我アリ非我ニ對シテ我アリト云ヘトモ、氏ノ說ハ我ナル者根本ニシテ非我ハ我自身ヲ制限シテ生シタルモノナリ、故ニ我ノ中ニハ外界モ實體モ藏マリ唯自己ノミ存在スルナリト。元來吾人ノ知覺上ニハ物心二元即チ我非我ノ並存スルヲ見ル、其中物ノ方本ナルカ心ノ方主ナルカト云フニ哲學上ニ派ノ論アリ。唯物派ハ物ハ原始ヨリ存シテ心之ヨリ生スト云ヒ、唯心派ハ心本來存シテ物之ヨリ現ハルトス。前者ハ物體學派、後者ハ心體學派ナリ。此ノ如ク二說ヨリ他ニ取ルヘキ道ナク二者孰レカ其一ヲ擇ハサルヘカラス。心體論者ハ曰ク凡テ物ハ吾人ノ心ニ見テ以テ其存在ヲ定ムル者ナレハ本來心ナルモノアリテ後ニ物アリ故ニ心ハ物ヲ產出スルモノナリト、物體論者ハ曰ク我感覺上ニ日月星辰山河草木アリトスルニハ其現象ヲ表示スヘキ原因即チ物ノ本體別ニ存セサルヘカラスト、フイヒテハ之ニ對シテ曰ク全ク此ノ如キ道理アルヲナシ、物ノ現象ヲ或ハ見或ハ聞キ或ハ其本體ヲ想像スル如キ皆心ヨリ考ヘ出スモノナリ、故ニ心ハ絕對性能動作用ナリ、夫ノ經驗學派唯物學派ノ吾人ノ知識ヲ組成スルニハ必ス經驗ニ依ラサルヘカラスト云フ如キハ未ダ深ク考ヘサルノ致ス所ナリ、既ニ知識ノ本源タルモノハ本來我心内ニアリ

テ存ス之ヲ知ラサルカ故ニ外界ヨリ來ルモノトスルナリ、尙ホ能ク考察セハ物心  
 万境盡ク我ノ一躰ヨリ顯現スルモノナリ、故ニ我ノミ絶對性ノ原動躰ナリト。由此  
 觀之其說カントニ反スルカ如ク見ユルモフイヒテ自身ニハカントノ眞意實ニ茲ニ  
 アリト云ヘリ。之ヲ要スルニフイヒテノ說ハ我カ最上ノ原動躰ニシテ宇宙万有ハ都  
 テ之ヨリ派出シタルモノナリ、此我ハ一切ノ原理ノ最上ニ位シ一切ノ道理ヲ生ス、  
 且ツ他ノ原理ハ必ス其他ノ原理ノ證明ヲ待テ始メテ成立スルモノナレトモ此我  
 ノミハ更ニ他ノ原理ヲ借ルヲ要セスト此我ヲ基礎トシテ立テタルハ理論的哲學  
 ナリ。

宗 教 哲 學

フイヒテハ我ヲ以テ衆原理ノ根原トセシコトハ既ニ陳ヘタリ。既ニ我アリトスレハ  
 次ニ起ルモノハ我ニ對スルノ非我ナリ。非我トハ世界万有ナリ、既ニ我非我アレハ  
 從テ二者ノ關係茲ニ起ラサルヲ得ス。換言セハ始ニ我アルヲ知リ次ニ非我アルヲ  
 知ル、而シテ此二者ハ或ル制限内ニ於テハ相對スルモノナリト。是レ後ニヘーゲル  
 ノ三斷論法ノ起リシ根原ナリ。此三斷論法ハ固トカントガ哲學ヲ三段ニ分チテ論  
 シタルニ基ツクモノナレトモ氏ハ未タ之ニ論理上ノ證明ヲ與ヘサリキ。是ニ於テ

フイヒテ之ヲ繼キテ論理上ノ説明ヲナシ、ヘーゲル之ヲ完成セリ。此三斷論法トハ



茲ニ一ノ正斷アレバ必ス之ニ對スル反斷ヲ生ス、而シテ正反ノ二斷對立シテ存ス  
 ルトキハ必ス之ヲ結合スル合斷ヲ生スルナリ。フイヒテノ所謂我ハ正斷ナリ、既ニ我  
 アレハ之ニ對スル非我茲ニ生ス、非我ハ即チ反斷ナリ、而シテ二者ノ並存スル時ハ  
 更ニ其間ニ關係ヲ生シ我非我ノ結合ヲ生ス、是即チ合斷ナリ。

宗 教 哲 學

元來フイヒテノ說ハデカントノ一切万物ヲ疑ヒ盡シテ其極、疑其者ノミヲ除クヲ得  
 サルニ至リ此疑ヤ我ノ疑フナリ故ニ我ハ存スト云ヒシ說ニ基キテ起リタルモノ  
 ナリ。蓋シ如何ナル者ト雖モ思想其者ヲ確定セザレハ議論スルヲ得ス、彼ノ思想ヲ  
 排斥スル唯物論者モ尙ホ思想ヲ假定セル者ニシテ彼等ガ物ノ實在ヲ確定スルニ  
 ハ其以前ニ既ニ思想アルヲ假定シタルナリ。思想其者ハ之ヲ解釋セントスルモ證  
 明セントスルモ將タ定義ヲ與ヘントスルモ到底爲シ得ヘカラス何トナレハ解釋

定義等は思想其者ノ中ニ造出ストニシテ思想アリテ後之アル者ナレハナリ、此ノ如ク論シ來レハ必ス思想其者ヲ確定セサルヘカラス、是レ氏カ論理ノ大本ハ我ナリト云フ所以ナリ。

フイヒテ氏理論的哲學ハ三段ニ分ル。即チ第一段智識一般ノ原理、第二段理論上ノ原理、第三段實際上ノ原理是ナリ。

第一段、智識一般ノ原理ハ之ヲ三斷論法ノ考ニヨリテ三段ニ分ツ、其第一ハ真理ノ真理、原理ノ原理ト稱スヘキモノニシテ「甲ハ甲ナリ」ト云フ命題ナリ、之ヲ同一命題或ハ均同法ト云フ。「甲ハ甲ナリ」ト云フハ「甲ハ甲其者ニ同シ」ト云フニシテ、例セハ「人ハ人ナリ」「花ハ花ナリ」「雪ハ雪ナリ」ト云フカ如シ。此命題ハ其正不正ヲ論スルヲ待タスシテ吾人ノ思想ハ固ヨリ之ヲ確實ト認定セルモノナリ。若シ此命題ニシテ誤謬ヲ免レザラン乎、吾人一切ノ智識思想ハ悉ク謬妄ナリト云ハサルヘカラス、故ニ此命題ハ絶對的確實ニシテ思想ノ原理タリ。然レトモ「甲ハ甲ナリ」トハ是レ形式上ノ論ノミ、形ノ上ニハ確實タルヘキモ形ヲ充タス質ハ絶對的ニ確實ナリト云フヲ得ス、何トナレハ「甲ハ甲ナリ」トハ「甲ナル者若シ茲ニ存在セハ其甲ハ即チ甲ナリト

云フモノナレハ甲其者ハ猶ホ假定ヲ免レサルナリ、然ラハ此形ノ中ニ質ノ絶對的確實ナル者ヲ適用スレハ始テ正確トナルベシ、其絶對的確實ノ者ハ即チ我ナリ、故ニ甲ニ代フルニ我ヲ以テシ「甲ハ甲ナリ」ト云フヲ「我ハ我ナリ」トスレハ形質共ニ絶對的確實ノ命題トナリテ寸分モ假定ヲ加ヘサルモノナリ而シテ是ヨリ他ニ確實ナル者アラサルヲ以テ見レハ此命題コソ論理ノ大根本ニシテ智識一般ノ原理ト云フヘキモノナレ。

第二ハ「甲ハ非甲ニアラス」ト云フ命題ニシテ之ヲ否定命題或ハ背反法ト云フ。此命題ハ第一命題ヲ一變シテ構成シタルモノニシテ既ニ第一ニ於テ「甲ハ甲ナリ」ト云フ命題ノ確實ナル以上ハ「非甲ハ非甲ナリ」ト云フコトモ確實トセザルヘカラス、又之ヲ變換シテ「甲ハ非甲ニアラス」ト云フモ亦確實ナリト斷定セサルヘカラス。然ニ單ニ甲ト云フトキハ第一ニ於テモ既ニ絶對的確實ナラサルヲ以テ第二ニ於テモ亦甲ニ代フルニ我ヲ以テシ「我ハ非我ニアラス」トセサルヲ得ス。然レトモ此第二命題ハ第一命題ホド絶對的確實ニアラス、何トナレハ今ノ所謂我ハ相對的ニシテ第一ノ絶對的我ヨリ生シタルモノナレハナリ。第一命題ニ於テハ絶對的我ノミニシテ

之ニ相對スルモノアラス、然レトモ茲ニ我アレハ其反對ノ非我アリトハ思想上ニ免ル、テ得サルヲナルカ故ニ第二命題ハ第一ノ正反對ナリ。然レトモ第二ハ第一ニ本クモノナレハ第二ハ第一ヨリ分派シタルモノト云フベシ。

第三ハ第一ト第二トヲ結合シテ「我ハ非我ナリ」ト云フ命題ヲ構成ス、之ヲ制限法ト云フ。固ヨリ我ト非我トハ反對ノ者ナレモ制限上我ハ非我トナリ得ル者ニシテ此ニハ反對シナカラ並存スルヲ得並存スルヲ得ルハ必ス何レニカ一致スル點アンバナリ。之ヲ實際上ニ徴スルニ我ガ主トナリテ非我ヲ制スルコトアリ、非我ガ主トナリテ我ヲ制スルコトアリ、主客兩觀物心二元ノ上ニ考フルモ主ノ客ヲ制スルコトアリ客ノ主ヲ制スルコトアリ、又物ノ心ニ制セラル、コトアリ心ノ物ニ制セラル、コトアリ、此クシテ物心互ニ制限セラレツ、對立並存ス、故ニ「我ハ非我ナリ」ト云フヲ得。然レモ我全體ノ上ヨリ「我ハ非我ナリ」ト云フヲ得ス、我ノ一半カ非我ノ一半ニ同シ即チ或ル制限内ニ於テ我ハ非我ニ同シト云フコトナリ。此第三命題ハ第一第二ヲ結合シタルモノニシテ、是ニ至リテ論理ノ完結ヲ見ルナリ。左ニ智識一般ノ原理ノ三段論法ヲ表示スベシ。

第一 「我ハ我ナリ」……………同一命題或ハ均同法

第二 「我ハ非我ニアラス」……………否定命題或ハ背反法

第三 「我ハ非我ナリ」……………制限法

第二段理論上ノ原理ハ第一段智識一般ノ原理ヲ應用シタルモノナリ。凡ソ我ト非我ト相對スル上ニ於テ非我が能動作用トナリテ我が所動トナル場合ト我カ能動トナリテ非我カ所動トナル場合トアリ。理學ノ如キハ前ノ我カ非我ニ依テ制限セラル、場合ニシテ、道德學ノ如キハ後ノ我ガ非我ヲ制スル場合ナリ。今此第二段理論上即チ學問上ノ原理ハ前ノ非我ノ我ヲ制スル場合ヲ云フナリ。何トナレハ理學ハ外界萬有ヲ以テ主トシ萬有ヲ確實トシテ論スル者ナレハナリ。此事タル既ニカントノ上ニアリテ純理批判ニ於テ外界ノ經驗ヲ待テ後智識ヲ生スト云フハ所謂非我ノ能動トナリ我ノ所動トナル場合ナリ。而シテ實理批判ニ於テ理性ノ力外界ヲ制スト云フハ所謂我ノ能動トナリ非我ノ所動トナル場合ナリ。又唯物論唯心論モ此關係ヨリ出テタル者ニシテ唯物論ハ非我カ能動トナル場合ヲ論シタルモノニシテ唯心論ハ我能動ノ位置ニアル場合ヲ論スルモノナリ。然レモ我ト非我トノ

(108)  
 真正ノ關係ヲ知ラス或ハ非我アルヲ知テ我アルヲ忘レ或ハ我アルヲ知テ非我アルヲ忘ル故ニ獨斷的唯物論或ハ獨斷的唯心論ニ陥ルナリ。フイヒテハ之ヲ排撃シ批判的ニ我ト非我トノ上ニ絶對的我アルコトヲ説ケリ。蓋シ獨斷的唯心論ハ非我ノ境遇ヲ以テ我ヨリ與ヘタルモノトシ。獨斷的唯物論ハ非我ノ本體アリテ後チ我アリトシテ各々一方ニ偏倚スルモノナレトモ之ヲ推究スルトキハ其上ニ絶對的我アルヲ知ルベシ。此絶對的我ト相對的我トノ關係ハ絶對的我ガ自身ノ上ニ制限シテ我非我ノ區別ヲ生シタルナリ。故ニ相對的我ハ絶對的我ノ自制限ノ作用ニヨルモノナリト論セリ。由此觀之フイヒテハカントガ事物ノ本體心外ニアリトセシテ心内ニアリトシカントガ事物ノ本體ト心ノ現象トノ間ニ界線アリトセシテ是レ我自身ニ制限ヲ置キタルモノナリトセリ。是ニ於テカントノ説絶對的唯心論ニ變セリ。

第三段實際上ノ原理ハ前述セシ如ク我非我相對ノ上ニ於テ我ノ能動作用トナリ以テ非我ヲ制スル場合ヲ云フ。而シテ理論上ノ原理實際上ノ原理共ニ第一段ノ智識一般ノ原理ヲ應用シタルモノナレハ第二第三ハ第一段ヨリ分派シタルモノト

云フヘシ。而シテ理論上ノ原理ヲ應用シテ起ルモノハ萬般ノ學術ニシテ實際上ノ原理ヲ應用シテ組織スルモノハ實際的哲學ナリ。是レ蓋シフイヒテ氏ノ論カントニ基ツク所ニシテ其純理批判ハ理論的哲學ニシテ實理批判ハ實際的哲學ナリ。フイヒテノ所謂實際的哲學トハ政治學ト道德學トヲ説クモノナリ。故ニ實際的哲學ノ問題トスル所ハ權利ト倫理トノ二ナリ。先ツ始ニ氏ノ權利說ヲ述ブベシ。氏ノ權利說ハ人間ヲ一個人トシテ與ヘル解釋ヲ基本トシテ説キ出シタルモノナリ。凡ソ吾人人類ハ天地間ニ棲息シテ一種ノ思想ヲ有スル動物ニシテ、即チ吾人ハ思想道理ヲ本トシテ成立ツモノナリ。苟モ思想道理ヲ有スル以上ハ吾人ニ自由ノ動作ヲカナルヘカラス。若シ吾人ニシテ自由ノ動作ヲ有セストセハ決シテ思想的動物ト稱スルヲ得ス既ニ吾人カ思想的動物ニシテ自由ノ動作ヲ有ストセハ此自由ノ上ニ於テ吾人ニ對スル外界ノ存立ヲ要ス。若シ外界ナクハ自由アリト云フモ何ノ用ヲカナサン吾人カ自由アルニハ必ラス其相手ナカルヘカラス。又若シ吾人カ一個人トシテ自由ノ動作ヲ有スルモノトセハ他ノ人類モ亦自由ノ動作アルコトヲ許サルヘカラス何トナレハ思想的動物ノ同類ナクハ己自身ニ己ノ自由ナル

宗 教 哲 學

「予知ルヲ得ス雙方ノ關係ニヨリテ己ノ自由ヲ領會スルモノナレハナリ。前ニ絶對的我ノ制限シテ非我ヲ生スルハ我ノ顯ハル、爲ニ非我ヲ要スルナリト云ヒシト同論法ニシテ吾人ノ自由動作ヲ有スルニハ之ニ對スル外界ノ存立ナルヘカラス、而シテ又之ト同時ニ他ト己ト同シク自由ノ動作ヲ具フルモノアリトセサルベカラズ此ノ如ク各人總テ自由ノ動作ヲ有スルモノニ各人皆自己一人ノ範圍内ニ於テ自由ナリ此範圍ヲ超エテ他人ノ區域ヲ犯シテ自由ナルヲ得ス、是ニ於テ吾人ノ間ニ互ニ制限スルノ必要起ルナリト。要スルニ吾人ハ自由動作ヲ有スルモノニシテ自己カ自由ナルト同時ニ他人モ亦自由ナリ、是レ各人相互ノ間制限ノ起ル所以ニシテ此各人相互ノ自由ヲ妨害セサル様ニ自己ノ自由ヲ達スル動作ヲ權利ト曰フ、故ニ其格言ニ曰ク「爾ハ爾ト關係ヲ有スル他ノ各人ノ自由ナルコトヲ領知シテ爾ノ自由ヲ制限セヨ」ト是レ權利ナル者ノ眞意ヲ盡シテ餘蘊ナシト云フベシ、此ノ如ク權利ハ各人相互ノ關係ヨリ生スルモノニシテ此權利ニ三種アリ。

第一原始的權利ハ權利ノ本源タルモノヲ云フ、是ハ一個人ノ道理上ヨリ起ル解釋ニシテ即チ個人性ノ絶對的權利ナリ。元來一個人ノ上ニハ自主自由不羈獨立ノ權

宗 教 哲 學

利アリ、是レ即チ權利ノ大本ニシテ之ヨリ他ノ關係ヲ生ス之ニ身軀自由權ト財產自由權トノ二種アリ、即チ絶對的權利アレハ吾人ノ身軀ニ於テ自由ノ權ヲ得又之ト共ニ財產上ニ自由ノ權利ヲ有スルナリ。既ニ吾人ニハ不羈獨立ノ權アリ、然レトモ自己ノミナラス他人モ亦共ニ之ヲ有スルカ故ニ茲ニ自他ノ關係ヲ生シ吾自由ノ權ハ他ニ對シテ制限ヲ置カサル可ラス、即チ他人吾權利ヲ保護セハ吾亦他人ノ權利ヲ保護セサルヘカラス若シ其制限ヲ超エテ妨害スルヲアレハ其權利ヲ器械的ニ保護スル必要ヲ生ス、是ニ於テ第二ノ強行的權利アリ。此權利ニ基キテ法律上ノ刑罰起ル、蓋シ法律上刑罰ノ目的ハ他人ニ對シテ不正ノ行爲ヲナサハ之ヲ防禦シ且ツ刑罰ト云フ苦痛ヲ以テ報酬セラル、予知ラシメ各自ノ權利ヲ完全ニ保護スルナリ。此ノ如ク強行的權利ヲ與フルトキ各人ノ上ニ契約ノ必要ヲ生ス、即チ規則ヲ設ク之ニ抵觸スルトキハ刑罰ヲ與フルトトナス、是レ一般ノ法律ノ起ル所以ニシテ第三ニ契約的權利(或ハ法律的權利)ナルモノヲ生スルナリ。此契約ニヨリテ各人相互ノ間ニ各其自由ヲ保護スルコトヲ規定ス、若シ之ヲ實行スル場合ニハ一般人民ノ意志ヲ集メ之ヲ法律トスルノ方法ナカルヘカラス、是レ立法部ナル者



ノ起ル所以ニシテ既ニ立法部アレハ此ニ於テ規定セル法律ヲ執行スル行政部ナ  
 カルヘカラス、是レ即チ政府ノ組織アル所以ナリ。  
 凡ソ事物ニハ道理上ト實際上トノ二種アリ、實際上ハ必ス道理上ノ指定ニ從ハサ  
 ルヘカラス、然レトモ道理上此ノ如クセサルヘカラストスルイモ實際上之ヲ行ヒ  
 得サルイアリ、權利ニモ亦此二種アルモノナレハ其時ニ應シテ道理實際ノ結合ヲ  
 計ラサルヘカラス、此二種ヲ一致結合セシムル目的ヲ以テ研究スルモノハ即チ政  
 治學ナリ、勿論道理上考定セルモノト寸毫ノ差異ナク實際上ニ行フイハ到底爲シ  
 得ヘキニアラサントモ、出來得ヘキ限リハ道理上ニ近似セシメサルヘカラス、若  
 シ實際上ニノミ一任シテ道理上ニヨリテ改良ヲ計ルイナクハ是レ權利ノ思想  
 ニ反對シタルモノト云ハルヲ得ズ、以上ハ氏カ權利說ノ大要ナリ。  
 次ニ實際的哲學トシテ說キタルハ道德學ナリ、氏ハ理論的哲學ニ於テ絶對的我ヲ  
 說キ之ヲ萬般ノ學說ノ根據トシ、且ツ之ヲ實際上ニ應用シテ初ニ權利ヲ說キ次ニ  
 倫理ヲ論セリ、權利ノ上ニ於テハ許多ノ人アルヲ豫定シ其間ノ關係ニツイテ說キ、  
 倫理ノ上ニハ數多ノ我ヲ統合シテ一トナシ其上ニツイテ論シタリ、而シテ權利ト

倫理トノ相異ハ氏ノ考ニヨレハ權利ハ各人相互ノ間ニ各其自由ヲ全フセシ爲ニ  
 其人ノ行爲ニ外部ヨリ制限ヲ與フルモノニシテ、倫理ハ全ク外部ニ關係セスシテ  
 單ニ内部ノ精神上ニ制限ヲ與フル者ナリ、詳言セハ權利ハ他人ト自己トノ間ニ衝  
 突スル場合アルヲ以テ相互ノ間ニ制限ヲ設ク其範圍内ニ各自ノ自由ヲ完ウセシ  
 ムルモノナリ、倫理ハ内部ニ二種相反ノ刺戟アリテ互ニ抗爭スルイアリ、其刺戟ト  
 ハ一ハ外界ヨリ來ル刺戟一ハ内部ニ生スル刺戟ナリ、凡ソ吾人人類ハ道理思想ヲ  
 有スルモノナレハ此作用ニヨリ絶對的自由ニ向テ我舉動ヲ刺戟スル者ナリ、是即  
 チ純然タル自由ヲ求メントスル内部ノ刺戟ニシテ、之ヲ假ニ純然性衝力ト云フ、此  
 衝力ハ即チ道德ノ本心ナリ、然ルニ吾人ハ實際上有限ナルモノニシテ非我ノ境遇  
 ニ圍繞セラル、モノナルカ故ニ自己以外ニ非我ノ存立ヲ許サ、ルヘカラス、是ニ  
 於テ萬有自然ノ上ヨリ我感覺上ニ與フル刺戟アリ、此刺戟ハ吾人ニ快樂ヲ與フル  
 モノニシテ、之ヲ純然性ニ對シテ不純然性衝力ト云フ、是レ快樂ノ情ヲ起スモノナ  
 リ、之ヲ要スルニ第一純然性衝力ハ無限絶對ニシテ第二不純然性衝力ハ有限相對  
 ナリ、前者ハ精神的ニシテ後者ハ肉體的ナリ、前者ハ自由ヲ得ルヲ目的トシ後者ハ

快樂ヲ得ルヲ目的トス、而シテ前者ハ絶對的我ノ内部ヨリ發スル刺戟ニシテ後者ハ非我萬有ヨリ與フル刺戟ナリ。且ツ此ノ問題ハ最モ重大ニシテ前者ハ直覺學派、道理學派ノ唱フル所後者ハ經驗學派、功利教派ノ唱フル所ニシテ其間互ニ論争絶ユルヲナク常ニ學者ノ之ヲ結合セントカムル所ナリ、カントハ嘗テ此ニ結合セシテ試ミテ却テ一方ニ偏セシカフヒテハ稍二者ノ調和ヲ爲スヲ得タリフヒテノ考ニ依ルニ此ニ衝力ハ我心中ニアリテ互ニ相抗争シ相破壊スルモノナントモ二者ノ本原ニ遡ホリテ探究スレハ其上ニ尙ホ一ノ絶對的境遇アリ、此點ニ達スレハ二者合シテ一トナルナリ、其故ハ肉體性快樂的ノ刺戟ハ吾人ヲシテ自己ヲ保全セントスル性力ヲ生セシムルモノニシテ精神上純然性ノ作用ヲ誘發スルニ缺クヘカラサルモノナリ、若シ此自己ヲ保全セントスル衝力ナクンハ吾人カ世界ニ對スル一切ノ活動モ知覺モ一時ニ止マルヘシ、然ントモ肉體性ノ刺戟即チ不純然性衝力ハ純然性ノ道德ニ附屬シテ成立セサルヘカラスト、是レ蓋シ氏ノ唯心論ヨリ來ルモノニシテ理論上ニ於テ相對的非我ハ絶對的我ノ自制自限ヨリ生出セルモノナレバ之ヲ還元スレハ絶對的我ニ歸入スルナリ、而シテ不純然性ハ非我ノ境遇

宗 教 哲 學

ヨリ起ルモノナレハ我ノ純然性ハ之ヨリ勝ルモノト云ハサルヘカラスト且ツ我、非我ハ其裏面ニ於テハ相結合シテ共ニ絶對的我ニ屬スルモノナレハ純然性ヲ以テ主トセサルヘカラスト、而シテ吾人ハ第二種ノ刺戟ト雖モ單ニ肉體上ノ快樂ヲ得ルヲ目的トスルニアラス尙ホ之ヨリ高等ナル感覺以上ノ快樂ヲ得ンヲ目的トスルナリ、然ントモ亦消極的ニ外界ヲ離レ世間ヲ遁ル、ヲ以テ目的トスルニアラス積極的ニ感覺世界ヨリ尙ホ高等ノ自由ヲ得ントスルナリ、且ツ我其者ハ己ノ自由ヲ發達セシメントスルモノナレハ此點ニ到達セハ非我ヲモ支配スルニ至ルヘシ而シテ此點ニ達セハ二衝力相一致スルナリ、此目的ヲ以テ一致ノ方向ニ進ムガ即チ倫理ノ性質ナリ、要スルニ倫理ハ人類ノ一段々々進歩シテ一層高等ノ自由ヲ得ントスルニアリ、換言セハ絶對ノ我中有限ノ存立アレントモ此有限ノ關係ヲ脱シテ純然タル無限性ノ自由ヲ得ントスルカ倫理ノ究竟ノ目的ナリ、故ニ吾人ハ道德上ニ益々自由ヲ開發スルヲ力メサルヘカラスト、且ツ吾人ハ無意識無知覺ニテ不純然性ノ刺戟ニ隨從スルハ決シテ目的ニアラス、意識上道理上明了ナルモノヲ以テ道德ヲ履行セサルヘカラスト、然ントモ吾人ハ無意識ニテ自然ノ天性トシテ同情相

宗 教 哲 學

（二一六）  
 憐山カ如キ道德心アリテ尙ホ道理ニ合スルコトアリ、此ノ如ク不知不識道理ニ合  
 スル場合ナキニ非スト雖モ是レ極メテ稀ナル例ニシテ外界上ノ刺戟悉ク道理ニ  
 合スト云フヘカラス、之ヲ要スルニ吾人ノ目的ハ「自由ナレト云フ命令ニ服従スル  
 ニアリテ其自由ヲ道理上明了ニ知覺シテ以テ自由ノ本境ニ進マサルヘカラス、而  
 シテ其一段々ノ進歩ノ階級ヲ講スルハ即チ倫理學ナリ是レフイヒテ道德論ノ大  
 要ニシテ此道德說ニ基キテ宗教論ヲ組織セリ。  
 以上フイヒテ氏第一期哲學ノ大意ヲ講述セシカ尙ホ茲ニ講述スヘキハ氏ノ第二期  
 時代ノ哲學ナリ。

第二期ノ哲學ハフイヒテ氏カ一千七百九十九年エナテ去テ伯林ニ移リシ以後ノ時  
 代ヲ云フ。此第二期ハ第一期ニ比シテ多少其說ヲ變セシ所アリ。今其原因ヲ穿鑿ス  
 ルニ、第一氏ノ最初唱ヘシ哲學ハ絕對的主義論ニシテ唯心論ノ最モ極端ニ奔リシ  
 者ナルカ、之ヲ實際上ニ適用スルニ實際上ノ事實ニ當欲マラサル所アルヲ見テ多  
 少其說ヲ變シ、第二當時セリフイヒテ氏アリテフイヒテノ主觀的理想論ニ反對シ客觀的  
 理想論ヲ唱ヘ其說世ニ行ハル、ニ至リシガ、フイヒテハ之ニ反對シテ自說ヲ守リタ

ルモ尙ホ多少セリフイヒテノ說ニ影響セラレ自然ニ其形ヲ變スルニ至レリ。又第三ニ  
 ハ外部ノ關係上ヨリモ多少變說ノ原因ヲ爲シタルカ如シ、氏ノ哲學ニ於テハ神ノ  
 解釋全ク普通ノ說ニ異ナルカ爲ニ世間ヨリ無神論者トシテ攻撃セラレ、氏ハ之カ  
 爲ニ數々困難ニ遭遇シタルヲアリ、且ツ氏カ伯林ニ移リシ以後ハ其交際スル所モ  
 前ニ異ナリテシフイヒテライエルマーヘルノ如キ宗教家モアリシカハ此等外部ノ關係ヨ  
 リ多少影響ヲ蒙リシモノナラン。  
 第二期ノ說ハ第一期ノ如ク價值アル著書ナク、又思想上ヨリ見ルモ前期ノ如ク新  
 思想ナク、論理モ亦其秩序方法前期ノ如ク整然タラス。要スルニ第二期ハ第一期ノ  
 餘派タルニ過キスシテ、第一期ヨリ數等劣レルカ如シ。然レモ宗教哲學ノ點ニ於テ  
 ハ第一期ヨリ第二期ニ論スヘキ所多シトス。

第二期ニ於テハ前ノ主觀的理想論ニ客觀的凡神論ヲ混同セリ。故ニ第一期ノ所謂  
 絕對的我ハ第二期ニ至リテハ變シテ絕對的神トナレリ。第一期ニ於テハ神ヲ說カ  
 ス一切萬物ハ我自身ノカヨリ發現シタルモノナルヲ唱ヘ、最後ニ至リテ道德上  
 ノ關係ヨリ僅ニ神ヲ說出セルノミ。然ルニ第二期ニハ神ヲ立テ之ヲ以テ哲學上ノ

原理トセリ。要スルニ第一期ニハ我ヲ以テ第一原理トシ、第二期ニハ神ヲ以テ第一原理トセリ。故ニ第一期ノ論理の道理の嚴正ノ主義ハ第二期ニ於テハ宗教的秘密的溫和ノ風ニ化シ、且ツ第一期ノ義務說ハ第二期ニ至リテ愛ノ說ト變セリ。是レ第一期ト第二期トノ異ナル點ナリ。

次ニフ、ヒテ氏ノ宗教哲學ヲ述ヘンニ、氏ノ宗教說ハカントト氏ニ本ツキ道德學ト相關係シテ起リタルモノナリ。氏ハ始メカントトヲ知ラサリシガ後ニ其書ヲ讀ミ大ニ之ヲ感シ、カントトニ面セント欲シ一千七百九十一年一書ヲ著述シ、此著ヲ紹介トシテカントトニ見エタリ。其書ハ天啓批判 (Critique of all Revelation) ト題セルモノニシテカントトノ意ヲ推測シテ宗教ヲ論シタルモノナリ。當時カントトノ宗教論未タ世ニ出テサリシガ一千七百九十二年匿名ニテ此書ヲ發行スルヤ世人皆カントトノ直作ナルベシト想セリ。是ヨリ氏ハカントトノ門弟トシテ知ラレ、又其名聲噴々トシテ世ニ顯ハル、ニ至レリ。

此書ノ大意ヲ述ヘンニ、宗教ノ神ノ命令ノ下ニ道德上ノ規律ヲ現示スルモノナリ、此現示ノ方法ニヨリテ獨リ道德上ノ規律ヲ保護スルノミナラス、道德上ノ規律ニ

反對スル情慾ヲモ制止スルヲ得ルナリ。若シ人下等ノ慾念ノ爲ニ壓服セラレ其有スル道德心モ其勢力ヲ失フニ至リテ、ヨク道德心ヲ喚起シ人間ノ道德上ノ本性ヲ啓發スルハ人間以上ノ神ノ命令即チ天啓ニ依ラサルヘカラス。其天啓ノ吾人ニアルハ我良心ノ内ニ神ヲ以テ道德ノ立法家トシテ之ヲ認知シ、且ツ道德上ノ規律ヲ自知スル本心アルニ就テ發見スルナリ。故ニ吾人カ道德心ノ自由ヲ開發スルニハ宗教ニ依ラサルヘカラス、宗教ノ力ハ即チ天啓ナリト。由此觀之道德モ宗教モ共ニ同一ノ者ナリ、蓋シ氏ハカントトノ意ヲ察シテ此書ヲ著ハシタルモノナレバ其カントトニ同シキハ固ヨリ其所ナリ。只其中ニ二氏ノ異ナルハカントトハ道德心ト情慾トヲ結合スルヲ能ハサリシニフ、ヒテハ之ヲ一致セシメタリ、是其理論的哲學ヨリ出テタル結果ナリ。

フ、ヒテ氏ノ宗教哲學ハ其實際的哲學ニ屬スルモノナルカ、氏ハ其後宗教信仰ノ基礎 (On the ground of our belief in a Divine Government of the world.) ト名クル一書ヲ著ハセリ。此書ニ由レハ氏ノ說ト耶蘇教ノ說トハ大ニ異ナル所アリ、氏ハ懷疑學者ノ如ク無神ヲ主張スルニアラス、然レトモ氏ノ所謂神ハ天地萬有ヲ創造セル神ニアラス、

宗 教 哲 學

又格段ノ存立ヲ有スル神ニモアラス、道德世界ヲ支配スル者ヲ以テ神トシ道德上ニ規律秩序ノ行ハル、ハ是レ神ノ現ハレナリトス、故ニ道德上ノ規律秩序ノ躰ヲ指シテ直ニ神ト名ケタルモノ、如シ、サレハ吾人ハ常ニ正道ヲ守リ規律ニ從フトキハ神ノ活動發現スルヲ見ルナリト云フ。由此觀之、神ノ世界ナルモノハ別ニ我生存ノ世界ヲ離レテ存スルニアラス、我道理ノ範圍内ニアル世界ナリ。而シテ氏ハ之ヲ以テ宗教ノ基礎トシ、此道理ヲ示スモノハ宗教ナリトス。抑モ神ナル者ハ前述セシ如ク吾人ノ道德性ヲ開發シ支配シ道德上ノ規律ヲ遵守スヘキ様ニ命令スル者ニシテ吾人ハ此他ニ別ノ神アルコトヲ信スル必要ナシ、又之ヲ信セントスルモ道理上決シテ信スルヲ得ス。世間ノ所謂神ハ道德ノ範圍ヲ離レ天地萬有ノ目的ヲ豫定シ人間ニ類スル智情意ノ性質ヲ具スルモノナリトス、若シ果シテ神ハ吾人ヲ離レテ存スルモノナラハ此レ世界以外ニ存スルモノナリ、又神ニシテ智情意ノ性質アリトセハ神モ亦身心ノ二ヲ具ヘサルベカラズ、此ノ如キ神ハ吾人ノ道理上信スルヲ得サル者ナリ、是神ハ吾人ノ大ナル者ト看做シ其躰ヲ想像シテ神ノ名ヲ與ヘタル、ニ過キス、抑モ吾人ト有限性ノ者ニシテ如何ニ吾人ノ想像ヲ放大ナラシムルモ

宗 教 哲 學

尙ホ有限性タルヲ免レンス、有限性ノ神ハ論理上決シテ許スヘキ者ニアラズト。是レ氏ノ說道德ト宗教トハ同一ノ基點ヨリ起レリトスル者ニシテ唯其異ナルハ道德ハ行為舉動ノ上ニ關シ宗教ハ信仰ノ上ニ關ストスルノミ。是氏ノ世間ヨリ無神論者トシテ攻撃セラレタル所以ナリ

氏ノ說ニヨルニ道理上ニ存スルモノハ必然ノ理ナリ、若シ必然ナラサル者ハ道理ニ合セス、必然ナラサル者ヲ真理トスルハ吾人ノ迷誤ナリ、通俗ノ所謂神ハ人ノ想像シタル者ニシテ道理上必然ニアラス、故ニ通俗ノ神ハ迷誤ナリ、彼等ハ云フ既ニ宇宙アレハ之カ原因タル神アリト、然レトモ之レ道理上必然ト云フヲ得ス、若シ道理上ヨリ考フルキハ世界其者ハ絕對不可知ナルヲ知ル、而シテ絕對其者ハ有機活動躰ニシテ其内部ニ一定ノ規律ヲ有シ、此規律ニ本キテ自發自動シテ此世界ヲ顯ハス、故ニ此世界其者即チ絕對ニシテ世界以外ニ神ノ如キ絕對ノ躰アルコトナシ、而シテ此絕對ノ躰ヨリ自發自動ノ作用ヲ以テ世界ニ自由ノ啓示ヲ爲スモノハ道德上ノ世界ナリ。故ニ道德世界ハ自由ノ世界ニシテ感覺以上ニ位シ感覺世界ヲ脱シテ達スヘキ境遇ナリ、而シテ吾人ノ目的ハ此自由ノ境遇ニ躰達スルニアリ。以上

ハ氏ノ道德宗教ノ基礎トシテ論シタル所ナルカ世間ヨリ無神論者ノ攻撃ヲ蒙リシテ以テ、氏ハ之ヲ辯護シ宗教ノ真理ヲ示スモノハ哲學ニシテ世人ノ偶像ニ均シキ人間性神祕ヲ信スルカ如キハ却テ無神教者ナリト論セリ。

宗 教 哲 學

フヒテカ世間ノ攻撃ニ對スル一論文アリ、曰ク耶蘇教中ニ含ム真正ノ道理ヲ開示スルハ哲學ナリ、抑モ哲學上ノ問題ハ善トハ何ソヤ真トハ何ソヤト云フニアリ、之ヲ論スルニハ恰モ理論的哲學ニ絕對的我アルヲ假定スルカ如ク、道德上宗教上ニ絕對的善絕對的眞アルコトヲ假定セサルヘカラス。吾人ノ心ニハ一種ノ聲アリテ吾人ニ義務アルヲ知ラシム、又外界ヨリ獨立セル一層高尚ナル自由ノ境遇アルヲ知ラシム、此境遇ハ吾人ノ心ニ關係ヲ有シ内ニ省レハ良心ノ存スルヲ見ルナリ、而シテ道德上ニ一定ノ規律アルヲ知ルハ即チ良心ノ鏡面ニ於テ知ルナリ、故ニ義務ノ命令ニ從テ自由ノ境遇ニ躰達スルヲ勉ムルハ道德宗教ノ目的ナリ、而シテ感覺上ニ現ル、諸事諸物ハ絕對的我ノ境遇ヨリ反射シテ顯レシ者ナレハ是レ只道德上義務ヲ充スヘキ材料方便タルニ過キス。然ルニ世間ノ宗教ハ感覺上ノ萬有萬境ノ上ニ神アルヲ定メ、感覺上ノ性質ヨリ想像シテ其形祕ヲ構造シタルモノナリ、

宗 教 哲 學

然ラハ是レ偶像教タルニ過キスシテ却テ無神教ナリ、道德上ノ規律ヲ以テ神トシタル説コソ眞ノ有神論ナレト。由此觀之氏ハ世間ノ宗教ヲ眞宗教ニアラスト論破セシカ勿論世間ノ宗教ハ有限ニ偏シ過キタルモノナレトモ、フヒテモ亦一方ニ偏スル説ニシテ公平ヲ得サル所ナキニアラス、元來神ハ絕對無限ノ躰ナルモ之ヲ心裡ニ想出スルトキハ多少ノ制限ヲ蒙ラサルヘカラス、是レ蓋シ人智ノ止ムヲ得サル所ナリ、是ニ於テ多少ノ偶像性ヲ帶フルニ至ル、若シ全ク純然タル道德一途ノ神ヲ説クカ如キハ形式ノミニシテ材質ヲ缺キタルモノヲ生スヘシ今フヒテノ論ハ此ノ如キ神ニ偏シタルヲ免レズ、此等ノ點ヲ考フレハ氏ノ宗教論モ未タ完全ト謂フヘカラス、然ルニ氏自ラモ亦多少感スル所アリシニヤ第二期ニ至テ其説ヲ一變セリ。

第二期ノ説ハ第一期ノ如ク斬新ナルニアラサレ、第一期ノ唯心論ニ傾キ過キタルカ爲メ稍、其説ヲ變スルニ至リタル者ナリ。第二期ニ於テハ宗教ノ上ニ實際的ノ宗教ト宗教學(即チ理論的)トノ區別ヲ立テタリ、宗教其者ハ人間全躰ニ關係シ人間ノ行爲舉動ヲ支配スルモノニシテ、宗教學ハ之ニ反シテ衆人一般ノ關スル所ニア

ラス、宗教其者ハ活物ニシテ宗教學ハ死物ナリ、且ツ宗教ハ感情ニ關シ宗教學ハ感情ニ關セス、サレハ宗教學ノ爲ニ新ニ感情ヲ起ストナク又破ルヲナシ、又宗教學ハ論理ニヨリテ推理スルモ宗教ハ道理ニ由リテ組織スヘキモノニアラス人間固有ノ純然タル道德ノ感情ヲ開發スルヲ本意トスルナリ、故ニ宗教ニハ神ノ存在、神ノ性質ヲ論セス唯神人ノ關係ヲ吾人ノ行爲ニ對シテ教フルモノナリ、サレハ宗教ハ外部ヨリ新思想ヲ注入スルニアラス自己ノ固有セル宗教思想ヲ發育スルモノナリ。此ノ如ク氏ハ始ニ主觀的唯心論ノ極端ニ奔リシテ一變シテ客觀的唯心論トナシ其宗教論モ倫理的凡神教ノ形ヲ取ルニ至レリ、是レ宗教論ノ第一期第二期ノ異ナル點ナリ。

第二期中ニ氏ハ人務論ナル書ヲ著ハシ其中ニ氏ノ宗教說ヲ論セリ、其書ニヨルニ感覺上ニ顯ル、事物モ又推理概念ニヨリテ得タル智識モ共ニ世界ノ真理ヲ示スヲ得ス、感覺上ヨリ研究セハ世界ノ外ニ真理トシテ定ムヘキモノナク、殊ニ經驗論ニヨレハ我心ニ自由ノ思想ノ存スルヲ知ラスシテ萬有ノ器械的制限ヲ受クルモノトス、又推理概念ヨリ得タル智識ハ萬有ノ實在ヲ我意識ノ反射トシ我其者ノ實在

在ヲモ之ヲ夢中ノ空想トス、此事タルカントノ所謂悟性理性ノ論點ニ考フレハ明ナリ、フイテハ之ニ對シテ絕對的ノ真理ハ一層高尚ナル信仰ニ由ラサレハ達スルヲ得ス、信仰ハ感覺推理ヨリ得ヘキモノニアラス心ノ本性ノ上ニ屬スル者ナリ、即チ心ノ本性ノ上ニハ良心ト名クル者アリテ我舉動ヲ支配シ行爲ヲ命令シ吾人ハ此命令ニ由リテ我心中ニ眞實世界即チ自由獨立ノ世界アルヲ知ル、而シテ感覺世界ナルモノハ只良心上ヨリ發スル義務ヲ達スル手段階梯タルニ過キサル者ナリト、此ニ本キテ實際的宗教起ルナリ、然ルニ宗教學ハ推理上ノ講究ニシテ絕對的ノ實在ヲ感スルヲ得ス、人ハ此世界ニ在リテ只信仰ニヨリテ一層高等ノ世界アルヲ知ル、之ニ達スルニハ感覺世界ノ境遇ヲ媒介トシテ進マサル可ラズ、而シテ推理概念ト感覺上ノ現象トハ共ニ絕對的無限ノ上ニアリテ一ナリ故ニ此二者其根本ニ遡レハ同一ナリ、然ルニ吾人ノ智識ノ有限ナルハ何ソヤト云フニ是レ無限ノ道理カ自制自限シテ有限ノ顯象ヲ爲スナリ、此無限ノ道理ヲ神トス、即チ第一期ノ所謂絕對的我ナリ、然ラハ有限ノ理ハ無限ノ道理即チ神ノ中ニアリト云フヘシ、此無限ノ道理ハ精神ト連絡スル者ニシテ、吾人ノ義務ノ道理モ此中ヨリ生シ吾人ノ生命

宗 教 哲 學

モ此中ヨリ顯ハル、而シテ神ト我心トハ互ニ相關係シ神ノ聲ハ吾人ノ心ニ響キ吾人ノ聲ハ神ノ聲中ニ響クト云フ、然レトモ吾人ノ有限上ノ神ハ真正ノ神ニアラス、真正ノ神ハ一切ノ有限上即チ物ノ上ニモ心ノ上ニモ遍在スルナリ、是レ萬有神教ノ形ヲ爲シタリト云フ所以ナリ。又神ノ上ニハ一種ノ眞世界ヲ見ル、其中ニハ萬有ナク變化ナク只神ノミ存ス、而シテ此世界ハ感覺世界ヨリ更ニ一層高等ニシテ一物トシテ善ナラサルハナシ、現在世界ノ善惡ハ最上ノ善ニ向テ進ム刺戟ニシテ死ハ一層高等ノ生活ヲナス方便ナリ、神ハ吾人ニ通スルニ精神上ノ眼ト聲トヲ以テスルモノニシテ吾人ノ生命モ心内ノ聲音モ共ニ神ノ發顯ナリ、而シテ外界ノ現象ハ恰モ旭日ノ光カ數千萬ノ露ニ反射シテ無數ノ色ヲ生スル如ク神ノ反射ナリト論シ、遂ニ凡神教ニ傾キ秘密的宗教論トナレリ、而シテ此說ハ一方ニハシエリ、ソノ客觀的絶對論ニ達スル階梯トナリ一方ニハシエライエルマールヘルノ宗教論ニ至ル階梯トナレリ

フ、ヒテノ宗教說ハ第一期ニ於テハ道德宗教ヲ一ニ看做セシモ、第二期ニハ之ヲ分チテ宗教ハ道德ヨリ尙ホ深奧高尚ナルモノトセリ、道德ハ心中ノ義務ノ命令ニ從

宗 教 哲 學

テ善ヲ行フノミニシテ更ニ其義務ノ起ル所以並ニ義務ノ性質如何ヲ知ラス、然ルニ宗教ハ道德ヨリ更ニ深キ根原ニ遡リ規律義務ノ性質ヲ明ニシ、而シテ此規律義務ハ無限ノ生命ノ發達ヨリ起ル所以ヲ詳ニス、道德ハ其道理ヲ知ラスシテ單ニ義務ニ服從シ、宗教ハ其命令ノ根原タル生命其者ノ精神中ニ呼吸シ生活シテ存スル者ナリ、故ニ道德ニアリテハ命令ニ從フテ本トシ、宗教ニアリテハ命令ノ前ニ意志アルヲ要ス。而シテ道德宗教ノ外界ニ對スル關係ハ道德ハ外界ノ規律ヲ離レ内界ノ規律ニ基キテ起ル、故ニ外界ノ規律ハ道德ニ對シテハ其力ヲ失フ、然レトモ尙ホ内界ノ規律ヲ存ス、然ルニ宗教ハ内界ノ上ニ立ツモノナレハ内界規律其者モ宗教ニ對シテハ其力ヲ失フ、サレハ宗教ハ道德ヨリ一層高ク且ツ深キ處ニ位スルモノニシテ宗教心ノ中ニハ道德心ヲ包有スルナリ、例セハ克己作用ノ如キハ我心ニ苦痛ヲ感スル者ナリ、然レトモ道德上ニアリテハ其何ノ故タルヲ知ラスシテ只心内ノ命令ニ從テ此苦痛ニ打勝ツノミ、是レ道德ノ性質ナリ、然ルニ宗教上ニアリテハ克己ノ苦痛ナルヲ覺エサルナリ、何トナレハ宗教ハ道德ヨリ尙ホ高キ處ニ位シ神ノ愛惠或ハ幸福ト自己ノ心トヲ一致結合スルヲ以テ更ニ服從ノ苦痛ヲ覺ユル



宗 教 哲 學

「ナシ、凡ソ宗教上神ノ愛惠ヲ得タル上ニハ苦樂盛衰ノ範圍外ニ超出シ其生命ハ神ノ生命ヲ根據トシテ無限不滅ノ惠福ヲ有スル者ナリ、サレハ道德ハ宗教ノ初門ニシテ道德上規律ニ服従スルヲ練習スレハ其結果愛惠ヲ感シ其味真樂ヲ感スルニ至ルト。是レ第二期ノ宗教ト道德トノ關係論ニシテ、如此解釋スレハ其論秘密的タルヲ免レサルナリ。

次ニ形而上學ト宗教トノ關係ヲ述フニ形而上學ハ宗教ニ缺クヘカヲサル要素ニシテ、古來宗教ハ種々ノ形ヲ以テ顯ル、モ何レノ宗教モ形而上學ニ關係シ形而上學ノ道理ニ基クモノナリ、然ルニ宗教家ハ形而上學ヲ擯斥シ愚弄スルモノハ是レ自ラ宗教ヲ擯斥シ愚弄スルニ均シ。蓋シ宗教ハ一種ノ見、一種ノ光ニシテ其光ハ所謂神ノ光ナリ其神光中ニ一切ノ生命生活ヲ現スルナリ、故ニ宗教ハ道理思想ト密接ノ關係ヲ有ス、然ルニ道德ハ實行一方ニ關スルモノナレハ宗教ト異ナルヲ論ヲ待タズ、

其後一千八百〇六年又宗教上ニ關スル一論文ヲ發行セリ。此論文ニハ惠福ナル生活ノ道理ヲ論シ、生命ト惠福ト其根原一ナルヲ論シタリ。若シ汝ハ何ヲ愛スルカ

宗 教 哲 學

何故ニ生存スルカト問ハ、愛ハ汝ノ生活ノ根原中心ナルヲ知ルヘシ、而シテ眞ノ生活ハ其中心ナル神ノ愛ト生命ト同一ナルモノナリ。然ルニ神ノ生命ハ不生不滅ニシテ吾人ノ生命ニハ變化アリ、吾人ノ生命ニ變化アルハ是レ吾人ノ生活ノ扉影幻像ニ過キス、而シテ此神ノ不變不化ノ生命ハ吾人ノ思想ニ存シ、又吾人ノ思想ニ由リテ知ラルヘシ、何者其思想ハ神ノ精神ヨリ發シテ我心中ニ入リテ存スレハナリ、故ニ吾人ノ思想ニヨリテ神ノ生命ノ不變不化ナルヲ知ルト。氏ハ此ノ如ク説明シ之ヲ以テ眞ノ宗教ナリトシ、眞ノ宗教ニテハ吾人ハ外界ノ諸物ニ付テ有スル愛ヲ捨テ單一ノ愛即チ神ノ愛ニ躰達シ之ニ由リテ得タル生活ヲ惠福ノ生活ト云フト説ク。

又フイテハ世界ノ解釋ニ就テ其發達ノ順序ニ許多ノ階級アルヲ説ク。第一ハ下等淺薄ナル見解ニシテ感覺上ノ現象ヲ其儘眞實ノ物トシテ説クモノ即チ唯物論者ノ如キモノ是ナリ。第二ハ第一ヨリ一步進ミタル見解ニシテ世界ヲ感覺上ノ物質的規律ノ支配ノ下ニ置カスシテ道理的生物ノ規律ノ本ニアルモノトス。普通ノ道德學ハ此見解ニヨル。第三ハ第二ヨリ一層高等ノ道理ヨリ與フル見解ニシテ、我

宗 教 哲 學

心内ノ規律ノ最上ニ遡リテ絕對性ノ規律ニ達シ神ノ生存ト結合シ神ノ啓示ノ上ニ内界ノ規律道德ヲ講スルモノナリ。第四ハ今一步高尙ニシテ純然タル宗教ノ見解ナリ、即チ此見解ニヨレハ善美ハ神ノ性質ノ吾人ニ存スルモノニシテ此性質ヲ離レテ善美ナシ、而シテ吾人ハ其神ノ直接ノ影像ニシテ此世界ハ間接ノ影像ナリトス、何トナレハ世界ハ吾人ノ意識ノ反射セルモノニシテ吾人ノ意識モ世界ノ現象モ共ニ神ノ光明ヨリ發シタルモノナレハナリ。同一ノ神ノ光明ヨリ發シテ種々ノ現象ヲ示スハ恰モ同一ノ太陽ノ光線屈折シテ種々ノ現象ヲ爲スカ如シ、神ノ光明吾人ノ意識ニ映シ此意識ヨリ屈折反射シテ万物ヲ顯ハスナリ。第五ハ最後ノ階段ニアル見解ニシテ第四段ニ於テ神ト世界トノ關係ヲ宗教上ニ説キシ者ヲ學理上ヨリ説明スル者ナリ、即チ哲學上ノ解釋ヲ與フルモノヲ云フ、素ヨリ宗教ハ信仰ニ本ツキ哲學ハ思想ニ本ツクモノナレハ同一ノ説ニシテ宗教ニ説クト哲學ニ説クトハ大ニ相異ナル所アリ、然レトモ其見解一致スル所ナカルヘカラス、是ニ於テ宗教ト哲學トテ一致シタル今一ノ説明起ラサルヲ得ズ。氏ノ論ハ始メ宗教ト哲學ト同一ニ看做シ後ニ宗教ト形而上學ト一致スルヲ説キシカ、第五段ニ至リテ宗教ハ形而上學ヨリ尙ホ高キ處ニアリト云フ説ヲ唱ヘタリ、然ルニ其説又一變シテ宗教ノ最上最純ノ見解ニヨレハ道德ヨリモ哲學ヨリモ宗教ハ尙ホ頂上ニ位シ道德及ヒ哲學ノ上ニ其光明ヲ與ヘ之ヲ一致セシムル根本ナリト説キタリ。抑モ吾人ト神トノ關係ハ吾人ハ神ノ心中ニアリテ生存シ神ハ吾人ノ心中ニアリテ生存ス、即チ吾人ハ意識上ニ於テ直接ニ神ト關係スルモノニシテ、此點ニ至レハ神ト吾人ト一致スルナリ、管ニ然ルノミナラス我ト外界ト一致スルニ至ル、此根元ニ成立スル者即チ宗教ナリ、換言セハ宗教ハ神人相互ノ愛ノ上ニ成立スル者ニシテ其相互ノ愛ニ達スレハ神人ノ區別鏗解シテ一味トナル、故ニ宗教ハ哲學道德ノ上ニ位スルモノナリト。是ニ至レハ氏ノ説ハ秘密的宗教ノ性質ヲ帶フルモノト云フベシ、而シテ此説ハ宗教上ヨリ云ヘハ高尙ナル考ナルヘケレトモ哲學ヨリ云ヘハ極端ニ奔リタル者ニシテ遙ニ第一期ノ下ニアリト云ハサルヘカラス。

宗 教 哲 學

フイヒテノ宗教論ノ秘密的タル所以ヲ尙ホ少シク陳述セシニ、吾人ハ我心内ニ在テ神ト一致契合スルヲ得、然レトモ此神人一致ノ思想ハ下等ノ情念ニ蔽ハル、間ハ其光ヲ發セス、即チ自己ハ神ノ外ニ獨立スルモノナリト考フル間ハ其思想我心中

宗 教 哲 學

ニ發セス、何トナレハ自己ヲ利スル欲念ノアル間ハ神ノ愛ノ心中ニ浮フヘキ理ナシ、若シ其利己心ヲ離シテ下等ノ欲念ヲ排シ去ラハ其中ニ神ノ思想顯出シ神人一致ノ境ニ達スヘシ、而シテ此境ニ達スルハ吾人ノ力ニアラス吾人ハ唯情念ヲ除去スルノミニテ神ノ方ヨリ自然ニ我心中ニ離レ來ルナリト、是レ氏ノ說神秘の凡神教ト云フ所以ナリ、又氏ノ說ニヨルニ吾人ハ神ヲ顯<sup>ま</sup>レテ獨立スルモノニアラス、然ルニ吾人カ神ヲ離レテ獨立スルモノト思フハ迷ナリ、吾人ハ神ヲ知ルト同時ニ迷ノ雲霧消散シ神ト一致スルニ至ルト、由此觀之氏ノ說ハ外界ヲ空スルカ如ク思ハルルモ氏ハ外界ヲ空無ナリト排棄スルニアラス、氏カ第一期ニ說キシ絶對的我ヲ其儘神ノ躰トシタルモノナレハ、外界ハ我意識上ニ缺クヘカラサル材料ナリ、要之道徳上宗教上共ニ自己一個獨立シテ存スルモノト偏信スルハ迷妄ナリ、故ニ先ツ自己獨立ノ念ヲ去ラサルヘカラス、換言セハ我ノ中ニ神我ト人我トアリ、神我ハ真我ニシテ人我ハ假我ナリ、此假我ヲ去テ真我ヲ開顯セサルヘカラス、是レ即チ宗教上ノ目的ナリ。

以上陳述セシフイヒテノ說ヲスピノザ、ライプニツノ說ニ比較シテ批評セハ氏ノ說

宗 教 哲 學

ノ最後ニ万有神教ノ性質ヲ有スルニ至リシハスピノザノ說ニ近シ、然レトモスピノザノ神ハ寂然不動ノ躰ヲ云ヒ、フイヒテハ活動勢力アル躰ヲ云フ、即チスピノザノ神ハ死物ニシテフイヒテノ神ハ活物ナリ、故ニスピノザハ厭世ニ傾ケトモフイヒテハ然ラス、且ツ二氏共ニ神人相愛ヲ說クモスピノザハ沈靜的ナリフイヒテハ活動的ナリ、例之スピノザノ愛ハ月光ノ如クフイヒテハ愛ハ日光ノ如シ、而シテフイヒテハ神ノ愛ヲ活動的トスレトモ神カ外部ヨリ肉身上ニ愛ヲ與フルヲ說カス、是レ神ハ真我ヲ愛スルモノナレハナリ、故ニフイヒテハ活動ノ點ハライプニツニ似タルモ亦其間ニ差異アリ、即チ神ノ愛ヲ與フルニ付テライプニツハ外界ノ手段ヲ取リフイヒテハ内界ノ手段ヲ取ル、之ヲ表示スレハ左ノ如シ、

スピノザ——沈靜的——内界  
 ライプニツ——活動的——外界  
 フイヒテ——活動的——内界

次ニカント、シラー、フイヒテ三氏ノ說ヲ比較センニ、シラー、フイヒテ二氏ハカントノ道理教ヨリ一步ヲ進メ同氏カ内界ノ義務ノ思想ト感覺上ノ情念トヲ結合スル能ハ

サリシテ一致セシメタリ。然レトモ二氏ノ間亦異同アリテフイヒテハ宗教的道德論ニシテシラーハ美學的道德論ナリ、勿論フイヒテモ始メ道德的宗教論ヲ唱ヘシモ後ニハ宗教的道德論ヲ唱ヘシラーハ美學的ヨリ得タル思想ヲ以テ説明シ美靈ニ達セハ雙方一致スルヲ説ケリ、然ルニゴエテハ神人本來一致スルモノナリト説キタリ、フイヒテノ方有ハ神ノ啓示トシタルハゴエテニ同シキモ神人一致ノ點ニ於テハ異ナレリ。

又フイヒテノ耶蘇教會ニ就テノ論アレントモ茲ニ其必要ナケンハ略ス。

第九段 理想學派

第二 シュライエルマーヘル氏哲學

シュライエルマーヘル氏(Friedrich Daniel Ernst Schleiermacher)ハ神學上一派ノ説ヲ組織セシ人ニシテ、其説ハ宗教哲學史上最モ大關係アリ。氏ハ耶蘇新教一派ノ僧侶ノ子ニシテ、一千七百六十八年十一月廿一日獨逸ブレスローニ生ル。幼ニシテモラビアノ敎社ニ入りテ其養育ヲ受ケシカ、此養育ヨソ實ニ氏カ一代ノ宗教思想ノ基礎トナリタルナレ。後ハレノ大學ノ神學部ニ入りテ之ヲ卒業シテ諸方ノ法敎師トナリ、

又ハレノ大學ノ神學及ヒ哲學ノ敎授トナリ、柏林大學ノ起ルニ際シ擧ケラレテ神學部ノ敎師トナリ死ニ至ル迄此職ニ從ヘリ。一千八百三十四年二月十二日歿ス。

シュライエルマーヘルハ始メカントノ哲學ヲ學ヒ、後フイヒテ、シュリンクノ哲學ニ注意ヲ置キテ研究シ、又ヤコビノ書ニヨリラスピノザノ哲學ヲ知り、又後ニプラトール並ニ希臘諸派ノ哲學ヲ知ルニ至レリ。ザンハ氏ノ哲學ハスピノザ、ライプニツ、カント、フイヒテ、シュリンク等ノ種々ノ學説ヲ結合シ之ニ一家ノ意見ヲ加ヘタル説ナリ。就中スピノザ凡神敎ノ説ヲ基礎トシ、之ニライプニツノ元子活動説並ニカント、フイヒテノ唯心論ヲ調合シタルカ如シ、然レトモ其調合ハ外部ノ混合ニアラスシテ、之ヲヨク和合同化セシメ自己一家ノ見識ヲ以テ新哲學ヲ組織セルナリ。

氏ノ哲學ノ大要ヲ述ヘンニ、氏ノ説ハ事物ノ本體ハ不可知的ナリト云フ點ニ論ヲ起シ、カントカ時間空間ハ心ノ形式ニシテ物ノ性質ニアラスト云ヒシテ、氏ハ獨リ吾心ノ形式ノミナラス物其者ノ本體ノ形式ナリトシ、又カントカ十二ノ原則ハ全ク主觀的ニシテ外界其者ノ實態ハ不可知的ナリト拋棄セシテ、氏ハ原則ニヨリテ物其者ノ性質ヲモ知了スルヲ得トセリ。要スルニ氏ハカントノ所謂時間空間及ヒ

## 宗 教 哲 學

十二ノ原則ハ主觀的虛形ナルノミナラズ外物其者ノ形式ナリトシタルモノニシテ、カントハ唯心一方ヲ以テ外物ノ説明ヲ與ヘタレトモ、其形式タル主觀的ナルノミナラス雙方一致シテ成ルモノナレハ雙方ノ形式ナリト。而シテ氏ノ考ニハ物心ノ兩存ハ合シテ一トナルモノニシテ、此二者ノ一致ハ吾意識内ニ成立スルノミナラス一致其者カ獨立ノ成立ヲ有ス、而シテ此世界ノ相合シテ一トナレルモノ即チ神ナリ、此神ノ一部分ニ能動所動ノ交互作用アリ、此能動作用ノ上ニハ自由ノ感情結合シ所動作用ノ上ニハ服從ノ感情結合ス、而シテ吾人ハ宇宙合一ノ躰即チ神ニ對スレハ絶對的服從ノ感情ヲ有ス、此絶對的服從ニ本キテ成立スルモノハ宗教ナリ、而シテ其感情ノ道理ヲ示スモノハ宗教學ナリ、故ニ宗教上ノ問題ト他ノ諸學ノ問題トハ自ラ相異リテ諸學術ノ問題ハ主觀上意識思想ノ上ニ客觀上ノ眞理ヲ發見スルヲ力メ、宗教ノ問題ハ主客兩觀ノ相合シテ一躰トナル者ニ對シテ眞理ヲ發見スルニアリ、此ノ如ク神學ト哲學トハ既ニ其兩分ヲ異ニスルモノナレハ各々自己ノ範圍内ニ在リテノミ自由ヲ有シ互ニ相干涉スヘキ者ニアラスト。從來哲學ニ於テ宗教ヲ説明セントスル者二者ヲ混同スルカ爲メ却テ破壞スルニ至リシガ

## 宗 教 哲 學

氏ハ宗教ト哲學トノ本領ヲ分チ各相犯スヲナカラシム、而シテ氏ハ之ニヨリテ耶穌教ヲ説明セントテ企テタリ。  
氏ノ宗教說ハ當時獨逸ニ行ハレシ荒唐學派ノ影響ヲ蒙リテ起リタル者ノ如シ、元來氏自身モ荒唐學派中ノ一人ニシテ、氏カ直覺一邊ヲ以テ宗教ヲ哲學ヨリ區別セシハ、一切ノ道理ヲ排斥シ直覺想像ノ一邊ヲ取ル荒唐學派ノ影響ト云ハサルヘカラス。又氏ハ近世初年エックルトノ唱ヘシ神秘教ノ說ヲ取リ之ヲ學理上ニ説明セリ、獨逸ニ於テハ神秘教ノ一タヒ世ニ出テシ以來久シク神ハ理外ノ者ト一定セラレシニライブニツ、ウタルフ出テ、道理上神ヲ説明セントシカントニ至リテハ神ヲ道德ノ範圍内ニ入レテ論シタリ、且ツ當時神秘教ハ世ノ攻撃ヲ受ケ殆ト泯滅セントスルニ至レリ、此ノ如ク學界ノ形勢道理一方或ハ道德一方ヲ以テ神ヲ説明シ、想像直覺ヲ全ク捨テ、顧ミサリシカハ氏ハ之ニ反シテ感情ヲ離レテ宗教ノ存セザル所以ヲ説キタリ。從來道理上宗教ヲ説明スルモノ抽象的の道理ヲ以テシ之ヲ組成スル宗教ノ皮肉ナク唯道理ノ骨格アルノミナレトモ、氏ハ之ニ反シテ眞正ノ宗教ハ直覺ノ皮肉ヲ加ヘテ始メテ完全ナルヲ得トセリ、勿論直覺學派ニ於テハ其主義ノ

宗教ヲ説クト雖モ未タ氏ノ如ク學術的ニ立論セルモノアラザリキ。

氏カ千七百九十九年ノ發行ニ係ル宗教排斥論者ニ對ヘタル宗教論アリ。此書ニヨルニ現今宗教ヲ論スル者多ク道理若クハ道德ヨリ説明スルモ、若シ一般ノ宗教眼ヨリ之ヲ見レハ是皆無宗教タルニ過キス、通常説ク所ノ宗教ト雖モ其中ニハ一種磨滅スヘカラサル理ノ存スルアリト論シ、宗教内部ヨリ宗教ノ本原トナルヘキ者ヲ取出セリ、故ニ氏ハ宗教ノ辯護者ナントモ又一一般ノ宗教者ト異ナル所アリ。氏ハ宗教ヲ攻撃スル者ヨリハ一層深キ處ニ入り宗教ノ因テ以テ起ル本原ヲ説キ、且ツ宗教ハ如何ナル作用ヨリ起リ如何ナル道理ヲ含メルカヲ論セリ。氏ハ曰ク世人ノ宗教ヲ排斥スルハ宗教ト哲學トヲ混スルニ由ルナリト。又氏ハ人ニ對テ曰ク世人ハ何故ニ我心ニ宗教ノ至高至大無限不滅ノ者ト交通スルヲ知ラサルカ蓋シ宗教心ハ此無限不滅ノ躰ニ賴リテ存スルナリト、由此觀之氏カ宗教ノ本原此ニアリトスル者ハ無限不滅ト交通スル直覺アルヲ示サントスルニアリ。又當時獨逸ニハ實利主義盛ニ行ハレ利益ノ有無ヲ以テ諸事ノ得失ヲ判斷シタルカ爲ニ宗教上ノ議論モ從テ淺薄ニ陥リシカ、氏ハ之ヲ排斥シテ曰ク社會ニ利益ヲ與フル法律ト混同

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

シテ宗教ヲ説クハ誤ナリ、又法律道德ノ補助ヲ藉リテ宗教ノ行ハル、アラハ其宗教ハ真正ノ宗教ニアラス、之ト同時ニ法律道德ノ宗教ノ補助ヲ藉リテ行ハル、モ誤ナリ、宗教ハ最モ高キ處ヨリ必然自發スルモノニシテ其占領スル範圍ハ實ニ感情ニアリ、故ニ其信仰ハ我感情ヲ支配シ且ツ其範圍ヲ專有スルモノナリ、是ノ感情ヨリ成立スル宗教コソ真正ノ宗教ナレ、故ニ宗教ハ純正哲學ニモアラス又道德學ニモアラス、此二者ヲ混同シタルモノニモアラス、要スルニ宗教ハ智識ニ依ルモノニアラス、何トナレハ智識ノ尺度ハ信仰ノ尺度ニアラサレハナリ、然レトモ沈思熟考ハ宗教ニモ必要ナリ、併シナカラ此沈思熟考モ亦理學ニ異ナリテ理學ハ一ノ有限ヨリ他ノ有限ヲ知ルニアントモ宗教ハ有限ヲ知ルニアラス又理學哲學ハ有限ヨリ次第ニ進テ最上ノ原因ニ達スルモ宗教ハ然ラスシテ宇宙全體ヲ直接ニ我心ニ感知スルナリ、サレハ宗教上ノ信仰者ハ道理ヲ知リテ後善行ヲ修スルニアラス、道理ヲ解セサル婦人ノ如キモ自然ニ善良ノ行爲ヲナス、是レ宗教ノ哲學ニ異ナル點ナリ、又信仰ハ行爲舉動ノ上ニ存セス行爲ニ關スルハ道德ナリ宗教ハ我心ノ上ニ宇宙全體ノ無限ヲ感受スルヲ以テ道德上ノ作用トハ自ラ異ナリ、然レトモ宗教

ハ智識ト學動トノ上ニ關係シテ存ス、宗教ノ本原ハ宇宙全體其者ヨリ發スル感情  
 ナレハ外界ニ對シテハ必然ナリ、内界ニ對シテハ自由ナリ、此兩範圍ニ至リテ宗教  
 其者ノ啓示ヲ顯ハス、然ラハ哲學モ道德モ其根元ハ宗教ナリト云フヘシ、氏ハ宗教  
 ニ依ラスシテ推究シ並ニ動作シ得ヘシト思フハ傲慢ニ過キタルモノト謂フヘシ  
 ト云ヘリ、故ニ宗教ノ思想ヲ知ラントセハ物心二者ノ相合スル感情ノ上ニ考ヘサ  
 ルヘカラス、若シ吾人カ外界ニ對シテ明了ニ其活動スル所以ヲ觀察スルニ物心相  
 互ノ關係ヲ生ス其接合シテ一トナル點ニ至レハ宗教ノ感情此ニ存ス、是レ宇宙全  
 體ノ觀念カ一個體ト接合シテ一トナル所、又吾人ノ生活ト物ノ活動ノ生スル所、宗  
 教其者ハ實ニ此點ニ起ル。由此觀之氏ノ宗教說ハ感情ヲ以テ宗教ノ要素トシテ其  
 感情ハ宇宙全體即チ物心二者ノ合シテ一トナリタルモノヲ感知領得スル者ナリ、  
 故ニ宗教ノ目的ハ宇宙全體ナリ、而シテ之ヲ知ルハ方有人間ノ生存上ニアリ、方有  
 ニ於テハ方有ノ一致スル點即チ一定ノ規律及世界方有ノ變化中ニ不變化アルノ  
 點是レ所謂外界ノ啓示ナリ、此啓示ニヨリテ宇宙全體ノ如何ヲ感知スルヲ得、又吾  
 人ノ心ニヨリテ宇宙全體ヲ感知スルヲ得ルナリ、道德上ニハ人ノ個人性ト理想ト

宗 教 哲 學

ヲ比較シテ個人性ヲ排拒スト雖モ宗教ハ一個人ト宇宙トノ一致契合ノ上ニ存ス  
 ルナリ、是レ所謂宗教情操ニシテ最上無限ノ生活上ニ成立ス、其生活ハ吾人ノ感覺  
 ヲ以テ知ルヲ得ス、只宗教情操ニヨリテノミ達スルヲ得、而シテ愛仁惠ノ諸德モ皆  
 其情中ニ存ス、故ニ宗教ハ道德ノ僕婢ニアラスシテ其監督者ナリ、又宗教ハ無限不  
 滅ノ體ニ關接シテ存スル以上ハ私見小識ノ如キハ之ヲ排斥ス、從テ論理ノ續釋推  
 論證明等ハ宗教其者ニアラス、既ニ宗教ハ論理ノ關スル所ニアラストセハ從來種  
 々ナル問題ノ講究ハ如何ニシテ起ルカト云フニ此等ハ宗教其者ニアラス吾人ノ  
 反省思慮タルニ過キス、即チ宗教ヲ世間ニ弘通スル手段トシテ之ヲ講スルノミ、宗  
 教其者ハ論理上ノ講究ヲ要スルモノニアラス、サレハ宗教問題ヲ講究スルヨリハ  
 神告託宣天啓ノ如キ者却テ宗教ヲ知ルニ益アリ、又宗教上ノ講究問題ハ純正哲學  
 或ハ倫理ノ如ク爭フヘキモノニアラス、又宗教上ノ書ニ記セル靈怪ハ宗教上ノ不  
 思議トシテ普通人ノ特ニ信スルモノナルモ、若シ宗教上ノ眼ヨリ見レハ宗教上ノ  
 出來事ハ一トシテ靈怪ナラサルハナシ、啻ニ然ルノミナラス信仰ノ尤モ深キ人ハ  
 一切ノ事物悉ク靈怪ナルヲ見ル、然ルニ彼ニ見ルモ此ニ見サルヲアルモ其人ノ信

宗 教 哲 學

仰ニ深淺アルカ爲ナリ、故ニ宗教上ノ見ニアリ、即チ世界見ト宗教見トナリ、世界見ハ俗見ニシテ之ヨリ見レハ靈怪ヲ見ルヲ得サントモ若シ宗教見ヨリ見レハ一切ノ事々物々悉ク不思議靈怪ナリ、又天啓ハ宇宙全軀ト吾人ト交通スル道ニシテ吾人ハ我内部ニ於テ宇宙其者ト相通スルヲ得、而シテ前ニ所謂宗教上ノ感情ハ天啓ニ出ル者ニシテ、天啓ハ意識外ニアル者ナリ、故ニ天啓ハ道理上ノ沙汰ニアラスト、此ノ如キ説ヲ以テ氏ハ託宣神告ヲ説明シ從來道理派ノ否定セシ所ヲ宗教上實ニ有リ得ヘキ者トセリ。然レトモ氏ハ妄ニ經典其者ヲ奉信スルヲ以テ宗教トセス、只經典ヲ崇拜スルハ人ノ死セシ墳墓ヲ拜スルニ異ナラス須ラク經典ノ内部ニ存スル精神ヲ感知領得スヘシト云ヘリ。又氏ハ宗教論ノ終ニ於テ神並ニ不滅ニ就テ論シ此等ノコトハ信仰ノ前ニ假定スヘキモノニアラスシテ信仰ニヨリテ得タル結果ナリト、又神ヲ有限性トシ無限性トスルニ就テ氏ハ人ノ神ヲ想像知覺スルニ三段アルコト説ケリ、一ハ拜物教、二ハ多神教、三ハ一神教ナリ、其一神ニ就テ有限無限ノ問題アレトモ是レ宗教上第一ノ要點トスルニ足ラス、何トナレハ有限無限共ニ宗教感情ニヨリテ顯ル、モノナレハナリ、通常有限無限ハ相隔離スルモノト思フ

モ是只想像ノ方法異ナルノミ、宗教ノ想像ト自由ノ思想ト結合スレハ有限トナリ、之ニ反シテ宗教想像ト智力ノ道理ト一致スレハ無限性トナル、故ニ共ニ宗教ノ感情ヨリ起ルモノニシテ孰ヲ正トシ孰ヲ非トスル能ハス、是ヲ論争スルハ宗教上肝要ノコトニアラス。

氏ノ宗教説ハ近世初年ノ秘密的ノ風アリ、又カント、フイヒテノ唯心論ニ近キ所アリ、其唯心ノ風アルハ宗教ハ外部ヨリ注入スル者ニアラス、人ノ高尙ナル心ノ上ニ人ト宇宙全軀トノ關係上ヨリ成立ス、即チ吾人ハ深ク心内ニ考フレハ吾人ハ絶對的ニ宇宙全軀ニ依頼シテ成立スルモノナリ、從來ノ學問ハ宗教ヲ理外ト看做シ吾人ノ心ニ宗教其者ト通スルヲ得ズトスル者多カリシカ是蓋シ外部ニ宗教ヲ説クヲ以テナリ、若シ宗教ハ内部ニアリテ其根據ハ我心内ニ在リトセハ心内ニ宗教ヲ知リ神ト通スルヲ得ヘシ、即チ吾人ハ自知反省ニヨリテ宗教ヲ顯ハステ得、此自知反省ニヨリテ宗教心ヲ湧出シ之ヲ言語ニ顯ハシテ他人ニ傳フルトキハ世間ノ宗教ヲ生スルナリト。此説タル既ニ多少神秘教ノ説ク所ナレトモ氏ノ説ハ却テ唯心論ニ近シ、是神秘教ハ理外トシテ道理ノ外ニ捨テタルモノヲ氏ハ之ヲ拾ヒテ學術的



ニ説明シタルヲ以テナリ、レッシング以後多ク哲學ヲ基礎トシテ宗教ヲ講シタリシ  
 カシユライエルマーヘルハ宗教ヲ獨立セル者トシ、學術ト其基礎ヲ異ニスルヲ説  
 キ而カモ之ヲ學術的ニ講究セリ、是レ氏ノ長所ト云フヘシ。  
 然レトモ氏ノ説ハ論理上ノ缺點ナシト云フヘカラス又不明瞭ノ點モ尠ナラス、  
 今其缺點ヲ擧クンハ氏ハ初ニ知見ト感情トノ二ヲ基本トシテ宗教ヲ説明シ、次ニ  
 ハ感情一方ヲ以テ説明セリ、若シ感情一邊ヲ以テ説明セハ是既ニ僻論タルハ論ヲ  
 俟タス、又知見ト感情トノ説ニ由ルモ氏ハ此二者ノ關係ヲ明示セス、元來知見ハ世  
 界上ノ觀察ニシテ感情トハ別作用ノ者ナリ、勿論氏ノ所謂知見ハ宗教的知見ナ  
 トモ、知見ハ一般ニ有限ノ者ニシテ吾人ノ有限性感覺上ニ感見スヘキ者ナリ、然ル  
 ニ宇宙ハ有限以上ノ者ナリ、然ラハ有限以内ノ知見ニシテ有限以上ノ者ヲ知り得  
 ヘキ理ナシ、故ニ若シ此知見ト感情トヲ以テ説カハ知見ト感情トハ如何ニシテ一  
 致スルヲ得ルカ未タ明ナラス、氏ハ感情ハ宇宙全體ヲ感スルモノト云フモ知見ノ  
 説明ナシ、是レ氏ノ荒唐學派ニ影響ヲ受ケタリト云フ所以ナリ、又感情一邊ニ於テ  
 説クモ許スヘカラス、宗教ハ感情ノ上ニ成立スト云フモ感情ノミニテ宗教ノ成立

スルニハアラス、又總ノ感情悉ク宗教ナルニアラス、凡ソ感情ハ人心ノ一作用ナ  
 ハ感情一方ヲ説カハ是レ僻論ナリ、氏ハ宗教ハ智ト意、即チ形而上學ト道德學トニ  
 離レテ成立スト云ヒタレモ、宗教ハ單ニ感情ノミナラス多少智力意志ニモ關係ス  
 ルモノナリ、若シ情ノミニテ成立ストセハ情ハ受動的作用ナレハ感情一邊ヨリ成  
 立スル宗教モ從テ受動的宗教ト云ハサルヘカラス、若シ宗教ハ受動的ニシテ道德ハ  
 行爲舉動ニ關スルモノトセハ宗教ト道德トハ全ク別ナリト云ハサルヘカラス、然  
 レトモ實際ニハ宗教道德相關係シ宗教ハ行爲ニモ關係スル者ナリ、フヒテ嘗テ曰  
 ヘラク健全ナル信仰ハ沈靜的ニアラス活動的ナリト、若シ情一方ノ宗教ナレハ宗  
 教ハ沈靜ニ陥ラサルヘカラス、真正ノ宗教ハ決シテ然ラサル者ナリ、然レトモ氏カ  
 宗教ハ感情ニ屬スト云フモノ多少道理ナキニアラス、情ハ外部ニ向テ活動セス只  
 外部ノ刺戟ニ應シテ之ヲ受込ムノミ、宗教ハ絶對的ナル宇宙ヲ感スル者ナレハ吾  
 人ハ之ヲ感受スルノミ、故ニ宗教ハ主觀的ナリ、然レトモ宗教ハ單ニ感受スルノミ  
 ニアラスシテ又客觀上ノ作用ヲ爲ス、故ニ真正ノ宗教ハ主客兩觀上ニ成立スル者  
 ナリ、然ルニ氏ハ眞不眞ノ理ハ宗教ニ適用スヘキニアラス宗教ハ總テ眞ナリ、只吾

人ノ推理思想ノ上ニ涉ルトキ真不真ヲ生スト論シタレトモ此論亦情一方ノ僻論ナリ、若シ情一方ニシテ真ノ宗教トスルカ、又情感上ノ者ハ總テ確實トスルカ、然ラハ野蠻人ニ於ケル恐怖的ノ感情ノミテ以テ成立セル宗教モ亦真正ナリト許サ、ルヘカラス、天下豈ニ此ノ如キ非理ヲ容レンヤ、宗教ノ真不真ハ必ス道理上並ニ客觀上ノ事實ニ照サ、ルヘカラス、又之ヲ局外ヨリ觀察スレハ宗教ノ智力思想ヲ籍ラサルヘカラサルハ明瞭ナリ、若シ假リニ宗教上感情ハ真ニシテ智力ハ不真ナリトセンカ、然ラハ情感上謬妄ノ想像生スルモ何ヲ以テ其誤謬ヲ指摘スルヲ得ルカ、又孰ヲ眞實トシ孰ヲ不確實トスルカ、思フニ之ヲ判斷スル者ハ道理ヲ措テ他ニ求ムヘカラス、凡ソ世上ニ在ル夥多ノ宗教ハ皆自己ノ宗旨ヲ以テ最上ト信スル者ナリ、若シ情感ヨリ發スルモノハ悉ク真ナリトセハ何レノ宗教モ皆真トセサルヘカラス、然レトモ眞理ハ唯一アルノミトシテ考フルモハ感情上ノ者ヲ以テ盡ク確實ト斷定スルヲ得ス、氏ハ又曰ク總ノ宗教的的感情眞ナルノミナラス總ノ眞ノ感情ハ皆宗教的ナリト、若シ此言ヲ推シ論極セハ氏カ宗教ハ一宗獨立ノ範圍ヲ有スト云ヒシトモ亦成立スルヲ能ハスシテ宗教ハ實ニ漠然タルモノトナルヘシ、何トナレ

ハ感情ハ廣クシテ單ニ一部分ノ宗教ニノミ關スルモノニアラス、且ツ感情ハ始終變化アル者ナレハ一定不變トスルヲ得ス、又感情ハ智力意志ト關係スルモノナレハ其中ニ宗教ハ一定ノ範圍ヲ定ムルヲ得サレハナリ、此ノ如ク氏ノ説ハ情感一方ノ僻論タルヲ免レンス、是レ氏ノ論ノ世間ヨリ攻撃ヲ受クルノ點ナリ、然ルニ之ヲ辯護スルモノハ是レ氏ノ宗教論一部ニ限ルモノニシテ後ニ氏ハ感情ハ智識ト結合スルモノト論シタリト云ヘリ、此説ヲ見ルニ智力ト意志トハ本ト其性質ヲ異ニシテ互ニ相抗爭スルモノナリ、而シテ之ヲ結合スルモノハ智力ニアラス又意志ニアラスシテ感情ナリ、元來智ト意トノ媒介トナリテ之ヲ結合スルモノニニアリ、一ハ主觀上吾人ノ心内ニ存スル感情ニシテ一ハ客觀上宇宙ノ上ニ於ケル神ナリ而シテ此客觀上ノ結合即チ神ハ吾人ノ智力ノ上ニモ又意志上ニモ存セスシテ吾人心内ノ感情上ニ通スルモノナリ、故ニ智意ヲ結合スルモノハ情ニシテ其情ハ吾心内ニ通スル神ノ現レナリト、而シテ氏ハ終ニ斷案ヲ下シテ曰ク感情ハ吾人内部ノ神ナリ、吾人ハ神ヲ求ムルニ外ニアリテハ宇宙全體ニシテ内ニアリテハ感情ナリ、故ニ宗教ハ感情ナリト、此説ハカント哲學ニ於テ感情ヲ智ト意トノ結合トシテ説キタ

ル影響ナリ、然レトモ此說ハ誤レリト云ハサルヘカラス、何トナレハ智情意ハ心ノ區別ニシテ同等同權ノ者ナリ、且ツ智情意ハ共ニ現象ニシテ本體ニアラス、然ルニ氏ハフイヒテノ我ノ如ク情ヲ以テ本體ノ如ク看做シ、智モ意モ神ト關係セス只情ノミ神靈ナリトセリ。是レ此說ノ偏見タル所以ナリ。又氏ハ感情中ニ神ノ含マル、ト云ヘトモ、感情ハ斯ク高等純良ノ者ノミニ非ス、下等ノ者モアリ、是亦氏ノ僻論ナリ、然レトモ此點ハ氏カ或ル著書中ニ其僻說ニ陷ランコト恐レ、宗教感情ハ絶對的依憑ノ情ナリ、之ニ對シテ普通ノ感情ハ相對的依憑ノ情ナリ、而シテ絶對的依憑ハ宇宙ノ一部分タル我ニシテ宇宙<sup>全</sup>ニ依憑スル情ナリ、即チ吾人ノ心ニ有スル絶對的依憑ニ依テ此世界ノ有限ノ範圍ヲ超エテ神其者ノ體ヲ感知スルヲ得、是レ吾人ノ意識ノ上ニ位スル最上高等ノ自知ナリ、換言スレハ吾人ノ意識中ニ世界万有ノ有限ヲ感スル意識ト世界万有ノ全體即チ神ヲ感スル意識トノ二アリ、此世界ノ意識ト神ノ意識トカ或場合ニハ結合スルヲ得、此結合ノ難易ニ應シテ宗教的生活ノ苦樂(成佛不成佛)ノ分ルト云フコト論セリ。此解釋ハ宗教ハ感情ノ上ニ成立スト云フ考ヨリ起ルモノニシテ情ハ受動的依憑性ノ者ナリ、然ルニ此點ヨリ見レハ宗

教ハ依憑性ニ限ラス、其中ニ多小活動ノ意ヲ含ム、又我方ニシテ依憑性ノモノナルコトヲ知ルヲ得ハ身既ニ活動ノ意ナリト云ハサルヘララス、今宗教ハ絶對的依憑ト云カ其中ニハ自由ノ意味ヲ含ムモノト云フヘシ、換言スレハ相對性依憑ノ範圍ヲ脱シテ絶對性ノ範圍ニ入りテ自由ヲ得ルモノナリ、然ラハ是決シテ感情ニアラス、然ルニ氏ノ之ヲ感情ノミトシタルハ僻論ナリ。以上ノ所論ヲ概括スルニ、氏ノ說ハ感情ニ偏スル弊アレトモ、又一方ヨリ見レハ一種ノ卓見トスヘキモノアリ、第一從來ノ宗教ハ經典儀式ノ上ニ成立セシカ、氏ハ之ニ對シテ宗教ハ吾人ノ生命ナリトシ吾人ノ心内ニアル感情其者カ宗教ニシテ此感情ハ智力意志ノ中心ナリト說キシハ卓見ナリ、第二宗教ヲ學術的ニ說クモノハ宗教ヲ思想推理ノ上ヨリ論セシモ氏ハ宗教ハ推理思想ノ外ニアリテ一層高尚ノ者ナルコト示シ宗教ヲ一種獨立ノ基礎ノ上ニ成立ストセシハ是亦卓見ナリ、然レトモ其弊タル情一方ニ偏セシニアリ、恰モカントノ道理一方ヲ取リテ之ヲ充タス材料ヲ捨タルカ如ク、氏ハ主觀的ノ情一方ヲ取リテ客觀上ノ道理ヲ忘レタリ、此點ヨリ見レハ兩氏ノ論各異ナレトモ共ニ抽象的虛形ノ唯心論ニ陷リタリト云フヘ

シ、故ニ若シカントニ感覺上ノ材料ヲ與ヘシユライエルマーヘルニ客觀上ノ材料ヲ與ヘハ二者共ニ完全ナルベシ。又シユライエルマーヘルハスピノザニ據リタル所少ナカラス、氏ノ所謂宇宙ハ無限絕對ノ躰ニシテスピノザノ本質ト同シ考ナリ、若シ其本質ニ自由ノ性質ヲ加ヘテ考フルトキハ即テシユライエルマーヘルノ神ナリ、又氏ハ神ニ一種格段ノ人間性アリトスルハ宇宙ニ自由ノ思想ヲ加フルトキ此考ヲ生スルモノニシテ神ハ自由ニ世界ヲ作り自由ニ之ヲ支配スルモノトシテ想スルキニ人間性ノ神トナルナリ故ニ宇宙モ神モ同一ナリ、既ニ宇宙ハ神ノ躰ナレハ神ト世界トハ相離レタルモノニアラス、唯吾人ノ思想上神トシテ考フルト世界トシテ考フルトノ相異アルノミ、之ヲ單一ノ點ヨリ見レハ神トナリ衆多ノ點ヨリ見レハ世界トナル、故ニ神モ世界モ宇宙ノ上ニ名クタルモノニシテ神ノ外ニ世界ナク世界ノ外ニ神ナシ、又神ハ此世界ヲ開發セシ力ヨリハ餘分ノ力ヲ以テ此世界ノ規律ニ反對シ得ヘキモノニアラス、故ニ今日世界ノ規律ハ神ノ自由ニ變更スルヲ得サルモノナリト此點ハスピノザニ一致スル所ナリ、然レトモスピノザハ万有ノ本質ヲ神トシテ万有神教ヲ唱ヘシカ、氏ハ宇宙全體ノ上ニテ一部分々々ノ結合シ

テ一體トナル點ニ於テ神トセリ、此點ハスピノザヨリ寧ロシエリングニ近シト云フヘシシエリングノ說ハ主客兩觀ノ分ル、以前ニ二者ノ一ナリシ點アリ、此點ヨリ分レテ一ハ主觀上ニ心トナリ一ハ客觀上ニ物トナル、而シテ此物心ト反對ノ性ヲ有スレハ其根本ハ絕對ノ一ナリトス、即チ物心万境ノ一致シテ宇宙全體ニ單一ノ有様ヲナセルモノ神ナリトスルハ此說ト一致スル所ナリ、元來吾人ハ物心相對ノ上ニ活動スルモノニシテ相對ヲ超エテ活動スルヲ得ス、即チ絕對ノ境界ハ吾人智識ノ關スル所ニアラス、然レトモ智識ハ絕對ヨリ生スルナリ、又神ハ單一ニシテ世界ハ雜多ナリ、而シテ單一ノ躰ヲ充タス者ハ雜多ノ世界ナリ、換言スレハ吾人ノ神ナル考ハ總ノ智識ノ虛形ニシニシテ世界ハ之ヲ充塞スル材料ナリ、故ニ神ハ智識ノ如何ナル有様ナルニ拘ハラズ其虛形ヲ充實スルハ世界ノ思想ナリ、サレハ神ハ最上抽象的ノ虛形ニシテ吾人智識ノ關セサル所、物心万境ノ一致ハ吾人智識外即チ超理的ニ存スル者ナリ、即チ積極的ニアラスシテ消極的ノ位置ニアリ、是レシユライエルマーヘルノ神ハ智力上ニ考フルヲ得ス情感上ニ存スト云フ所以ナリ、氏カ宗教ハ感情ニアリトノ考ハ終始其說ヲ支配シ智力意カト結合スルヲ得サリシ

モ亦此點ニ出テタルモノナリ、然レトモ吾人ノ知識思想ハ氏ノ云フ如キ狹隘ノ者ニアラスシテ不可知的ト雖モ多少知ルヲ得ルナリ、且ツ氏カ物心万境一致ノ點ニアリト云ヒシモ是レ氏カ智力ノ作用ニ由ルニアラスシテ何ゾヤ是レ氏ノ說ニ撞着アル所ナリ

### 第十段 理想學派

#### 第三 シュリング氏哲學

カント氏以後獨逸哲學ノ潮勢ハ唯心論ノ一方ニ流レ世界萬有ヲ以テ意識上ノ現象ナリト云フ說明ヲ與ヘタリ。始メカントハ現象ヲ以テ物心二者ノ上ニ成立ツモノトシ、物心二者ノ本躰ハ隔歷シテ一致セサルモノトセリ、是レカント哲學ノ缺點ナリ。若シ物心二元論ニヨリテ二者ノ調和ヲサントセハ其幾分心ニ屬シ其幾分物ニ屬スルヤ明ナラズ、是ニ於テ其調和ヲ說明セントスルモノ或ハ主觀的ヨリ或ハ客觀的ヨリ試ミシガフイヒテニ至リ絕對的主我論ヲ提出シ物心万境ハ我ノ所造ナリトセリ。シュリングハ之ニ反對シ物心二者ハ本來隔歷シタルモノニアラス二者共ニ同一ノ躰ヨリ現ハレタルモノニシテ内部外部共ニ相關係スルモノナリ、サレ

ハ心性ハ之ヲ不可見万有ト云フヘク万有ハ可見心性ト云フヘシ、即チ同一本躰上ヨリ二者ヲ開發セルモノナレハ本躰ニ至レハ一ナリト、是レ氏カ立ツル所ノ哲學ノ原理ニシテ之ヲ説明スルカ氏ノ哲學組織ナリ。今其宗教論ニ入ルニ先タチ其學說一斑ヲ叙述スベシ。

シュリング氏 (Friedrich Wilhelm Joseph Schelling) ハ千七百二十五年一月廿七日ウルクンボルグ州レナンボルグニ生ル。弱年ノ頃ヨリ神童ト稱セラレ、十六歳ニシテチュールピンゲン大學ニ入りカント哲學ヲ攻究シヘーゲルト友誼上ノ關係ヲ有セリ、在學中氏ハ一ノ論文ヲ草シ千七百九十二年之ヲ世ニ公ニシ、其翌年亦一論文ヲ發行シテ知名ノ士トナル。大學卒業後一時ライプツヒニ移リ貴族ノ師傅トナリ、後エナニ行キフイヒテニ從ヒ兼テ其助手トナリ、フイヒテエナヲ去ルノ後代リテ其職ヲ繼グ。此時ニ至ルマデハ氏ハ全クフイヒテノ說ヲ取リシガ、爾來其說ヲ一變シ自家ノ獨見ヲ以テ哲學ノ基礎ヲ築キ一雜誌ヲ發行セリ、千八百〇七年ミューニヒニ移リヤコヒノ死後其學校長トナリ、千八百四十年柏林ニ轉シ千八百五十四年八月二十日逝去ス。

シエリノグ氏ガ一生ノ著書ヲ集メタル哲學全書ハ千八百六十一年發行セリ、其中十卷ハ前時ノ著述ニテ四卷ハ後時ノ著述ナリ。氏カ一代ノ哲學論ハ完結セル一組織ヲナスニアラズ、氏ハ其一代ニ五タビ其說ヲ變セリ、然レトモ其間歴史的順序ヲ追ウテ其說ヲ發達セリ。今其說ノ基ツク所ヲ考フルニ氏ハプラトイ新プラトイ、ブルノイ、ポイメ、スピノザ、ライブニツ、カント、フイヒテ等ノ說ヲ結合シタル者ノ如シ。氏カ著書中尤モ著名ナルモノヲ學クレハ万有哲學、世界精靈論、超理哲學、哲學及ヒ宗教論、鬼神哲學、天啓哲學等ナリ。今其說ヲ陳フルニ就テハシユウエグライ氏哲學史ノ分類ニ從ヒ之ヲ五段ニ分チテ講スベシ。

(第一期) シエリノグ氏ノフイヒテヲ繼述シタルハ本ト師弟ノ關係ヨリ出テタルモノニシテ最初ニハ「我」ト云フニ就テ論シタル一文アリ。曰ク吾人知識最後ノ基礎ハ我アリテ起ルモノナルカ故ニ哲學中ノ最モ真正ナルモノハ唯心論ヲ以テ成立セサルヘカラス、而シテ若シ吾人ノ知識ニシテ眞實ヲ有セハ思想ト實在トハ同一ナラサルヘカラスト。フイヒテハ此論文ヲ稱シテ自身ノ主我的哲學ノ補注ニ過キサレモノナリト云ヘリ、然レモ此中ニハフイヒテト原理ヲ異ニスル所ヲ胚胎シ、又物心一

致ノ點アルヲ指示セリ。

氏ハ又一論文ヲ刊シカント學派ガ遂ニ其唯心論ヲ去リテ獨斷的ニ傾キタルヲ排撃セリ、爾後氏ハ專ラ万有ノ哲理ヲ講究スルヲ力メ遂ニ絕對ヨリ万有ノ開發スルヲ考ヘ万有哲學及世界的精靈論を出したり、是ニ於テ乎氏ハフイヒテニ反對セラル一種獨立ノ起點ヲ取レリ。フイヒテハ物心ヲ結合スルニ物心二元中心ヲ以テ調和ヲ説キシガ、シエリノグハ非物非心ナル絕對ヲ以テ結合セントセリ、其所謂絕對ナル者ハ獨立シテ物心ノ媒介ヲナスニ非ス物心ノ互ニ一致スル點ニ名ルナリ、之ヲ物ヨリ研究スルハ心ニ入り、心ヨリ研究スルハ物ニ入ル、其最終ハ必ス一致スル點ナカルヘカラス、是レ氏カ万有ヲ可見心性トシ心ヲ不可見万有トセシ所以ナリ、抑モ物ニハ引カト拒カトノ二アリテ此二力ノ結合ヨリ成ルト同シク心ニモ有限力ト無限力トノ二アリテ心ヲ組織スルモノナリ、而シテ引カハ物ヲ團結セントシ拒力ハ之ヲ離散セントシ二者ノ作用ニヨリテ以テ此世界ヲ成立ス、之ト同シク又心ニ於テモ無限力ハ我ト他トノ相對ヲ超越シテ無限絕對ノ體ニ同皈スルノ傾アリ、又或ル場合ニ於テハ外界ト我トノ制限ヲ立ツ、是レ有限力ノ然ラシムル所ナリ、此ノ

如ク物心ノ作用ハ互ニ相對スト雖モ此ニ作用ノ何レニカ一致スルモノナルハ恰モ磁石ノ兩端ノ一端ヨリ一端ニ至ルニハ必ス其中心ヲ通過セサルヲ得サルガ如ク物心二者ノ間ニハ必ス一致スル點アリ、此點ヲ稱シテ均同點ト曰フ、是レ氏カ一代哲學ノ骨髓ニシテ氏カ第一期ニ於テフイヒテヲ繼述スル中ニ自ラ現レタリ、而シテ此均同點ヨリ物心万境ノ開發シテ有機組織ヲナスハ恰モ草木ノ漸々發達シテ一大有機組織ヲナスガ如ク天地間ノ一大理ハ確乎不易ナリ、且ツ此一致ノ體ハ抽象的ナラス具體的ニシテ其上ニ宇宙万有ノ組織ヲナスナリ、サレハ此一致點ハ物心何レヨリスルモ體達スルヲ得ヘシト。

シエリソグ氏ハ精靈論ニ於テ世界ハ自動的ノ活體ナリト云ヒシガ此點ハフイヒテ氏ノ說ニ於テハ許スヘカラサル所ナリ、フイヒテハ我ヨリ非我ヲ造出スト云フヲ以テ心ハ自ラ開發スルヲ得ルモ物ハ然ラス、然ルニシエリソグハ物心二者共ニ活動的ノモノナリトシ反對ノ地位ニ立テリ、是レ氏カ万有哲學超理哲學ノ二部ヲ組織スルニ至リシ所以ナリ、サレハ第一期ノ哲學モ既ニ獨立ノ基礎ヲ合有セリト云フモ取テ不可ナルヲナシ。

(第二期) 第二期ノ哲學ハ万有哲會ト超理哲學トノ二部ヨリ成ル、此二學ハシエリソグ氏哲學ノ骨髓ナリ、而シテ此万有哲學ト超理哲學トノ區別ハ氏ノ說ニ依ルニ凡ノ智識學問ハ物心ノ一致スル點ヨリ起ルモノニシテ、此物心一致點ヨリ客觀性一方ヲ取レハ万有トナリ主觀性一方ヲ取レハ心トナル、是ニ於テ二ノ學問ヲ生シ一ハ万有ヲ基礎ニシテ如何ニシテ心カ万有ニ一致スルカ又一ハ心ヲ基礎トシテ万有ハ如何ニシテ心ニ一致スルカヲ研究ス、即チ前者ハ万有哲學ニシテ後者ハ超理哲學ナリ、故ニ超理哲學ヨリ云ヘハ心性主トナリテ万有ニ及ホスヲ以テ思想實在ノ二者中實在ヲシテ思想ニ附屬セシメ、万有哲學ヨリ云ヘハ思想ヲシテ實在ニ附屬セシム、サレハ万有心性何レヨリスルモ其所謂一致均同點ニ達スルモノニシテ此點ニ絶對的均一ノ名ヲ與フルナリ。

シエリソグ氏ノ万有哲學ハ普通ノ万有哲學ノ如ク万有ヲ死物的器械性ノ者トシテ論スルニアラス、之ニ自由自發自動ノ勢力ヲ與ヘ活物的ノ者ト看做シタルナリ、サレハ氏ノ万有哲學ニ於テハ万有ノ活物タルヲ説明スルニアリ、今其說ヲ見ルニ前ニ万有ハ可見心性ナリト云ヒタル如ク万有ハ活動ヲ有セル有機體ニシテ其内部

ニ合メル勢力ノ開發スルモノナリ、且ツ其開發ヤ一定ノ規則計畫ニヨルモノナリ、抑モ此世界ハ物心ノ二者ヨリ成立シ二者ノ上ニ互ニ關係スルモノナリ而シテ其關係ヲ探究スルニ物ヨリスルモ心ヨリスルモ絶對ニ違シ、心ノ内部ニ含ム力ハ物質ニ作用ヲ及ホシ物質ノ規則ハ心ノ上ニ認識スルヲ得、是ニ於テ物心ノ二者ハ互ニ關係シ一致スルヲ知ル、之ヲ説明スルカ万有哲學ナリ、曰ク吾人ハ直接ノ經驗ヨリ他ニ万有ヲ探究スル起點ヲ有セス、此直接ノ經驗ニヨリテ外界ヲ探究スルトキハ世界ハ一大活動體ニシテ其内部ニハ吾人ノ心ノ如キ勢力アリテ其勢力一定ノ順序規律ヲ逐テ發達スルナリ、即チ万有ノ根本ハ先天性ノモノニシテ絶對唯一ノ點ヨリ起ルヲ知ルト。又氏ハ万有哲學ノ原理ヲ論シテ万有ニハ成形力ト成形物トアリテ其交互作用ヨリ開發ス、換言スレハ此世界ノ開發ハ生産力ト生産物トノ間ノ作用ニシテ此二ノ關係ニヨリテ内部ニアル無限ノ力ヲ外部ニ發現シ以テ無量ノ形狀ヲ呈ス、然ラハ万有ハ二元並存ノ上ニ成立スルモノト云フベシト論シ二元ヲ以テ万有ノ原理トセリ。又氏ハ始ニ物界心界ヲ分チ次ニ其兩界ニモ亦二元アリトシ、此二元ハ何ノ處ニモ普遍ニシテ且ツ一致スル點アリトス、其點ハ即チ絶對ノ

體ナリ、而シテ此絶對ノ體ヨリ開發シテ万有成立ス、故ニ万有ハ絶對一致ノ力ヲ外部ニ發現シタルモノナリ、換言スレハ万有ハ絶對性唯一性ノ作用ヲ開現スル機關ニシテ其機關タル唯一絶對ノ力ノ中ニ前ヨリ豫定セラル、モノナリ、然ルニ絶對ノ體ハ無限ノ力ヲ有セントモ此力ノ一旦開發スルトキハ有限トナル、是レ蓋シ万有ノ上ニハ一時ニ無限ヲ造出スルヲ得スシテ止ムヲ得ス有限ノ状態ヲ以テ顯出スルナリ、然レトモ其間ニハ無限性ヲ示スモノナリ、例セハ茲ニ無限ノ水アリ、之ヲ流出セシメントスルニハ唯一二ノ孔口ヨリセサルヘカラス、然ラハ其内部ハ無限ナルモ流出スルハ有限ナリ、然レトモ無限ノ時間連續スルキハ無限性ヲ開示スルヲ得ルナリ。

シエリンク氏ハ万有哲學ヲ三段ニ分キ第一段ニハ有機體ニ就テ論シ第二段ニハ無機體ニ就テ論シ第三段ニハ有機無機ノ關係ニ就テ論ス、第一段有機體ニ就テノ論ニヨルニ万有ハ絶對的ニ無限ノ生産力ヲ有スルカ故ニ此力ノ開發スルトキハ無限無量ノ物ヲ産出ス、然ルニ今有機體ヲ見ルニ有限ナルカ如キ觀アルハ蓋モ万有其者ノ固有セル規則トシテ生産開發スルニ當リ一方ニ産出スルアレハ他方ニ之



カ反動ヲ生シ爲ニ無限性モ無限性トシテ開發スルヲ得ス必ス反對性ヲ生シテ有  
限トナルナリ、万有若シ開發スルヲナクハ反對ノ制限ナクシテ一元ニ止マルヘキ  
モ苟モ開發スルヲアル以上ハ必ス二元タラサルヘカラス、然レモ其有限ハ無限ニ  
連續シテ無限ノ時間ヲ經テ開發ス故ニ万有ノ本性ハ無限ニシテ其生産力モ無限  
ナリ、然レトモ生産物ヨリ云ヘハ有限ナリ、何トナレハ生産物ハ万有ノ本體ニアラ  
スシテ現象ナレハナリ、サレハ尙ホ無限ノ連續ヲ以テ無限ノ生産力ト満足セシメ  
ントス、換言スレハ万有ハ無限ノ生産力ヲ有スレトモ空間的ニハ無限ノ生産物ヲ  
現スル能ハスシテ時間的ニ無限ノ生産力ヲ現スルナリ、斯クシテ万有ノ發現ニ二  
個ノ相反セル性質ヲ生ス、即チ生産性ト制限性トナリ、換言スレハ正動ト反動トナ  
リ一方ニ無限ノ生産ヲサントスレハ一方ニ之ヲ制限スル性ヲ生ス、而シテ此二性  
同時ニ相現シテ互ニ相争フ、故ニ生産性無制限ナレハ制限性亦無限ナリ、要スルニ  
二性無限ニ相抗争スル者ニシテ是即チ万有自然ノ性質ナリ、故ニ吾人カ天地間ニ  
目撃スル所ノ現象ハ悉ク二元互ニ制限スルニアラズヤ、此理ニ由リテ考フレハ有  
機體ハ無限ノ生産力ヲ内部ニ包有スルニモ拘ラス無限ノ生産力ヲ現ハサスシテ

一個々々ノ有限物ヲ産出スルハ當然ノト云フベシ、而シテ之ヲ繼續スル爲ニ有  
機界ニ男女兩性ノ別アリテ其性互ニ制限セラレ各一個格段ノ成立ヲナス、サレハ  
之ヨリ生スルモノモ亦一個格段ナラサルヘカラス、斯ノ如クニシテ以テ相繼續ス  
ルナリ、モトヨリ一個々々ノ開發ハ万有其者ノ性質ニアラサレトモ制限上實ニ止  
ムヲ得サルヲタリ、サレハ一個格段ナル子々孫々ノ生産ハ万有ノ本性カ無限ニ開  
發スル階級ニ過キズ、故ニ之ヲ實際ニ徵スルモ、親ハ子ヲ生スル爲ニ生セジモノナ  
レハ子ヲ生シ終ニハ自然ハ其親ヲ亡ホス方ニ傾クナリト。  
氏ハ有機性ノ作用ヲ分チテ三トス、成形力興奮力感知力是ナリ、成形力ハ植物之ヲ  
有シ、興奮力ハ動物之ヲ有シ、感知力ハ人間之ヲ有ス、此ノ如ク三作用アリテ以テ有  
機體ヲ現ハスナリ、其中感知力最モ多ク發達シテ他ノ二力ヲ支配スルモノハ有機  
體中ノ最高等ニシテ人類ナルモノ即チ是ナリ、次ニ興奮力尤モ發達シ他ノ二力ノ  
之ニ支配セラル、モノハ動物ナリ、而シテ成形力中心ノ作用トナリ他ノ二力ヲ殆  
ト有セサルモノハ植物ナリ。

第二段無機體ニ就テノ論ヲ見ルニ無機體ハ有機體ニ反對ナレトモ無機體モ亦有

機體ト同一ノ階級ヲ有ス、有機體ハ己ヨリ産出スルカアルモ無機體ハ之ヲ有セス、  
 有機體ハ自己一個ノ體ヲ有シ自己ノ種屬ヲ繼續スルカアルモ無機體ハ自己一個  
 ノ體アルノミニシテ自己ノ種屬ヲ繼續スルカナシ、要スルニ無機物ハ物質ノ集合  
 ニシテ其結合ハ外部ノ結合ナリ、即チ重力ノ原因ニヨリテ一ノ塊體ヲ形成スル  
 ミ、而シテ無機體モ有機體ノ如ク三段ニ分ル、即チ第一化學的作用、第二電氣作用、第  
 三磁氣作用是ナリ。

第三段有機無機ノ關係ニ就テハ此二者ノ區別ハ万有ヲ活動體ト看做サ、ルヨリ  
 起ルモノニシテ、若シ万有ヲ活動體ト看做トキハ二者併立セスシテ一致スルモノ  
 ナリ、即チ此有機無機ノ二元ヲ超エテ其根元ニ遡レハ二元相一致スルモノアリ、故  
 ニ無機ノ現出スルニモ一層高等ノカアリテ之ヨリ開發スルモノニシテ有機無機  
 共ニ力ノ開發ナリ、然ラハ此有機無機ノ外ニ第三ノ者アリテ二者ヲ連絡セシメサ  
 ルヘカラス、其究竟ノ原因ニ至リテ考フレハ世界万有ニハ共有ノ精神アリ、其精神  
 ハ有無二機共ニ之ヲ有シ無機ニアリテハ變化ヲ生シ有機ニアリテハ諸活動諸生  
 産ノ原因トナル、由是觀之此世界ハ一種ノ活動組織ヲ有スルモノト云フベシ、此ノ

如キ區別アリテ有機無機各互ニ制限スルカヲ生シ二元並行對立シテ止ムルナシ、  
 然レモ其大本ハ二元一致スルモノナリ、此點ハ支那ノ太極ヨリ陰陽ノ兩儀ヲ生シ  
 此兩儀何ノ處ニモ存ストスル説ニ甚タ近似セルヲ見ル、以上ハシエリング氏万有  
 哲學ノ大略ナリ。

シエリング氏第二期ノ哲學ハ二部ニ分レ其一ハ万有即チ客觀ノ邊ヨリ絕對ヲ説  
 キ一ハ超理即チ主觀ヨリ之ヲ證明ス、前者ハ即チ萬有哲學ニシテ既ニ講述セリ、後  
 者ハ之ヨリ述ヘントスル所ノ超理哲學ナリ、凡ソ哲學ニハ許多ノ種類アレントモ皆  
 一物ノ連絡シテ順次ニ發達スルモノナリ、故ニ哲學ハ意識ノ發達シタル歴史ト看  
 做スモ可ナリ、換言スレハ哲學ハ内部知識ノ力ノ外部ニ發表シテ組織セラレタル  
 モノナリ、而シテ之ヲ萬有ノ上ニ説クト超理ノ上ニ論スルノ二方アリ、若シ萬有ト  
 超理トヲ特別ニ論スルトキハ物心二者ノ互ニ連結一致スルヲ示スハ甚タ困難  
 ナレントモ此二者ヲ照合シ各他ノ缺點ヲ補ヘハ二者ノ一致所謂絕對ノ存在ヲ知ル  
 可取テ難キニアラズ。

氏ハ超理哲學ヲ三段ニ分テテ説明セリ、第一ハ理論的哲學、第二ハ實際的哲學、第三

ハ技術的哲學ナリ、第一理論的哲學ハ外界ヲ本トシテ心ニ對シテ活動スル所以ヲ論シ、第二實際的哲學ハ心ヲ本トシテ外界ニ對シテ活動スル所以ヲ説明スルナリ、而シテ第三技術的哲學ハ第一第二ノ外界内界ノ反對スルモノヲ結合スル所以ヲ説明スルナリ、此分類ハ蓋シカントノ純理實理斷定ノ三段ニ分類セシ所ニ本ツクモノナリ、今第一ノ理論的ト第二ノ實際的トヲ比スルニ物心相隔歷シテ二者ノ間ニ一致ノ點アルヲ發見スルヲ難シ之ヲ一致スルハ更ニ高尙ノ點ヨリ説明ヲ與ヘサルヘカラス、是即チ第三ノ技術的ノ司トル所ナリ、此物心二者ノ一致スルヲハ既ニ述ベタル如シ二者ノ共ニ保有セル勢力アリテ此勢力我心内ニ發シテハ意識作用トナリ、外界ニ發シテハ無意識作用トナル、此ノ如ク二者相異ナントモ二者共ニ勢力ヲ有スルハ其一致スル所ナリ、之ヲ説明スルハ、第三ノ技術的ナリ。

第一理論的哲學ハ自知自覺ヲ本トシテ自知自覺ヨリ感覺直覺虛想絕對的虛想ト發達スルヲテ説ク、即チ外界ノ啓示ニ於テ感覺シ直覺シ之ヲ抽象シ概括シテ遂ニ絕對的虛想ニ達ス、既ニ絕對的虛想ニ達スルハ絕對的意志ヲ生ス、既ニ絕對的意志トナレハ茲ニ實際的哲學ヲ生スルナリ。

第二實際的哲學ハ之ヲ第一ノ理論的ニ比スルニ第一ニハ外界カ能動ノ位置ニア  
ルモ第二ニハ内界カ能動トナリテ外界カ所動ノ位置ニ立ツ、且ツ此第二ニ於テハ  
我其者有意識トナリ能動作用トナリ生産的トナリ以テ外界ニ其活動ヲ及ボス、此  
點ハ氏カフイヒテヨリ得來リタル所ナリ、然レモ其結局ニ至リテハフイヒテノ説  
ニ異ナリテ更ニ一層高遠ナル處ニ其原因アルヲ發見セリ、フイヒテハ道德上主ト  
シテ世界ノ秩序規律ヲ説キタレトモ尙其上ニ此等ノ根原タルヘキモノアルヲ知  
ラス、道德ハ主觀以上作用ノ結果ニシテ此作用ニ反セハ一切ノ秩序ハ成立スルヲ  
得ス、故ニ道德ノ根原ハ主客兩觀ヲ結合セル高等ノ者即チ絕對ナリ、フイヒテハ之  
ヲ我ト稱セシモシエリ、フイヒテハ我ハ未タ相對ノ位置ニアルヲ免レズト云ヒ我ノ範  
圍ヲ離レタル絕對ヲ立テタリ、氏ノ説ニ曰ク道理的動物即チ人ナルモノハ心内ノ  
一致作用ヲ無限ニ向テ開發スルモノニシテ其發達ノ順序ヲ示スモノヲ歴史ト云  
フ、而シテ其開發ニ三段ノ時期アリ、第一ハ自由ナク意識ナク眞ノ盲運盲目時代ト  
シテ開發スレ野蠻時代ノ有様ナリ、第二ハ盲目ヨリ發達シテ規律ヲ生ス此時代  
ニハ國家ノ結合アリ、第三ハ全ク神ノ世界トナリテ現出ス、今日ハ未タ此時代ニ達

宗

教

哲

學

セザレトモ將來必ス到ルヘキ時アリト此ノ如ク三段ニ分チテ歴史ヲ陳ベタリ、茲ニ謂フ歴史トハ世間ノ所謂歴史トハ全ク相異ナルモノニシテ絕對性其者カ發達スル順序ニ就テ之ヲ分チ今日ハ尙ホ物心並行スルモ後ニハ必ス一致スル一點アルヲ云フ。

第三技術的哲學ハ主客一致物心契合ヲ目的トス、實際的ニ於テハ無限ノ時間ニ向テ物心ノ一致ヲ求ムントモ其一致ノ現ル、トナキノミナラス却テ物心相離ル、ノ傾向アリ、然ラハ此一致ハ何レノ處ニカ發見セサルヘカラス、是即チ第三ノ目的トスル所ナリ、凡ソ物心トハ其外部ニ於テハ並立スルモ内部ニ於テハ一致スルモノナリ、即チ物ハ無意識ニシテ器械的盲目作用ニシテ心ハ有意識ニシテ計畫アル作用ナリ、然レモ其内部ニハ一致スル所アリ、然ラハ其一致ハ吾人ノ之ヲ知ルヲ得ル方法アリヤト云フニ之ヲ知ルハ技術ナリ、技術ノ直覺ハ内外一致ヲ感スルモノナリ、之ヲ要スルニ万有ヨリ生スルモノハ無意識ニシテ技術ハ有意識ナリ、有意識無意識ノ相反ハ歷史上之ヲ一致セシムルヲ難ク歷史上ニハ益々相反對シテ進ムモノナリ、然レモ萬有ハ無意識的ニ一致シ技術ハ有意識ニ之ヲ一致ス、サレバ物心

宗

教

哲

學

ノ相反ハ其内部ニ於テ一致スルモ外部ニ於テハ隱藏シテ現ハレサルナリ、然ルニ技術ハ之ヲ開發シテ一致調和セシムルモノナレハ技術ハ物心二元ノ絕對ト云フモ又絕對性ノ啓示ト云フモ可ナルベシ哲學ヨリ高等ニ位ストモ云フヲ得ヘシ、是ニ於テ知識ノ虛形カ外面ノ體質ヲ得テ物心一致ノ有様ヲ示ス、換言スレハ技術ハ絕對及ヒ知識ヲシテ其實ヲ充塞セシメ萬有ヲシテ有意識タラシムルモノナリ、以上ハ超理哲學ノ大要ナリ。

上來陳述セシ所ヲ考フルニシエクングハ始ニフイヒテノ說ヲ奉セシモ後ニハ全ク其見解ヲ異ニセリ、フイヒテハ絕對的の我ヲ物心ノ根原トセシモシエリングハ我ハ相對ノ上ニアルモノトシ更ニ其上ニ一致ノ點ヲ發見シ、又フイヒテハ絕對的の我中ニ我非我ヲ生ストスルカ故ニ勿論二元一致ナントモシエリングハ技術ニ於テ一致スルヲ說キ、又フイヒテハ神ハ道德上ノ規律ニ存ストセシモシエリングハ技術的直覺ノ上ニアリトセリ、(絕對ヲ神トシ之ヲ技術上ニ感スルカ故ナリ)要スルニ兩氏ノ異ナル點ハフイヒテハ主觀的理想論ニシテシエリングハ之ニ對スレハ客觀的理想論ナリ、然ントモ其實ハ絕對的理想論ナリ、シエリングカ物心ノ二者其

外面ニハ相反セルモ内部ニ於テ一致スト云フハ嘗テスピノザノ説ケル所ニ近シ、  
是ニ於テ<sup>レ</sup>エリソクハフ<sup>イ</sup>ヒテノ範圍ヲ脱シテスピノザニ近クニ至レリ而シテ  
氏カスピノザニ本ツキテ物心一躰ヲ説クニ至リシハ第三期ノ哲學ナリ。

(第三期) 此時期ニハフ<sup>イ</sup>ヒテト全ク分離シスピノザニ依リタルモノニシテ千八  
百〇三年頃ノ著書ハ此主義ヲ示スモノナリ、此時期ノ始ニハシエリソク氏自家ノ  
哲學組織ヲ述ヘ道理<sup>イ</sup>其者ノ定義ヲ下セリ、道理トハ絶對的道理ノ道理ニシテ絶對  
的ニハ主客無關係ノ道理ナリ、凡ソ何人ト雖モ道理ヲ有セサルモノナシ、此一般ノ  
人類ガ思考スル道理ヲ抽象シテ深奥ナル點ニ到レハ始メ心ニ屬セシモノモ主觀  
性ヲ失フニ至ル、然レトモ轉シテ客觀性トナルニアラス、主觀ヲ失ヘハ同時ニ客觀  
ヲモ失ヒ以テ超絶<sup>イ</sup>ノ上ニ達スルナリ、此點ヲ名ケテ絶對ト云フ、是所謂道理ノ起點  
ナルモノナリ、而シテ凡ノ哲學ハ此ノ道理ヲ起點トシ之ヨリ進ムモノナリ、サレハ  
道理以外ニ一理一物ナク一切ノ事物ハ皆絶對的道理ノ中ニアリト云フベシ、然ル  
ニ或ハ之ニ反對ヲ唱フルモノアリ、此ノ如キ人ハ平常自己以外ニ事物ノ存スルヲ  
見テ絶對道理中ニ一切ノ事物ノ存スルヲ知ラス是レ隱見ノ甚シキモノト云ハサ  
ルヲ得ス、此道理ハ論理ノ均同法即チ甲ハ甲ナリト云フヲ以テ其規律トス、何トナ  
レハ一切皆道理ナリトスレハ甲モ道理、乙モ道理何レヲ取ルモ道理ニシテ道理ハ  
即絶對的道理ナレハナリ、此絶對的道理ヨリ物心ノ二者派生スルナリ、既ニ物心二  
者ハ共ニ一均同中ヨリ派生セシモノナレハ何ソ二者ノ間ニ性理上ノ相異アル理  
アラザヤ一物ハ何ノ時、何ノ處ニ至ルモノナリ、然ラハ何故ニ一均同中ヨリ物心  
ノ二ヲ生セシカ、曰ク是亦性質上ノ相異ニアラス分量上ノ相異ノミ、サレハ物心ノ  
關係或ルハ客觀ノ主トナリテ活動スルコトアリ、或ルハ主觀ノ主トナリテ作用  
スルコトアリ、然レトモ此差別ハ絶對其者ニアラス畢竟絶對ノ外表タルニ過キス、即  
チ有限上ニ存スルモノニシテ絶對上ニハ分量ノ差タモアルコトナシ、元來有限ニハ  
實躰ナク眞ノ實躰唯、均同ノ躰アルノミ、故ニ有限上ニハ輕重ノ別アルモ之ヲ合ス  
レハ其相和ハ常ニ同一ナリ、絶對的均一ハ絶對的同一ナリ、換言スレハ物心相和ノ  
宇宙ノ躰ハ絶對的均一ノ躰ナリ、サレハ絶對上ニハ個々ノ別躰ナキハ明ニシテ其  
合一ノ外ニ物アト思フハ其實アルニアラスシテ一個ノ妄見ナリ、是レ蓋シ全躰  
ト個躰トヲ別ニ觀ルカ故ナリ、例ヘハ絶對的均一ハ一直線ナリ其兩端ニ輕重ノ別

ルヲ得ス、此道理ハ論理ノ均同法即チ甲ハ甲ナリト云フヲ以テ其規律トス、何トナ  
レハ一切皆道理ナリトスレハ甲モ道理、乙モ道理何レヲ取ルモ道理ニシテ道理ハ  
即絶對的道理ナレハナリ、此絶對的道理ヨリ物心ノ二者派生スルナリ、既ニ物心二  
者ハ共ニ一均同中ヨリ派生セシモノナレハ何ソ二者ノ間ニ性理上ノ相異アル理  
アラザヤ一物ハ何ノ時、何ノ處ニ至ルモノナリ、然ラハ何故ニ一均同中ヨリ物心  
ノ二ヲ生セシカ、曰ク是亦性質上ノ相異ニアラス分量上ノ相異ノミ、サレハ物心ノ  
關係或ルハ客觀ノ主トナリテ活動スルコトアリ、或ルハ主觀ノ主トナリテ作用  
スルコトアリ、然レトモ此差別ハ絶對其者ニアラス畢竟絶對ノ外表タルニ過キス、即  
チ有限上ニ存スルモノニシテ絶對上ニハ分量ノ差タモアルコトナシ、元來有限ニハ  
實躰ナク眞ノ實躰唯、均同ノ躰アルノミ、故ニ有限上ニハ輕重ノ別アルモ之ヲ合ス  
レハ其相和ハ常ニ同一ナリ、絶對的均一ハ絶對的同一ナリ、換言スレハ物心相和ノ  
宇宙ノ躰ハ絶對的均一ノ躰ナリ、サレハ絶對上ニハ個々ノ別躰ナキハ明ニシテ其  
合一ノ外ニ物アト思フハ其實アルニアラスシテ一個ノ妄見ナリ、是レ蓋シ全躰  
ト個躰トヲ別ニ觀ルカ故ナリ、例ヘハ絶對的均一ハ一直線ナリ其兩端ニ輕重ノ別

ヲ生スルハ物心ノ關係ナリ、然レトモ其相和ハ常ニ絶對ノ躰ナリ、以上ハシエリン  
ク氏絶對論ニシテ此說ハスピノザノ說ニ似タル所アリ。

シエリンク氏ハ又物ニ三段ノ階級ヲ立テ第一重力第二光線第三有機機關トセリ、  
第一ハ外部ニ關係シ第二ハ内部ニ關係シ第三ハ第一第二ヲ結合シタルモノナリ、  
凡テカント以後ノ哲學者ハ三斷論法ノ性質ニヨリテ論究セシカシエリンクニ至  
リテ其考益々進ミタリ、氏ハ復タ物ノ中ニ有機性ト無機性トアルヲ云ヘリ氏ノ  
說ニヨルニ物ハ其實凡テ有機性ニシテ眞ノ無機性アルヲナシ、無機性ハ有機性ノ  
卵ニシテ之ヲ開發スルキハ有機ヲ生ス、地球ノ如キモ始ハ無機性ナリシモ漸々開  
發シテ草木トナリ動物トナリ、人類トナル故ニ其表面ハ有機無機ノ區別アルモ其  
内部ニハ先天的ニ有機性ノ存スルモノナリ、而シテ前ニ示セル物質三段ノ階級ハ  
開發ノ度ノ高低ニ從ヒテ次第シタルモノニシテ有機ハ其最モ階級ノ進メルモノ  
ナリ、サレハ外部ヨリ之ヲ見ルニ世界ノ始ハ總テ無機性ニシテ之ヨリ發達シテ有  
機性ヲ開發ス、而シテ其殘餘ハ即チ無機性ナリ、故ニ凡ノ物質ハ其内部ニハ有機無  
機ノ別ナク均一平等ニ活動勢力ヲ具アルモノナレトモ其外部ニハ無機ハ死物ノ

如キモ是レ唯眠息スルノミ、或時期ニ達スレハ一切有機性トナリテ内部ノ精神世  
界ヲ外部ニ現スルヲアルベシ。

氏ハ又心ニ於テモ三段ヲ分チ第一知識第二動作第三道理トセリ、知識ハ眞ヲ目的  
トシ、動作ハ善ヲ目的トシ、道理ハ美ヲ目的トス、而シテ又之ヲ形ト質トニ分チ知識  
ハ形中ニ質ヲ同化スルヲ、動作ハ質中ニ形ヲ同化スルヲ、道理ハ形質二者ヲ混和一  
致スルヲナリ、形中ニ質ヲ化スルハ理論ニシテ質中ニ形ヲ化スルハ實行ナリ、而シ  
テ形質相和ニテ一致スルハ美術ナリ、茲ニ道理ヲ美術ニ結合シタル所以ハ物心一  
致ノ點即チ絶對ハ道理ニヨリテ達スヘキモノニシテ此絶對ヲ直接ニ開示スルモ  
ノハ美術ナリト云フ考ナレハナリ、又氏ハ吾心ニ於テ絶對的一ノ點ヲ知り得ル手  
段ヲ考ヘ來リテ之ヲ知ルニハ分析法總合法若クハ數理論理ニヨリテ爲シ難シト  
シ、遂ニ直覺ヲ以テ之ヲ知ルノ起點トセリ、直覺ハ思想若クハ實在ノ一方ヲ感スル  
ニアラス、雙方平均シテ其一致ヲ感ス、故ニ吾人ハ絶對ヲ直覺セハ實在モ思想モ一  
致スヘシ、然レモ此直覺ハ普通ノ直覺ニ異ナリテ普通ニハ吾人ノ見ント欲スル時  
ニ其前ニ物ノ現在スルヲ感スルモ此直覺ハ思想ト外界ノ感覺トノ結合スルモノ

ニ過キス、今ノ所謂直覺ハ道理的直覺ニシテ物ノ實在ト心ノ思想ト相合シテ絶對一致ノ點ヲ感スルナリ、換言スレハ絶對ノ知識ト云フカ如シ、此ノ如クシエリング氏ハ論シテ其極一切ノ事物ハ絶對ノ中ニアリト云フニ至ル、是ニ於テスピノザノ論ニ一致ス、又シエリング氏ハ此道理ヲ解釋シテ宗教上ノ神トセシガ、コハ宗教論ノ部分ニ於テ講スベシ

(第四期) 第三期ニ於テ絶對ハ物心ニアラサルヲ説明セシガ其論結局ニ至リ心ノ方ニ傾キ絶對ヲ解スルニ觀念ヲ以テ其基礎トシ絶對ヲ定ムルハ觀念ニアリトス、即チ觀念ヲ以テ第一原理トシ第二ニハ觀念性ノ否定ニヨリテ實在性ノ成立ヲ説キ第三ニハ萬有其者ヲ論セリ、是ニ於テ第三期ノ説一變セリ、而シテ第四期ニ入り物心ノ平均ヲ失テ心ノ方ニ傾キ心ノ否定ニヨリテ物ノ生スルヲ論シ心ヲ以テ第一原理トセリ、此點ハスピノザヲ離レテ一種ノ原理ヲ立テタルモノニシテ一千八百四年以後ノ著書ハ即チ此第四期ナリ、其説ハ中世及ヒ近世ノ初年ニ起リシ神秘教或ハ中世ノ新プラトニ學派ノ形ヲ取リテ起リタルモノナリ、第三期ニハ絶對ハ物心ヲ結合シタルモノニシテ宇宙ハ絶對ト同一ノモノナリト云ヒ物心共ニ

絶對ノ現象ナリトセシカ第四期ニ至テハ宇宙ト絶對トヲ分チテ同一ト看做サズ此世界ハ感覺上ノ有限世界ニシテ絶對世界ハ眞實ナルモ有限事物ハ眞實ニアラス、有限事物ノ此ニ存スルハ絶對ヨリ退化シテ沈淪シタルモノナリ、而シテ人ノ此惡界ニアルハ神ノ罰ナリト、又氏ハ靈魂ノ輪廻轉生ヲ説キ吾人ハ善ヲ修ムレハ高等ニ進ミ若シ物界ニ執着セハ下等ニ沈ム換言セハ下等ニ沈ムハ我情ニヨリテ惡世界ヲ愛スルニヨルト、是レ全ク新プラトニ派ノ説ヨリ得タル所ナリ、氏ハ此道理ニ依リテ耶蘇教ヲ解釋セリ。

(第五期) 此時期ニハ新プラトニ派ノ説ヨリ更ニ一轉シテ近世ノ初年獨逸ニ起リシポイメニ本キテ一説ヲ立テタリ、即チ千八百九年以後ノ著書是ナリ、氏ノ説ハ始ヨリポイメニ似タル所アリテ絶對ヲ知ルハ直覺ニヨルト云ヒ、絶對ノ進化ハ絶對自個ノ躰ニ有スル力ヲ開發セルナリト云フ如キ、又其論理精密ナルモ其中ニ想像ノ元素ノ加ルハ皆兩氏ノ相似タル所ナリ、ポイメハ絶對其者ノ開發、此世界ヲ生シ進テ元ノ絶對ニ歸ス、其絶對ノ動ク間ニ物心善惡ノ關係ヲ生ス、元來善惡ナル者ハ絶對ノ躰ニナキ者ナレハ絶對ノ開發シ從テ其別ヲ生ス、換言スレハ絶對ノ純善

宗 教 哲 學

ニ達スルニハ惡ノ方便ナカル可ラス、然レモ其惡ハ絕對ノ目的ヲ達スルハ途ニハ消滅スベシ、而シテ其絕對ハ即チ神ニシテ神其者ノ力ヲ以テ進化シ神其者ニ復歸スルナリト云ヘリ、シエリングハ此ポイメノ考ニ由ルナリ、既ニ第三期ニ於テ氏ガスピノザニヨリテ萬有教ノ形ヲ取リタリシ當時ヤコビハシエリングノ說ノ萬有教ハタルヲ攻撃シシエリングハ自ラ其說ノ萬有教ニアラサルヲ辯護セリ、萬有教ハ神ハ世界ノ基礎ナリトスル說ニシテスピノザノ萬有ノ内部ニ神ノ存スト云フハ是ナリ、一神教ハ神ハ世界ノ原因ナリトスル說ニシテ原因ト云フトキハ神ハ世界以外ニアリテ此世界ヲ産出スルナリ、シエリングハ萬有教ト一神教トノ一致ヲ唱ヘシカ是レポイメノ說ニ近似スル一點ナリ、其一致說ニ曰ク神ハ自ラ自躰ヲ開發シテ此世界ヲ現ハス、而シテ其現ハシタル世界ハ不完全ニシテ有限ナリ、然レモ此不完全ハ完全ニ向テ進ムモノナリ、サレハ今日ノ不完全ハ即チ完全ニシテ完全ニ進ム途中ニ顯ル、現象ニ過キス、換言スルハ開發ノ順序トシテ一部分ニ不完全ヲ見ルノミ、若シ開發シ盡サハ完全ナル本來ノ神其者ニ達スベシト、此論ポイメニ近キノミナラス其結論ハヘーゲルニ一致セリ、氏ハ此道理ニヨリテ立テタル一ノ宗教說アレモ後ニ讓ル。

宗 教 哲 學

上來陳述セシ如クシエリング氏ハ一生ノ間屢々其說ヲ變更セシガ之ヲ大別セハ以上ノ五期ナリ、然レトモ其說論理發達ノ順序ヲ追ヒ前後全ク矛盾スルニアラス、其說ノ變遷ハ即チ論理ノ變遷ニシテ最初ニハフイヒテヲ繼キ最後ニハヘーゲルニ合スルニ至レリ、元來獨逸ノ哲學起原ハカント以前ニアリシモノ、ソノ尤モ盛ニ且ツ高尙ナリシハ實ニカント以後ニアリ、カントノ學說中今日ノ學者モ尙ホ遵奉スル所ノモノハ此ノ道德說就中義務說ナリ、フイヒテノ說中取ルヘキモノハ人權說即チ意志自由ヲ論シタルニアリ、シエリングハ美學ノ道理ヲシテ高尙靈妙ナラシメ且氏ハ論理力ニ長シ併セテ想像力ニ富ミ吾人ノ考へ及ハサル處ニ絕對ヲ建設セリ、次ニヘーゲルノ長所ハ論理學ニシテ理想ノ性質ヲ明ニシタルニアリ、カント以後ノ獨逸哲學ハ右ノ四大家ニテ大成セリト云フヘシ。

(宗教論) シエリング氏ノ宗教ニ關スル書ハ第三期ト第五期トニアリ、又第二期ノ歴史哲學モ多少宗教ニ關係スル所アリ、歴史哲學ニ於テハ時代ヲ三分シ其中第三ノ時代ハ神ノ天啓顯ハシテ全ク完全ナル神ノ世界トナルヲ説ケリ。



第三期ニ於テハ鬼神學ナル一書アリ、此書ニヨルニ鬼神學ハ哲學ノ詩學的形式ヲ取リタルモノナリト云ヘリ、其故ハシエリソク氏ノ考ニハ美術ハ最上高尙ナルモノニシテ哲學理學ハ詩學ノ幼稚ナル時代ニシテ人類ノ幼稚ナル時代ニ屬ス、此時代發達シテ詩學時代トナル、而シテ此時代ヲシテ詩學時代ニ至ラシムル所以ノモノハ鬼神學ナリト云ヘリ、斯ク氏ガ鬼神學ヲ尊崇セシハ蓋シ氏カ想像力ニ富ミ又絶妙ナル理想ヲ主トシタルニヨル、然レモ此點ハ氏ノ缺點ニシテ氏カ天性想像ニ富ミタルガ爲メ其講究ノ結果不知不識ニ想像一邊ニ傾キ荒唐學派ニ類スルニ至リシナリ。

又第三期中氏ノ耶蘇教ニ就テ論シタルモノアリ、其說ニヨルハ耶蘇教ハ世界精靈ノ漸次發達スルニ重要ナル階段ナリト、氏ハ前ニ歷史上世界ヲ三時代ニ分チシガ其最初ノ時代ハ完全ナル黄金世界ナリ、然ルニ此黄金世界ノ惡世界トナリシハ第二ノ時代ニシテ普通ノ歷史上無智盲目ノ時代ト云フハ是ナリ、第一時代ニハ彼此ノ差別ナク從テ無我無欲ナリシモ中途ニシテ盲目時代トナレリ、詳言セハ第一時代ハ自他ノ區別ヲ存セス人ト萬有トノ懸隔ナクシテ一致シ有限無限ノ反對性相

働カザリシガ中頃ヨリ人ト万有トノ間ニ分界ヲ生シ遂ニ真正純良ノ時ハ沈降シ無我無欲ノ世ハ去リテ有我有欲トナリ罪惡ヲ生スルニ至リシナリ、然レトモ是ヨリ後又黄金世界ニ達シ神ト一致スルニ至ルベシ、而シテ此最後ノ黄金世界トナルニ端緒ヲ開キタルモノハ耶蘇教ナリト云ヘリ。

又氏カ耶蘇教三位論ニ就テノ考ヲ述ヘンニ普通ニハ耶蘇ヲ以テ神子トナセトモ氏ハ有限ヲ以テ無限ノ子トシ決シテ耶蘇一人ヲ以テ神子ト限ルニアラス唯基督ハ最上ノ啓示ヲ得、有限中尤モ高尙ナルモノナリト云ヘリ、又神ノ託宣ハ一時一人ニ限ルモノニアラス、何トナンハ神ハ時間以外ニアリテ時間ヲ支配スルモノナンハ其託宣モ亦無限ナラサルベカラス、而シテ基督ハ其託宣ノ最モ高等ナルモノヲ傳ヘタルナリ、サレハ基督ノ出現シテヨリ以來神ノ啓示世ニ傳ルコトヲ得タリト、然レモ氏ハ耶蘇教ノミナラス印度ノ宗教ト雖モ多少託宣ヲ蒙ルモノナリ、又希臘ノプラトーン如キモ託宣ヲ蒙リタル豫言者ナリト云ヘリ、又普通ニハ聖書ヲ以テ無上ノ寶典ト尊崇スルモ氏ハ之ニ反シテ聖書ハ此ノ如キ價值アルモノニアラス却テ耶蘇教ノ精神ヲ害スルモノナリ、耶蘇教ハ活宗教ナンモ聖書ハ過去ノ記録ニ過

宗 教 哲 學

キス故ニ歴史トシテハ尊崇スルモ可ナリト雖モ之ニヨリテ真正ノ信仰ヲ得ルイ  
 能ハズト、又氏ハ宗教ノ將來ヲ論シ耶蘇教ノ世ニ宣布スルニ從テ儀式制度等種々  
 ノ弊害伴ヒ起ルモ最後ニハ真正ノ宗教世界トナルニ至ルヘシト云ヘリ。  
 第四期ニ至リ哲學及ヒ宗教ト云フ書ヲ著ハセリ、其中ニ曰ク神ノ躰ヨリ有限世界  
 ノ出テタルハ精靈ノ沈降シタルナリ、故ニ精靈ハ一方ニ於テ有限ニ結合スルモ一  
 方ニハ無限ニ連絡ス、是ヲ以テ吾人ノ心中ニ深ク考フルトキハ精靈ノ連絡ニヨリ  
 テ絕對其者ニ達スルヲ得ト。又物心ニ就テ心ハ自由ヲ性トシ物ハ必然ヲ性トス、又  
 物ハ實在ヲ有シ心ハ思想ヲ有ス、道德上ノ快樂ハ物ヨリ得、徳ハ自由ヨリ生ス、今世  
 界ノ精靈ハ絕對性ノ自由ニ達スルヲ得ヘキ者ニシテ此點ニ到レハ絕對其者ト合  
 シ徳モ快樂モ同一トナル、即チ此同一點ヨリ凡テノ事物ハ分出スル者ナリ、サレハ  
 有限上ニ物心互ニ反スルハ此一致點ヨリ派出シタルナリ、然ルニ此ニ一問題アリ、  
 即チ有限ハ如何ニシテ無限ヨリ生セシカト云フト是ナリ、氏ノ之ニ對スル説明ハ  
 スビノザノ本質論ニフ、ヒテノ主我論ヲ加ヘタルモノニシテ又ポイメノ説ニ近キ  
 所アリ、シエリノク氏ハ一千八百九十年人性自由論ヲ著ハシ其中ニ無限ヨリ有限ノ開

宗 教 哲 學

發スルヲ論セリ、其説ポイメニ據ル所多ク又支那ノ太極説ニ似タリ、今其説ノ大  
 要ヲ陳フレバ万有ノ起ルニハ其根原アリ此根源ハ神ノ躰ニ具スルモノニシテ之  
 ヲ太極トス此太極ヨリ開發シテ世界ヲ現ハス、太極ノ前ハ無極ニシテ此無極ハ無  
 形無香無聲ナルヲ状態ニツイテ名ク、而シテ此無極モ太極モ其躰一ニシテ太極ハ  
 万有ノ根元タル、方ニツイテ名クルノミ、故ニ無極ハ物心相反ノ原因ニアラス又其  
 ノ中ニ物心ノ性質ヲ有セス物心ニハ全ク無關係ノ者ナリ、然レトモ太極ハ其中ヨ  
 リ万有ヲ生スル所以ノ理ヲ推ストキハ万有ノ顯出スル基礎ヲ太極ト云ヒ其大本  
 ヲ無極ト云フナリ、然ルニ神ハモト絕對ノ者ナルニ如何ニシテ其中ニ太極ノ存ス  
 ルカト云フニ、氏ハ太極ヲ以テ直チニ神トハ云ハズ太極ハ万有性ノ者ナリ故ニ實  
 在性ナリ、既ニ實在性ナシハ神其者ト同一ト云フヲ得ス、然レトモ神ト相離ルヘカ  
 ラサル性質ナリ、又太極ニハ知覺或ハ意志ヲ有セス、是レ万有ノ根本タルハナリ、此  
 實在性ニ反シテ理想性ノモノアリ、是レ心ノ根本タルモノニシテ之ヨリ知覺意志  
 ヲ生ス、太極ハ知覺意志ヲ有セザレトモ之ヲ生スル傾向ヲ有ス、而シテ理想性ハ万  
 有性ノ開發ニ從テ生スルモノナリ、即チ太極ノ内部ニハ理想性ヲ有セントモ先ツ

始ニ万有性發達シ後ニ理想性發達スルナリ、故ニ地球モ其始ハ無機性ニシテ吾人々類モ始ハ肉躰ヨリ成ルハ万有性ノ先キニ生スルカ故ナリ、太極ハ盲目的ナルモ其躰ノ開發スル願望傾向ヲ有ス、然レモ意識アリテ爲スニアラザレバ之ヲ盲目ノ衝力ト云フ、而シテ此無知覺ノ本原ヨリ意識ヲ生ス、是ニ於テ從來無規律ニシテ渾沌タル不明了ノ有様モ内部ノ理想性ノ發達ニ隨伴シテ規律現ハレ知覺意志ヲ生ス、是レ蓋シ神ノ創造力ノ致ス所ナリト。

太極ハ不明瞭ナル盲目ノ原理ナリ、是ヨリ万有性開發スレハ万有性ト神ト相分ルニ至ル、而シテ此ノ如ク相分ル、ニ於テハ私意即チ個人性意志ヲ生シ、又之ト共ニ神ニ一致スル明瞭ナル理想性ノ原理知識ヲ生ス即チ公意ヲ生スルナリ、私意ハ肉躰ニ關スル情欲單純ノ願望ニシテ公意ハ外界ノ刺戟ヨリ生ズルモノニアラズシテ却テ情欲ヲ制御スルモノナリ、要スルニ私意ハ万有性ヨリ起リ公意ハ理想性ヨリ起ルモノナリ、公意私意ハ人間中ニアリテモ絶對中ニアル如ク始ハ合同シタルモノナリ、第一段ヨリ云ヘハ天地未分ノ時ハ公私ノ別ナク人間ノ始ニモ亦公私ノ別ナシ、然ラハ神人相同シキヤト云フニ神ハ公私ノ分ツヘカラサル一致ノ點ニ於テ

一致ヲナシ人ハ公私ノ分ルヘキ有様ニ於テ一致ス、故ニ神人ハ公意私意ニ於テ相違アリ、然ルニ人間ハ發達スルニ從テ公意私意相分レ其間ニ競争ヲ生スルヲ以テ神ハ天啓ヲ以テ之ヲ調和セシメ且ツ神人相交通セシム、此公意私意ニヨリテ善惡ノ差別ヲ生ス、即チ私意カ公意ヲ支配シテ公意カ私意ニ服従スルキハ惡ニシテ公意カ私意ヲ支配シテ私意カ公意ニ服従スルキハ善ナリ、人間ハ此公意私意ノ孰レヲ取ルモ人間ノ自由ナリ、サレハ人間ノ歴史ナル者ハ全ク此公意私意ノ戰爭ニ過キス、然ルニ此爭ヲ調和スルモノハ耶蘇教ナリ、耶蘇教ニテハ耶蘇最上ノ天啓ヲ得テ公意私意ヲ調和セシカ尙ホ未タ世界全躰ノ人ヲシテ調和セシメタルニアラス、是ヲ以テ耶蘇教ハ世界全躰ノ人類ノ公意私意ヲ調和スルヲ目的トスルナリ、而シテ將來必ス全ク之ヲ調和シ終リ公意カ全勝ヲ占ムルノ時アルヘシ、若シ此時ニ達セハ現在世界ハ實ニ黃金世界ニ達シタルナリ、更ニ言テ換ヘテ之ヲ云ヘハ神ニ明暗ノ二點アリ、暗點ヨリ万有性生シ明點ヨリ知覺ヲ生ス、私意ハ闇點ヨリ出ツルモノニシテ惡ノ原因ナリ、公意ハ明點ヨリ出テ、善ノ原因タリ、然ルニ暗點ハ先キニ生シ明點ハ後ニ生スルモノナリ、世界ニハ人間ニ於テ明點尤モ發達シ人間中ニハ

耶蘇尤モ明瞭ナルモノナリ、然レトモ最後ニハ此世界全躰一點ノ闇黒ナリ赫々タル絶對ノ光明ヲ以テ充タサル、ニ至ルベシ。

シエリソグ氏ノ説ハ空想ニシテ且ツ詩人的ノ考アリ、人ノ最初ニ公私分レサリシ説ハ支那ノ説ニ類似セリ、太古ハ黄金世界ニシテ又最終ニ黄金世界トナル、即チ太古ハ無我無欲ナレバ公意私意ノ區別ナカリシモ少シク進歩スレハ物我ノ別ヲ生シ隨テ利己心ヲ生シ惡ノ生スルニ至ル、而シテ私意公意ト争ヒテ其結局神ノ天啓顯ハレ以テ公意全勝ヲ占ムルニ至ル、要スルニ初ハ無知覺ノ一致ニシテ、終ハ有知覺ノ一致ナリ。

シエリソグ氏ノ説ニハ反對者甚タ多カリシカ就中氏ヲ攻撃セシハヤコビナリ、ヤコビハ有神教ト自然教トヲ區別シ有神教ハ信仰ヲ本トシ自然教ハ知識ヲ本トス、有神教ハ神ヲ世界ノ原因トシ自然教ハ神ヲ世界ノ基礎トスト云ヘリ此ノ如クヤコビハ此二者全ク相反スルモノトシシエリソグハ道理上之ヲ結合シ得ヘキモノト信シ二者相反ヲ唱フル論ヲ以テ不當トナセリ、蓋シ氏ノ論此反對論ニヨリテ一層詳細ヲ得タリ。

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

シエリソグ氏宗教哲學中最後ニ出テシ者ハ鬼神及ヒ天啓哲學ナリ、此書ニヨリテ氏ノ所謂神ノ思想ハ愈明瞭トナレリ、然レトモ是レ前論ヲ敷衍シタルモノナリ、此書ニ於テハ神ノ思想ヲ三段ニ分テリ、第一ハ神ノ將ニ爲サントスル力ノ潛勢力トシテ存スル有様即チ内ニ萌シテ未タ外ニ發セサル者、之ヲ表ハスニ<sup>-A</sup>(即マイナス<sup>A</sup>)ノ記號ヲ以テス、而シテ此有様ハ消極的ノ位置ニアル者ニシテ之ヲ非有ト稱ス、即チ前ノ無極是ナリ、第二ハ潛勢力ノ顯勢力トナレル有様ニシテ之ヲ表ハスニ<sup>+</sup>(即プラス<sup>A</sup>)ノ記號ヲ以テス、即チ積極的ニシテ有ナリ、是ハ前ノ太極ニシテ万有ノ根原ヲ云フ、今第一ノ非有<sup>-A</sup>ト第二ノ有<sup>+</sup>トヲ比スルニ第一ハ純然タル主觀ノ有様ニシテ神ノ内部ニ合ムカナリ、第二ハ存立ニ關係シタル有様ナレハ客觀ナリ、換言スレハ第一ハ内部ノ勢力、第二ハ外部ノ存立ナリ、此ノ如ク二者互ニ反對スルモノナレトモ此二合シテ第三ノ者即チ<sup>±</sup>(即プラスマイナス<sup>A</sup>)ヲ生スルナリ、故ニ第三ハ潛勢力顯勢力共存シ内外界結合シ主觀客觀一致ス、而シテ神ハ此三ノ合シテ一躰トナリタル者ナリ、然レモ此三ヲ合シタル者直ニ神ナルニアラス、神ハ此三ノ以上ニアルモノナリ、換言スレハ神ハ三ニアラスシテ一ナリ、然レモ其一ハ三ノ

宗 教 哲 學

原因ナリ、故ニ神ハ三以上ニ存シテ其性質作用トシテ三ヲ現ハスナリ、而シテ宇宙  
 万有ノ開發ハ此順序ニ由ル者ニシテ始ニ非有、次ニ有即チ世界トナリ最後ニ<sup>±A</sup>即  
 チ内外一致トナリテ顯ハル、ナリ、非有ト有トノ現ハル、間ハ互ニ主トナリ客ト  
 ナリ相抗排スルモ<sup>±A</sup>ノ一致シタル有様ニ至テハ神ノ精神ノ現ハシタル時ニシテ  
 二者ノ抗爭漸ク息ミ遂ニハ此世界全ク變シテ神ノ世界トナル之ヲ研究スル上ニ  
 於テ哲學ト宗教トハ自ラ其性質ヲ異ニス、哲學ハ思想一方ヨリ開發ノ道理ノミテ  
 研究スルカ故ニ消極的ナリ、而シテ思想上ヨリ云ヘハ神ハ理想性ナレ<sup>±A</sup>又之ニ反  
 スル實在性アリ、思想ト實在トハ一致スル<sup>±A</sup>能ハスシテ其間ニ意力加ハリ以テ其  
 作用ヲ實在ノ上ニ及ホス、而シテ宗教ハ此意力ノ關係ニシテ神ノ實在ヲ目的トス  
 ルモノナリ、之ヲ要スルニ純然タル思想一邊ヨリ説クモノハ哲學ニシテ之ヲ實在  
 ニ當嵌ムルトキハ宗教トナルナリ、故ニ宗教ハ積極的ナリ、由此見之宗教哲學ハ即  
 チ積極的哲學ニシテ道理一方ノ哲學ハ消極的哲學ナリ、然ラハ哲學ノ最終目的ハ  
 宗教ニアリト云フモ敢テ不可ナル<sup>±A</sup>ナシ、此宗教哲學ヲ分チテ鬼神哲學天啓哲學  
 トスルナリ。

宗 教 哲 學

シエリソグ氏ハ宗教ヲ論スルニ思想道理ノ一邊ニ偏セス客觀上ノ事實ヲ根據ト  
 シテ論究セリ、故ニ宗教哲學ヲ立ツルニモ先ツ歷史上發達ノ順序ニ由シテ、今其歷  
 史ヲ見ルニ最初ニ起リシ者ハ鬼神哲學(Mythology)ニシテ希臘ノ鬼神說ノ如キ是ナ  
 リ、而シテ之ヨリ進ミテ天啓哲學ニ移ルモノニシテ天啓哲學ハ即チ耶穌教ナリ、最  
 初ノ宗教時代即チ鬼神哲學ハ人間ノ發達ニ於テ最初ノ盲目無意識ノ時代ナリ、此  
 時代ハ人ト万有ト一致シ後チ漸ク物我ノ區別ヲ生スルモ尙ホ其道理不明ナリ、然  
 ルニ社會發達シテ今日ニ至レハ物我全ク區別ヲ生シテ其間ニ爭ヲ起ス然レ<sup>±A</sup>又  
 其中ニ一致アルヲ見ル、凡ソ物ハ必然性ニシテ心ハ自由性ナリ、宗教ノ最初ハ万有  
 ノ支配ヲ受ク未タ自由ヲ得ル能ハサルモ之ヨリ進歩スルトキハ内部ノ自由的精  
 神性ヲ十分ニ發達スルヲ得、而シテ此自由性ノ宗教ヲ天啓教ト名クト思フニ氏カ  
 此説アル所以ハ<sup>±A</sup>宗教ハ道理一邊ニ於テ論究スル<sup>±A</sup>ナク歷史上ニ考究セサルヘカ  
 ラスト云フ意見ナルヲ以テナリ、是ニ於テ宗教哲學ノ上ニ於テ天啓教ノミナラス  
 鬼神教ヲモ説キタルナリ、抑モ宗教ヲ説クニハ通常空想的超理教ト非歴史的道理  
 教トノ二種アリ、此二ハ共ニ各一方ニ偏スルノ弊アレントモ、氏ノ説ハ二者ノ上ニ位

(一八六)

スル者ニシテ歴史上ノ事實ト道理教ノ理論トヲ結合シ鬼神說ヲモ捨ツルナシ、サレハ氏ノ說ヨリ見レハ世間通常ノ宗教論ハ神ト万有ト隔歴シ其神ハ吾人以外ニ獨立シ理外ノ理所謂超理ノ躰トスルナリ、然レモ是レ其實超理ニアラスシテ非理ナリ、若シ果シテ其說ノ如クナラシメバ二者ノ關係全ク絶エ万有ヨリ神ヲ捨テタル無神論ニ陥ラサルヘカラス、又之ト同シク道理一邊ニヨリテ歴史ヲ取ラサルモ亦非理ナリ、歴史ハ宗教上最モ必要ノモノニシテ若シ歴史ヲ捨テナハ是レ既ニ宗教ノ一要素ヲ缺キタルナリ、宗教ノ成立耶蘇ノ事蹟ハ歴史ヲ除テ果シテ知ルヲ得ヘキカ、耶蘇教ハ學說ニアラス即チ主觀的ニアラスシテ客觀的ナリ、今日アル所ノ學說ハ皆耶蘇ノ爲シタル事實ノ解釋トシテ起リタルモノナリ、故ニ耶蘇教ヲ道理一邊ヨリ說クハ誤謬ナリト云ハサルヲ得ス、ト此點ハ氏ノ宗教哲學上尤モ肝要ナル點ニシテ宗教ハ思想上ノミナラス經驗上ニ成立スルモノナリトシタルハ實ニ卓論ト謂フベシ、サレバ氏ノ說ハ思想ニ偏セス實在ニ傾カスシテ所謂折中說ナリ、而シテ此說ハヘーゲルノ據ル所ナリ、然レモヘーゲルハ尙ホ論理ヲ本トシテ思想ニ偏シシエリ、ソノハ鬼神說ノ如キ不道理ノ宗教ヲ哲學ニ入レントスル傾アリ、

是レ二氏ノ一長一短ナリ。

歴史ノ宗教ニ最モ必要ナルヲハ既ニ述ヘタリ、今歴史上ヨリ宗教ヲ探究スルニ初ハ多神(鬼神)ノ時代ニシテ之ヨリ一神ノ啓示ヲ見ル、蓋シ多神一神ノ歴史上前後アルハ思想發達上自然ニ此區別ヲ生シタルナリ、從來ノ哲學者ハ多神教ヲ野蠻時代ノ宗教トシテ擯斥スト雖モ古ヨリ次第シテ今ニ至リ野蠻ヨリ發達シテ開明ニ進ミタルモノナレハ鬼神ト一神トノ間ニハ亦必ス連絡ナルベカラス、且ツ多神ハ古代ノ人民ガ空想上偶然考ヘ出セルモノナリヤト云フニ決シ然ラス、吾人ノ心ニ固有セル神ノ思想ノ發達シテ或ル程度ニ至レハ多神ノ考ヲ生スルナリ、而シテ其思想ハ本ト神カ自由意志ヲ以テ世界万物ヲ創造シタル大勢力ト同一ナル原因ヨリ起リ人間自然ノ性トシテ本來有スルモノナリ、然ラハ此思想ハ偶然ニ人間ノ想像シ出シタルニアラス又自己ノ心ニ工夫シテ發見シタルニモアラス全ク人心自然ノ性質トシテ自己ノ意志ヲ待タスシテ發達シタルナリ、故ニ其思想ノ起原ハ一個人ノ意志ヲ離レ獨立シテ存スルモノト看做サ、ルヘカラス、然ラハ天地万物ノ現象並ニ古代鬼神ノ思想ハ本トヨリ同一ノ關係ヲ有スルモノナリ、何トナレハ万

宗

教

哲

學

有ハ神ヨリ現ハレ鬼神ノ思想モ亦然ルモノニシテ即チ神其者ヨリ一方ニハ万有ヲ生シ一方ニハ多神ノ思想ヲ出セルモノナレハナリ、古代ノ人民カ風雨震雷ノ現象ヲ觀テハ宇宙ノ大勢力ヲ感シ現象ノ一物々々ニ神ノ想像ヲ爲シ以テ多神ノ思想ヲ生シタルナリ、然ラハ假令其表面ハ多神ナルモ裏面ハ一神ナリ、經驗學者ハ多神ハ野蠻人ノ空想ニレテ自己ノ意志ヲ以テ造出セシモノナリト云フト雖モ是レ自然ノ開發ヨリ現ハレタルモノニシテ其實ハ一神ナリト、蓋シ多神ノ思想ハ人間一般ノ思想中ニ遍在スルモノニシテ其道理ハ吾人カ無意識並意志中ニ固有スルモノナリ、(假令無意識ナルモ人間固有ノ一思想ナリ)此思想万有ニ觸ル、トハ忽ニ多神ノ現レテ爲スト、以上ハシエリング氏多神說ノ説明ナリ、此多神一變シテ一神トナル是ヲ説明スルハ天啓哲學ナリ。

一神ハ多神ノ内部ニ包含セル眞理ニシテ之ヲ開發シテ一神トナル、其一神ノ現ハル、ハ多神漸ク下リテ暗黒トナリ殆ト神ノ光滅セントスルニ當リ再ヒ宗教ノ新紀元ヲ起シ遂ニ一神ノ思想現ル、ナリ、是レ天啓哲學ニ於テ論スル所ナリ、抑モ多神ハ無意識ニシテ宇宙万有自然ノ道理ニヨリテ現出スルモノ一神ハ神ノ自由意志

宗

教

哲

學

ヲ直チニ我心内ニ開發スルガ故ニ明瞭ニ吾人ノ意識上ニ浮フヲ得、是レ鬼神ト天啓トノ異ナル點ナリ、而シテ自由意志ノ上ニ開現スル宗教ハ高尙ノ宗教ニシテ耶蘇教是ナリ、即チ耶蘇教ハ一神ノ道理ヲ開示スルモノナリト、從來ノ學者ハ一神以前ノ多神ハ妄說トシテ排斥セシモ氏ハ耶蘇以前ノ古代ノ多神モ又東洋ノ多神モ皆一神以前ノ有様ニシテ只其發達ノ程度ヲ異ニスルノミト云ヘリ、故ニ氏ノ說ハ今日ノ比較宗教學ノ起ル原因ト云フヘキナリ、而シテ此考ハ氏カ歷史上ノ事實ヲ觀察シテ得タル思想ナリ。

次ニ天啓哲學ニ於テ耶蘇教ヲ論スル點他ト相異ナレリ、他ノ學者ノ唱フル所ハ單ニ道理ヲ本トシテ研究スルモ氏ハ歷史上ノ事實ヲ必要トスルヲ以テ耶蘇教ハ經典ノ上ニアラスシテ耶蘇其人ノ上ニ成立スルモノトセリ、而シテ氏ハ曰ク基督ハ此世界ニ人間一個ノ形骸ヲ取リテ現ハレタルモノナレハ假令其實ハ天神ノ分身ナリトスルモ既ニ神ヨリ獨立シテ人間ノ形骸ヲ取ル以上ハ天ニアル神父ト同一ニアラスト。

又耶蘇教ノ三位說ニ就テ氏ハ神ノ骸ハ唯一ノ者ニシテ三ニアラス、然レモ三位ハ

唯一ノ作用其中ニ貫通シテ存シ其開發スルニ三位ノ順序ヲ取ルノミ、即チ三位ハ本ト神ノ中ニ含マレシ者ニシテ之カ開發シテ世界ヲ爲スニ三段ノ順序ヲ取ル者ナリ、依テ此世界ヲ三段ニ分ツ、三段トハ第一前世紀第二現世紀第三後世紀ナリ、前世紀ハ神父ノ時代、現世紀ハ神子ノ時代、後世紀ハ神靈ノ時代ナリ、神父ノ時代トハ耶蘇以前ノ有様即チ希臘多神ノ時代等ヲ云フ此時代ニハ神ノ力宇宙万有ノ上ニ現ハレ吾人ハ万有ノ上ニ於テ神ヲ信ス、次ニ神子ノ時代ハ神自ラ一個ノ人間ノ形骸ヲ取リ此世界ニ出現シテ我人ニ啓示ス、更ニ一步ヲ進ムレハ神靈時代ナリ此時代ハ吾人ノ精神上ニ神ノ世界ヲ現シ此世界ノ上ニ精神世界ヲ開クナリ、之ヲ歴史上ニテ云ヘハ希臘ノ鬼神時代及ヒ舊約全書ノ時代ハ神子ノ出現スヘキ豫定アルモ未タ出現セサルヲ以テ此時代ヲ神父時代トス、次ニ新約全書ノ時代ハ神子時代ニシテ神子正ク一個ノ人間トナリテ現ハル、然レモ神子ノ突然現ハレタルニアラス神子ノ出現スル原因ハ既ニ神父時代ノ内部ニ包含シテ存スルナリ、サレハ古今ノ間其連絡アル者ニシテ他教ニモ亦天啓アリ、然レトモ他教ハ天啓ヲ内部ニ包含スルノミ之ヲ外部ニ現示スルモノハ耶蘇教ナリ、又耶蘇出現以後ノ神子時代中

ニ又三段アリ第一ペートル主義第二ポール主義第三ヨノン主義ニヨリテ教會ヲ組織スル時代ナリ、ペートルハ神父ノ使徒ポールハ神子ノ使徒ヨノンハ神靈ノ使徒ナリトス、第一ペートル主義ニヨリテ教會ヲ組織セシ時代ハ羅馬教ニシテペートルハ羅馬教ノ開祖ナリ、此主義ハ形式的規律的ニシテ宗教ヲ外形ニ立テテ以テ宗教ノ信仰ヲ固ムルナリ、勿論此主義ト雖モ耶蘇ノ天啓ヲ本トシ神人ノ一致ヲ示スモノナレトモ此主義ハ外部の盲目的不自由ノ一致ナリ、此主義ニ反對シテ内部ノ一致ヲ説クモノハ第二ポールノ主義ナリ、此主義ハ内部ノ思想上ニ於テ自由ニ信仰スルナリ、而シテ此主義ハ新教改革ノ時ニ起リ重ニ獨逸地方ニ行ハル、此ノ如ク此時代ニハ内部ノ一致ヲ主義トスレモ尙ホ未ダ十分ナラサル所アリ、何トナレバ此主義モ多少舊教ノ形式ヲ取ルヲ以テナリ、是ヲ以テ更ニ第三ノ改革ナルヘカラス、今日ハ未タ此改革時期ニ達セサントモ將來必ス到ルヘキ時アラシ、况ヤ此主義ハ既ニヨノンノ唱ヘタル所ナルヲヤ、若シ此時代ニ至レハ耶蘇教ハ國教公認教トシテ傳ハルニアラス廣ク人間教トナリテ行ハルヘシト論シタリ

以上カントヨリシエリノク迄ノ宗教哲學此ニ全ク終ヲ告ク此外ニヘーゲル、シ



ヨツベンハイウエル、ロツチエ、ハートマン等ノ諸大家アレモ本學年ハハイゲルノ一部分ノ講義ヲ以テ館内講義ヲ終結スルニ至リタレハ講義筆記ハシエリシク迄ヲ以テ限リトスヘイゲル以後ハートマン迄ノ分ハ一學年間ノ講義ヲ充タスニ足ルヲ以テ後日其講義ノ開クルヲ待チテ其當時ノ講義録ニ掲載スヘシ然リ而シテ獨逸學派ノ宗教論ニツイテハカントヨリシエリシクニ至ル迄ノ諸家ノ論ヲ一讀セバ其大要ヲ窺フニ於テ餘リアリトス

編輯員白

宗教哲學畢

H 18 15





013628-000-5

14-219

宗教哲学

井上 円了/述

M27

ABA-0097

